

2017年4月 医療保健学部 開設



Contents

02 Topics

- ・医療保健学部開設 - キャンパス紹介・2017 年度入学式・教授
就任挨拶・オープンキャンパス
- ・大学院医療保健学研究科が設置認可
- ・口腔リハビリテーション科新設
- ・睡眠歯科外来を新設
- ・歯学部教員 3 名が優秀発表賞など受賞
- ・平成 29 年度歯学系臨床能力試験トライアルを実施
- ・中学生たちの夏休み
- ・歯学部生が障がい者スポーツ『ボッチャ』大会にボランティア
参加
- ・『大阪歯科大・朝日カルチャーデンタル塾』が開講
- ・本学ホームページがリニューアル

17 2017 年度歯学部・大学院歯学研究科入学式

- ・理事長・学長式辞

19 歯学部教授就任挨拶

24 国際交流

- ・コロンビア大学から感謝状
- ・日本・アジア青少年サイエンス交流事業採択
- ・The 1st Forum for International Students 開催
- ・田中副学長が APUF に代理出席
- ・学生短期海外研修報告（四川大學華西口腔医学院、上海交通大學
口腔医学院、台北醫學大學口腔医学院、シドニー大学歯学部）
- ・昆明医科大学代表团、シドニー大学生本学訪問

34 行事報告

▶大学

- ・2017 年度 FD セミナー（第 1 回～第 7 回）
- ・2017 年度解剖体慰霊祭
- ・セレッソ大阪アカデミー選手歯科検診
- ・2017 年度父兄会・共済会総会
- ・高大連携 - 香里ヌヴェール学院高等学校（出前授業・1 年生来学）
- ・歯学部オープンキャンパス
- ・第 49 回全日本歯科学学生総合体育大会
- ・第 25 回大阪歯科大学公開講座（天満橋講座）
- ・2017 年度人権講演会
- ・2017 年度父兄会
- ・解剖体御遺骨返還式
- ・2017 年度体育祭・大学祭

- ・2017 年度子ども大学探検隊
- ・ひらかた市民大学 2017
- ・大阪歯科大学公開講座・特別講座
- ・実験動物慰霊祭
- ・2017 年度防災・防火訓練
- ・槻の木高等学校 1 年生来学
- ・2017 年教職員忘年慰労会

▶附属病院

- ・2017 年度歯科医師臨床研修 研修歯科医登院式
- ・2017 年度医療安全講習会
- ・2017 年度院内感染対策講習会
- ・健康セミナー
- ・附属病院管理運営事務研修会
- ・2017 年度医療機器安全管理講習会
- ・杉中学校で歯みがき・口腔ケアの講座を実施
- ・クリスマスコンサート

50 2016 年度事業報告

62 平成 28 年度決算報告

64 2016 年度監事監査報告

65 学位・博士（歯学）授与

65 平成 29 年度科学研究費補助金交付

68 平成 29 年度文部科学省医学教育等関係業務功労者表彰

69 平成 29 年春秋の叙勲受章者

69 プライバシーポリシー改定

70 寄贈

70 人事

76 あとがき



Topics

医療保健学部開設

キャンパス紹介

2017年4月1日、大阪歯科大学牧野学舎に医療保健学部を開設しました。前号でもお伝えしましたとおり、2016年8月31日付けで文部科学大臣から設置認可を受け、創立以来、単科大学としての道を歩んできた本学は、医療保健学部口腔保健学科・口腔工学科が加わり、2学部3学科を擁する歯科医療の総合大学として新たな一步を踏み出しました。口腔工学科は全国私立大学初の4年制歯科技工士養成機関、口腔保健学科は私大では全国3番目の4年制歯科衛生士養成機関になります。

医療保健学部新設に伴い、歴史ある牧野学舎も一期生を迎えるべく装いを新たにしました。旧ODUAnnex（福利厚生棟）は医療保健学部校舎1号館に、歯科衛生士専門学校棟は同2号館に、歯科技工士専門学校棟は同3号館にそれぞれ名称変更（各建物は専門学校と共用）。1号館には教員室のほか、コンピューター演習室・介護実習室・社会福祉学演習室・セミナー室などが、2号館にはデンタルチェアやマネキン・ファントムの実習室があります。



このたびの改修で、1号館とともに内外を一新したのは、旧食堂棟の福利厚生棟です。1階には学生ホールがゆったりと配され、その隣には相談室や資料閲覧室を備えた医療保健学部キャリアセンターを設置しています。また2階の学食エリアには丸善雄松堂株式会社が運営するカフェテリア、書籍・菓子類等を取り揃えた売店が入っており、152席ある内装は全体に明るい色調でまとめ、学部生がほっと一息できる空間となっています。



2017 年度医療保健学部入学式



2017 年度大阪歯科大学医療保健学部の入学式が 4 月 11 日（火）、楠葉学舎で行われ、栄えある第一期生が大学生活をスタートさせました。あいにくの雨天でしたが、桜はこの日を待ちわびていたかのように満開に咲き誇り、入学式を彩りました。国歌斉唱のあとの入学生点呼では、新入生の元気な返事が会場に響きわたり、川添堯彬理事長・学長による式辞に耳を傾ける姿も緊張している様子ではあるものの、初々しく、これから始まる大学生活への期待と可能性、エネルギーに満ちていました。

理事長・学長式辞

理事長・学長 川添 堯彬

この時期は三寒四温を繰り返しながら、着実に春が到来しています。この良き日に、大阪歯科大学医療保健学部入学式を挙行了しましたところ、保護者各位、大阪歯科大学生駒等同窓会長様、両専門学校の同窓会長様をはじめ、本学の理事、役員、名誉教授、歯学部教授、医療保健学部教授、教員の方々には、この場にご臨席を賜り、誠にありがたく光栄に存じます。



本医療保健学部は、国並びに時代の要請と期待を受けて、本年 4 月 1 日に新たに開学した 4 年制大学であり、口腔保健学士の学位または口腔工学士の学位、また、社会福祉士の国家資格を取得できます。まもなく法制化されます専門職大学や専門職大学院制度と並んで、将来、多職種連携や多職種協働の新しい



医療形態の中で活躍する人材を養成する大学でございます。その第一期生にあたる、ここにいらっしゃる新入生の皆さんには、将来の新しい医療人としての大きな期待がかけられています。

この度、本学を志願されてここに合格された優秀な方々の出身地は、まさに全国各地に広域に渡っており、近畿一円はもとより、北は山形県、山梨県、長野県。そして東海北陸 4 県。中国四国からは山口県、岡山県、愛媛県の 3 県。九州は福岡県と熊本県。そして外国は中国山東省からの 18 国府県から入学されています。このことに私たち大学としましては非常に感激しております。これからの国づくりにかけて新しい医療の形態を普及していただくためにも、教えがいを感じております。将来の日本の歯科医療を、グローバルな視点でレベルアップを図りたいと、熱意に燃えているわけでございます。新入生、特にあなたたち第一期生が、将来、この医療分野のトップランナーとして牽引者に育ってくれることを心からお願いいたしまして、理事長および学長からの式辞いたします。





医療保健学部教授就任挨拶

2017年4月1日付けで7名の先生が医療保健学部教授に就任されましたので、以下ご略歴とご挨拶を掲載いたします。

医療保健学部学部長	口腔保健学科教授	小正 裕		
口腔保健学科 教授	和唐 雅博	口腔工学科 教授	柿本 和俊	
口腔保健学科 教授	要田 洋江	口腔工学科 教授	楠本 哲次	
口腔保健学科 教授	糸田 昌隆	口腔工学科 教授	都賀谷 紀宏	

医療保健学部学部長 口腔保健学科教授 小正 裕

2017年大阪歯科大学は歯科衛生士を養成する口腔保健学科、歯科技工士を養成する口腔工学科からなる4年制の医療保健学部をスタートいたしました。医療保健学部は大阪歯科大学に付属する恵まれた教育環境の中で、様々な職種と連携できるプロフェッショナルの育成を目指しています。



歯科医療を支える医療職としての歯科衛生士と歯科技工士の役割は拡大し、高度な知識と技能が必要となってきました。近年の超高齢社会にも対応できる人材の育成が急務です。『加齢に伴う種々の機能低下を基盤とし、種々の健康障害に対する脆弱性が増加している状態』の高齢者をフレイルとよび社会問題視されています。最近の研究では、フレイルリチサイクルの各要素に口腔機能の低下が影響していることが明らかにされています。高齢者のQOLの向上には口腔機能の回復および口腔衛生管理が必須であり、歯科医師のみならず歯科衛生士の持つ役割は非常に重要です。

近年、歯科衛生士は臨床現場だけではなく、様々な医療機関、歯科関連企業、福祉施設、教育機関、行政機関等、活躍のフィールドがますます広がっています。したがって「広く社会で歯科医療の発展に貢献できる医療人」の育成には、現行の養成課程では困難であり、将来を見据えた4年制の大学を設置しました。

歯科医療は、歯科技工士なくして患者様の口腔内の健康を守ることは不可能です。現在は患者様の前に登場する機会は少ないですが、現実には縁の下の力持ちとして歯科医療にとって切っ

ても切り離せない関係です。また、日本の歯科技工士の技術は世界で認められているのも事実です。日本人の高いレベルの技術は、よりグローバルなものでなくてはなりません。我々はこの匠の技とグローバルに活躍できる先進のテクノロジーを融合した人材の育成を目指しています。

両学科ともに、これまでの専門学校ではなく、大学であることから、4年間というこれまでにない充実した教育期間で、専門学校卒業という枠組みを超えて大阪歯科大学の卒業生の一人として、今後の歯科医療を担う人材としての第一歩を進めることとなります。

さらにワンランクアップの専門性を目指して

大阪歯科大学医療保健学部では2018年度より大学院研究科を設置いたします。現在、社会で活躍する歯科衛生士、歯科技工士の中には実践的な知識や経験がある一方で、より高度な専門性の高い知識や技能の修得に意欲を持つ人がいます。そのような人に対し、本研究科では教育方法や研究方法を学修することにより、研究者、教育指導者への道を広げてまいります。このような人材は、大学院修士課程の教育を受けることによって、経験を生かした実践的な学生教育や研究に大いに貢献するとともに、社会においては、就業している経験の少ない歯科衛生士や歯科技工士の優れた指導者となると考えます。本学大学院課程を修了した歯科衛生士・歯科技工士が日本の歯科医療の将来を担う人材となることを祈念しております。



医療保健学部口腔保健学科 学科長・教授

和唐 雅博 わとう まさひろ

歯学博士 / 1954 年生まれ



<学歴>

- 1979 年 3 月 大阪歯科大学歯学部卒業
- 1979 年 5 月 第 65 回歯科医師国家試験合格
- 1983 年 3 月 大阪歯科大学大学院歯学研究科博士課程修了
歯学博士の学位を受領

<職歴>

- 1983 年 4 月 大阪歯科大学助手（口腔病理学講座）
- 1996 年 4 月 大阪歯科大学講師（口腔病理学講座）
- 2016 年 4 月 大阪歯科大学准教授（口腔病理学講座）

2017 年 4 月 1 日付けで医療保健学部口腔保健学科教授を拝命いたしました。医療保健学部は、川添堯彬理事長・学長のご発案により、これからの歯科医療の変革に対し、歯科衛生士、歯科技工士がより高度な知識や技術を修得する必要があることを鑑み、2017 年 4 月 1 日に 4 年制の新たな学部として誕生しました。また、2018 年 4 月 1 日には大阪歯科大学大学院医療保健学研究科口腔科学専攻の大学院修士課程も開設されます。

私は、1979 年に大阪歯科大学を卒業し、ただちに口腔病理学講座の大学院に入学し大学院修了後助手として採用されました。以来、口腔病理学講座で教育・研究・病理組織診断に 35 年間取り組んでまいりました。研究は、主に外科病理学の分野で生検や手術で得られた材料を用いて免疫組織学的方法で口腔に発生する疾患の特徴の検討を行ってきました。これまでに培った経験を活かし、医療保健学部の発展に貢献できるように努めてまいります。

医療保健学部は、建学の精神に基づいて専門技能に加えて「博愛」の精神をもって患者が抱える問題を解決すると

もに、自らが得た知識や考案した技能を「公益」の精神をもって世に提案して社会に貢献できる優れた素養を持つ人材を育成する。また、口腔保健学科では、歯科衛生士としての技能に優れるだけでなく、口腔の健康に寄与する意欲を持ち、口腔から全身の健康の向上を図る方略を勘案し、今後の歯科医療の発展に貢献できる人材を養成することを目的としています。

大学教育では高校と異なり、自ら学ぶことが必要であります。新たに大学における専門教育を学ぶには、高校で学んだことを基礎としていますが、入学時の準備が必ずしも充分とはいえないようです。第 1 学年では、主に教養教育、基礎口腔科学を学び、2 学年では、社会口腔科学、臨床系専門学、歯科保健指導、臨床実習などを学び、3 学年では、口腔保健臨床実習、口腔医学隣接教育などを学び、4 学年では、口腔保健訪問実習、総合教育を学びます。1 年生から教養科目や基礎学力を向上させ専門科目さらに臨床教育・実習へのスムーズな移行を目指し、入学時から 4 年間を見通した系統的かつ効率的な教育を目指し、国家試験の

合格につなげたいと存じます。

我が国では、今後も高齢化が進み歯科医療の変革の時期を迎え、歯科衛生士の三つの柱である歯科予防処置、歯科診療補助、歯科保健指導に加え、更に口腔機能の回復、要介護高齢者、障がい者、医科歯科連携を含めたチーム医療など口腔から全身の健康も担う、より高度な先進医療が求められています。国民の健康に寄与できる歯科衛生士を養成する所存でありますので、医療保健学部に対し皆様のご指導、ご鞭撻をよろしく願いいたします。

医療保健学部口腔保健学科 教授

要田 洋江 ようだ ひろえ

博士（学術）/1951年生まれ

<学歴>

1972年3月 東京学芸大学教育学部卒業

1977年9月 明治学院大学大学院社会学研究科社会学・社会福祉学専攻中途退学

2001年3月 博士（学術）の学位を受領（大阪市立大学）

<職歴>

1977年10月 大阪市立大学生活科学部社会福祉学科助手

1981年11月 米国ウエスタン・ミシガン州立大学社会学部客員研究員

1991年9月 フルブライト研究員

（米国カリフォルニア大学ロサンゼルス校社会福祉大学院）

1995年4月 大阪市立大学生活科学部人間福祉学科講師

1999年4月 大阪市立大学生活科学部人間福祉学科助教授

2007年4月 大阪市立大学大学院生活科学研究科教授

2016年4月 大阪市立大学名誉教授



これまで歯科医療分野の単科大学であった大阪歯科大学は、これからの社会に必要な高等教育の場として、歯科衛生士専門学校と歯科技工士専門学校を発展的に解消し、新たに社会福祉士を養成するコース（選択）を加えて4年制学部とした医療保健学部を誕生させることにより、2学部体制となりました。

したがって、大阪歯科大学医療保健学部の卒業生は歯科衛生士・歯科技工士と社会福祉士とのダブルの国家資格を手に入れることも可能になりました。つまり、医療保健学部は、歯科衛生士、歯科技工士の将来を見据えて、歯科衛生士あるいは歯科技工士が、地域で社会福祉士とタッグを組み連携を進めることを可能とする人材育成の場をつくり、新たな高度専門職を生みだすことを社会に宣言したといえましょう。

現在、日本政府は、日本の喫緊の課題である超高齢社会を前に、病院やホームなど、施設内で専門的治療、ケアが担われてきた、これまでの時代とは異なり、社会の構成員が住み慣れた地域の中で、施設ではなく在宅で医療、介護、福祉サービスを受けることを可能とする地域づ

くりを推進していますが、医療保健学部で進められる教育の先進性は、それらのサービスを地域で一体として提供することを可能とする「地域包括ケアシステム」を担う人材養成とも合致していることです。まさに、高等教育機関として次の時代を見据え新たな道を模索する、チャレンジ精神旺盛な大阪歯科大学に心より敬意を表したいと思います。

そのような社会背景において、私は、2017年4月より医療保健学部新たに開設された社会福祉士コースの教授として、大阪歯科大学に赴任いたしました。さらに、2018年4月よりは、大学院修士課程が開設され、「医療保健政策学」の教授として大学院教育にも携わることとなりました。

私は、東京生まれ東京育ちではありますが、就職のため関西の地に来て早40年が経ちます。関西の地に来てより、関西文化を学び今日までできましたが、この度は、歯科医療分野という、これまで患者としては馴染みがあっても、はじめて踏み入れる分野です。すでに述べましたように、地域包括ケアシステムを作り上げるには、そしてシステムが一体として

機能するには、「多職種連携」のあり方が大変重要な鍵となります。チーム医療だけでなく、分野の異なる専門職間をいかに繋いでいけるかということが大きな課題です。

私の専門は、家族社会学、障害学、福祉社会学です。障害児・者とその家族をとりまく現代日本の問題状況の分析、および障害をもつ人々との共生をめざす、人間を尊重した新しい社会福祉システム構築に関する研究を行ってまいりました。当事者の視点を重視した研究は、先駆的にジェンダー平等の視点を踏まえた障害者問題研究の領域を確立し、量的研究から質的研究へ、また、既存の学問の垣根を越えて取り組み、その成果は、近代知の枠組みを問う「障害学会」「福祉社会学会」の立ち上げにも貢献しました。

私の今日までの研究者への道の原動力は、目の前にある問題を解決することへの強い好奇心です。ただ好奇心でのみ未開拓分野を切り開いてまいりました。この好奇心を大いに働かせ、微力ではありますが、大阪歯科大学医療保健学部の教育、そして大学院での研究の土台作りに寄与したいと思います。

医療保健学部口腔保健学科 教授

糸田 昌隆 いとだ まさたか

博士（歯学）/1963 年生まれ



<学歴>

1988 年 5 月 朝日大学歯学部卒業

1989 年 5 月 第 82 回歯科医師国家試験合格

2004 年 6 月 博士（歯学）の学位を受領（大阪歯科大学）

<職歴>

1989 年 4 月 加納歯科医院入職

1990 年 3 月 加納歯科医院退職

1991 年 8 月 若草第二竜間病院入職（非常勤）

1995 年 4 月 若草第二竜間病院医長

2000 年 4 月 わかくさ竜間リハビリテーション病院歯科科長

2004 年 4 月 わかくさ竜間リハビリテーション病院診療部長

この度、学校法人大阪歯科大学理事会のご承認をいただき、2017 年 4 月 1 日付けで大阪歯科大学医療保健学部・口腔保健学科教授を拜命いたしました。また合わせて 2017 年 5 月 1 日より大阪歯科大学附属病院において新診療科である口腔リハビリテーション科にて診療に従事しております。

大阪歯科大学の永き歴史の中において二番目の学部となる医療保健学部の設立と同時に教授に就任いたしましたことは、臨床の場に身を置いてきました私にとって重責であるとともに新たな緊張感で身が引きしめる思いです。

就任にあたり私なりの今後の研究と教育活動、臨床についての抱負などを申し上げ、ご挨拶にかえさせていただきます。

まず研究分野ですが、私自身の学位論文でもあります嚥下機能と口腔と歯科治療の関わりをベースとし、全身と口腔との関連性をより明らかにすること、また臨床上より効果的な歯科的・口腔機能アプローチ法の検証を考えております。この分野では未だ心身機能低下と口腔の関連性と口腔機能障害の分類は行えておら

ず、治療上の効果的な介入法を開発するうえでも必須の研究分野であると考えており、私自身が参加しています医科歯科連携の研究プロジェクトにおける数年間での研究で、全身疾患を排除し、加齢と廃用による自然な口腔機能・嚥下機能の低下を抽出可能なスクリーニング・アルゴリズムを開発したところです。これまでの研究結果を踏まえ、今後治療法を含め波及的に研究を進めてゆきたいと考えております。

次いで教育について、私自身の大きな抱負は学生の“医療を志した純粋な気持ちを大事にしたい”と考えています。学生自身が真摯にその純粋な気持ちに向き合える場や問いかけを提供し、そこから自身が導き出すあるべき姿を私なりにアドバイス・修正をしながら、ものを言わずとも自身の所作によって患者さんや周りの方々に安心感を提供できる医療者を育成したいと考えています。またカリキュラムには多職種連携やリハビリテーションなど新たな分野があり、新しい歯科医療職像の醸成、オピニオンリーダーになりうる人材の育成ができればとも考

えています。しかしながら国家資格を取得することが必須である限り、厳しい現実を見据えながらの試行錯誤もあるかと思えます。大いに私自身もさまざまに葛藤し学んでいきたいと思えます。

最後は臨床分野についてですが、担当します口腔リハビリテーション分野においては、患者さん自身が認識のないまま口腔機能の低下を放置していることが多くあり、一般の方々と医科歯科医療従事者への啓発と、診療室から患者さんを通じた発信に努めたいと思えます。患者さんの幸せに寄与することを念頭に、多くの患者さんに来科してもらえよう努力していききたいと思えます。

長らく臨床の場で培ってきました経験を少しでも活かし、教育、研究、臨床を通じて大阪歯科大学の教育と医療に貢献できるよう努めてまいります。しかしながら、大学人としてはまだまだよちよち歩きの状態です。皆様の叱咤激励、ご指導ご鞭撻の程改めてよろしくお願い申し上げます。



医療保健学部口腔工学科 学科長・教授

柿本 和俊 かきもと かずとし

歯学博士 / 1957 年生まれ

<学歴>

- 1982年3月 大阪歯科大学卒業
- 1982年5月 第71回歯科医師国家試験合格
- 1987年3月 大阪歯科大学大学院歯学研究科博士課程修了
歯学博士の学位を受領

<職歴>

- 1987年4月 大阪歯科大学助手 (歯科補綴学第一講座)
- 2000年4月 大阪歯科大学助手 (高齢者歯科学講座)
- 2003年4月 大阪歯科大学講師 (高齢者歯科学講座)



大阪歯科大学に新たに設置されました医療保健学部において、2017年4月1日付けで口腔工学科の教授を拝命いたしました。これまで支えていただいた非常に多くの方々に深甚なる謝意を表します。

医療保健学部には歯科衛生士を養成する口腔保健学科と歯科技工士を養成する口腔工学科の二つの学科があります。

学部設置にあたりましては、ご指導とご鞭撻を賜りました多くの方々に深く感謝しております。また、設置に関わらせていただき、大学教育や組織について改めて勉強する機会を得たことは、とても有難いことであり、この経験は、私にとっての財産となるとともに、今後の学生教育に生かしていきたいと考えております。

歯科医療は社会の高齢化やデジタル化を中心とした技術の進歩によって大きく変革しつつあります。今後の歯科衛生士と歯科技工士は、単に歯科医師を助ける役割だけではなく、専門性を高めて、歯科医師と協調して健康に寄与できなければなりません。医療保健学部の使命は、業務に必要な知識と技能を持った歯科衛生士や歯科技工士を養成するだけではな

く、歯科医師とともに今後の歯科医療を担える人材を養成することであるといえます。すなわち、「博愛」の精神を以て患者が抱える問題を解決するとともに、自らが得た知識や考案した技能を「公益」の精神を以て世に提案して歯科医療を通じて社会に貢献できる人材を養成することです。そのためには、倫理観、コミュニケーション能力、問題抽出と解決能力及び医療・福祉の分野を含めた多職種連携能力を身に付ける必要があります。

このような医療保健学部が目的とする人材の養成のために、カリキュラムを構成し、設備を整えていただき、完成年度に向けての計画を進めております。しかしながら、実際に学生が入学して学部が動き始めると、解決しなければならない問題が数多く浮かび上がってきています。これらの問題の一つ一つ教職員が一体となって取り組んでおります。私自身は、これまで、「高齢者歯科学」や「歯科補綴学」の教育を中心に取り組んできましたが、新たな職務につき、未熟さを痛感し、教育方法や学生指導についての知識と情報を仕入れ、対応を勘案しております。そして、名実ともに医療保健学部の完成を目指しております。

さらに、私が担当します口腔工学科の使命に、歯科技工士数の増加があります。近年、歯科技工士養成所の入学者数が減少し、閉鎖する養成所もあって、大きな問題となっています。歯科技工士なくして、歯科医療は成り立たないのが現状です。歯科技工士の減少は歯科医療の崩壊にもつながりかねません。大学教育を通じて歯科技工士の職業としての魅力を高め、入学希望者を増加させることが、歯科医療にとって非常に重要であると考えております。

2018年4月には、教育者と研究者の養成を目的として大学院医療保健学研究所が設置されます。大阪歯科大学は歯科医療の発展に大きく寄与する教育機関としての先陣を務めなければならないと考えております。自分自身の職務の重要性を認識し、切磋琢磨し大阪歯科大学、そして歯科医療の発展に少しでも寄与できるように、傾注する所存です。今後とも皆様方のご指導と鞭撻をよろしく願いたします。



医療保健学部口腔工学科 教授

楠本 哲次 くすもと てつじ

歯学博士 / 1956 年生まれ

<学歴>

1981 年 3 月 大阪歯科大学卒業

1981 年 5 月 第 69 回歯科医師国家試験合格

1986 年 3 月 大阪歯科大学大学院歯学研究科博士課程修了
歯学博士の学位を受領

<職歴>

1986 年 4 月 大阪歯科大学助手 (歯科補綴学第二講座)

1999 年 4 月 大阪歯科大学講師 (有歯補綴咬合学講座)

2017 年 4 月に大阪歯科大学の歯学部とは別に、口腔保健学科と口腔工学科の二つの学科を持つ医療保健学部が開設され、私は口腔工学科の教授として着任いたしました。

数年前から文部科学省に提出する書類を作成し、認可をいただいてからは、初めて入試問題の作成などにも取り組み、入学式までは肅々と緊張感漂った時間を過ごしていました。

新学部が発足してからは、牧野学舎に移りました。通用門、森林、学舎など約 40 年前の学生時代の面影はあるものの、講義室などの環境、教職員、教育内容など、これまでとは異なっています。大阪市大、京大、広大など、他大学で教鞭をとっておられた先生、歯科関係でない先生方と共に教育をすることになります。また、新学部を世にアピールし、多くの学生に来てもらうため、オープンキャンパスを数多く実施し、近隣の高校や沖縄にも行ってきました。キャリア支援や宣伝のために歯科技工所や企業を訪問するなど、歯学部の時には経験しなかった活動を行っています。会議も学生に関する事項ばかりです。

担当科目は、クラウンブリッジ学の講

義、クラウンブリッジ技工学実習 I II III、オーラルプライアンス学の講義、オーラルプライアンス技工学実習、口腔工学総論、口腔工学訪問実習です。講義は両学科共通にあり、それ以外の実習と総論は口腔工学科単独で行います。そのなかで、オーラルプライアンス学は、顎口腔領域で使用する各種プライアンスを通して、必要とされる背景や病態、各種器具器材の取り扱い方などを学んでもらおうと、学部申請の折、大学の目玉の一つになればと思い、作った学問です。講義や実習では、プライアンスを扱う会社を起業した歯科技工士、スポーツ関連会社に務める歯科技工士、スポーツを通して生徒の健康教育や指導を行っている現役の高校野球監督などを招いて、学生のための講義・実習作りに取り組んでいます。

学生教育では、医療、介護、福祉など多くの場面で、直面する問題や課題に対応、解決できるような創造的問題解決能力を培う教育を目指したいと思っています。多職種協働で連携してやっていくためには、教員からの受動的教育や一人で机に向かって学ぶやりかたでは限界があります。問題解決を必要とする場面、状

況、使用する器具・器材など、教育資源を準備し、紙ベースによる視覚的で平面的な知識ではなく、体験的環境のなかで、アクティブに推進していきます。チーム学習を軸に、学生の主体性を重んじ、お互いに協力しあって、課題や問題点を考え、発表や質疑応答ができるような実力をつける講義の体制づくりを目指していきます。評価においても、教師側からだけでなく、学生相互間で評価できる基準やマニュアルを作成しています。

2017 年 8 月には大学院医療保健学研究科修士課程が認可され、2018 年 4 月開校に向け、大学院生の募集、入試がすでに行われています。私は、先進口腔工学分野の大学院教授として研究指導を行うこととなりますが、今後とも学部の教育も含め大阪歯科大学の皆様、保護者の皆様方の叱咤、激励、ご指導をお願いいたします。

最後に、牧野学舎は空気がおいしく、緑が多いところです。ガーデニング部の学生さんと一緒に色々な花を植えて、明るくきれいで、心・技・体を培う居心地のいい学舎にしたいと考えています。



医療保健学部口腔工学科 教授

都賀谷 紀宏 とがや としひろ

歯学博士 / 1952 年生まれ

<学歴>

1975 年 3 月 京都工芸繊維大学卒業

1977 年 3 月 京都工芸繊維大学大学院工芸学研究科修士課程修了
(無機材料工学専攻)

1986 年 7 月 歯学博士の学位を受領 (朝日大学)

<職歴>

1979 年 4 月 京都大学医学部助手 (医用材料学講座)

1980 年 4 月 京都大学医用高分子研究センター助手

1990 年 4 月 京都大学生体医療工学研究センター助手

1991 年 2 月 シドニー大学歯学部客員研究員

1999 年 4 月 京都大学再生医科学研究所助手

2007 年 4 月 京都大学再生医科学研究所助教



この度、2017 年 4 月 1 日付けをもちまして、大阪歯科大学医療保健学部口腔工学科の教授に就任いたしました都賀谷紀宏と申します。伝統ある本学教員の一人に加えていただいたことに感謝しております。

これまで、私は歯学部のない大学に所属しておりましたが、主に歯科材料ならびに歯科加工技術に関する研究に従事してまいり、また、歯科技工士専門学校、歯科衛生士専門学校において、非常勤講師として歯科理工学分野、歯科材料学分野の教育に 40 年近く携わってきました。従いまして、本学教授に就任できましたことで、やっと歯学の環境の中で仕事に従事できるということになり、嬉しく思っております。私に残された期間はわずかですが、少しでも歯学教育のお役に立てるよう努めますので、何卒よろしくごお願い申し上げます。

さて、本学部は 2017 年 4 月に本学に新設され、口腔工学科、口腔保健学科の 2 学科を有しますが、それぞれ歯科技工士養成課程、歯科衛生士養成課程を含んでおり、卒業生は歯科技工士国家試験受

験資格、歯科衛生士国家試験受験資格が得られます。すなわち、本学部は、4 年制の歯科技工士養成教育機関、歯科衛生士養成教育機関という役目を担っているということになります。これまで、そして現在なお、歯科技工士教育、歯科衛生士教育は、そのほとんどが 2 年制または 3 年制で行われていますので、本学での教育は 1 年～2 年長いということになりますが、“この差をいかに活かすか”が本学部教育の課題であると考えております。特に歯科技工士教育においては、倍の教育年限でありますから、その成果に大きな期待が寄せられていると思われま。以下に、私の所属する口腔工学科での私の課題、目標について述べさせていただきます。

現在の歯科技工業界は、若手歯科技工士の離職率の高さや歯科技工士就業者の高齢化、また、歯科技工士学校入学者の減少など様々な問題を抱えています。歯科技工は、歯科医療の重要な分野の一つであることは周知のことではありますが、このような問題がゆえに、現在、その担い手である歯科技工士数が減少してきて

おり、さらに今後も減少することが予測されています。このことに対する一助として、最近著しく進歩している歯科技工技術のデジタル化に期待が寄せられており、徐々にこれに関する技術が普及してきています。すなわち、現在はアナログ歯科技工からデジタル歯科技工への過渡期と考えられますが、今後デジタル技工が歯科技工技術の大半を占めるようになったとき、歯科技工分野の担い手の活躍の場、活躍の形が、様々な意味において、現在とは異なった様相になると考えられます。その時代は、早ければ 10 年後、遅くとも 30 年以内にやってくるといわれています。そのような新たなステージで活躍し、リーダーシップをとれるような人材の育成が求められており、それが本学部口腔工学科に課せられた使命だと私は考えております。今後このような人材の育成に少しでも貢献できるよう努める所存でありますので、ご指導ご鞭撻の程、よろしくごお願い申し上げます。

医療保健学部オープンキャンパス2017

医療保健学部オープンキャンパスは、牧野キャンパスを主会場として、2017年4月から12月にかけて計8回実施し、参加者数は延べ550名（うち、高校生318名）でした。

オープンキャンパスでは、医療保健学部の概要説明をはじめ、歯科衛生士専門学校・歯科技工士専門学校卒業生で、歯科医療の現場や歯科関連企業で活躍している方々による体験講義、本学部教員による模擬授業、口腔保健学科と口腔工学科それぞれの特色を生かした体験実習、入試・教学に関する個別相談を行いました。8月は、天満橋キャンパスでの附属病院見学を中心としたプログラムを組み、小児歯科、保存系・補綴系診療科、高齢者歯科、中央技工室など診療の現場を見学しました。

医療保健学部オープンキャンパスも2年目を迎え、地道な高校訪問活動やプログラムの充実を図り、参加者とともに回を重ねるごとにリピーターも増えました。参加者アンケートでは、「附属病院があり、社会福祉士コースも履修できるという、4年制大学ならではの強みがよくわかりました」「体験実習でリア



ルに歯科衛生士の仕事を感じることができ良かったです」「他の大学や専門学校のオープンキャンパスに行き、最後に大阪歯科大学に来ました。私の中で一番この学校に来たいと思いました」などの感想が寄せられました。

12月には、一般入試直前の時期に高校生とその保護者を対象として、『入試相談 Week』を開催し、個別相談やキャンパス見学を行い、面接対策、過去問題配布など受験希望者に役立つ



情報を提供しました。

2018年第1回オープンキャンパスは、3月18日(日)に開催します。4月から新3年生となる高校生が本格的に進路選択に動き出すとても重要な時期です。本学部を志望する高校生にとって、満足度が高いプログラムを実施し、医療保健学部の魅力を最大限に実感してもらえるようなオープンキャンパスを開催する予定です。

【医療保健学部オープンキャンパス2017】

4月2日(日)、5月14日(日)、6月18日(日)、7月23日(日)、8月15日(火)、9月18日(月・祝)、10月9日(月・祝)、12月10日(日)

【医療保健学部入試相談 Week】

12月18日(月)～12月22日(金)

●大学院医療保健学研究科が設置認可

2017年8月25日の大学設置・学校法人審議会において、大阪歯科大学大学院医療保健学研究科口腔科学専攻（修士課程）の認可が正式決定されました（認可日：2017年8月29日）。これにより、2018年4月から日本の私立大学で2校目となる口腔科学を中心とした大学院がスタートします。

本研究科では、口腔科学、すなわち口腔保健学または口腔工学に関する教育者と研究者としての能力、高度な専門的知識と技能および医療保健学についての広い見識を持つ人材を養成してまいります。

現在、社会で活躍する歯科衛生士、歯科技工士の中には実践的な知識や経験がある一方で、より高度な専門性の高

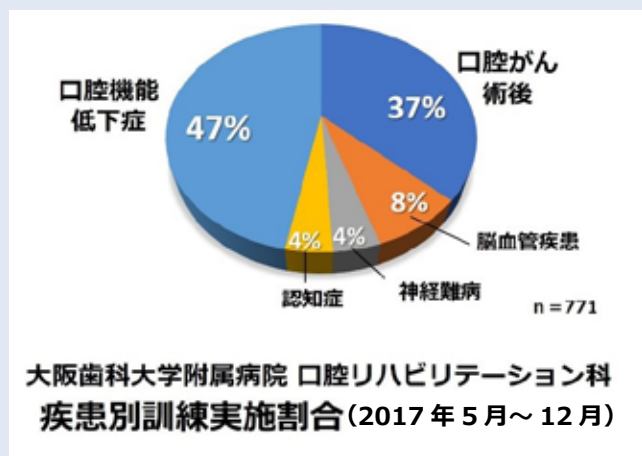
い知識や技能の修得に意欲を持つ人たちがいます。本研究科ではこうした方々に対して、教育方法や研究方法を学修することにより、研究者や教育指導者への道を広げてまいります。

歯科衛生士・歯科技工士の皆さん、ご自身の力量を高めるため、今後の歯科医療発展のため、本研究科で学んでみませんか。大学を卒業していなくても(学士の学位を持っていなくても)、本研究科で学ぶことができます。

●口腔リハビリテーション科新設

2017年5月1日、大阪歯科大学附属病院に口腔リハビリテーション科が新設され診療を開始しました。診療体制は歯科医師2名(糸田・島田)、歯科衛生士1名(今井)、非常勤歯科医師1名(貴島)の4名であり、治療目的は摂食嚥下障害、音声・言語障害、その他口腔の機能障害のリハビリテーション的アプローチによる回復です。

開設以来約8カ月が経過し当科の役割や傾向が明確になってきました。開設当初は対象患者さんの主訴と症状として1.食べられない2.飲み込めない3.話せない4.ろれつがまわらないなどの訴えを想定しており、これら症状(障害)への対応(訓練と歯科治療)はもちろんですが、障害の原因となる原疾患に想定とは異なる様相がみられています(図)。



当科にはさまざまな疾患を原因とした障害をもつ患者さんが来科されます。中でも院内・外から口腔外科手術後の機能障害への対応を依頼いただくことが非常に多くなりました。大阪歯科大学附属病院の診療体系からすると当然のことかもしれませんが

んが、新診療科としてはありがたくも想定以上の状況です。また本年度から保険収載されている、フレイルやオーラルフレイルを含む口腔機能低下症の患者さんも思いのほか、多く来科されています。その他重度の嚥下障害などの症状がみられる脳血管疾患、神経難病(特定疾患)、認知症の方などが来科されリハビリテーションを実施し数年ぶりに経口摂取が可能になった方もおられます(写真)。また診療以外の業務として、地域の



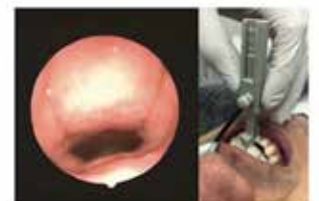
各特定機能病院入院患者さんやご家族からの入退院時セカンドオピニオンとしてのコンサルテーション業務も増えています。

口腔リハビリテーション科では今後も院内はもちろん地域の患者さんと医療者の方々の声を参考に、様々な口腔に起因する障害に対応し、合わせて微力ながら附属病院と地域とを繋ぐ役割を担っていきたいと考えています。ご紹介、ご相談などありましたらいつでもご連絡ください。

●睡眠歯科外来を新設

2003年の新幹線運転手の居眠りニュース以来、メディアで睡眠時無呼吸症が取り上げられることが多くなり、その病気の存在が広く国民に認知されるようになってきました。2004年に睡眠時無呼吸症に対する口腔内装置治療が歯科保険点数に収

載され、最近では、家族にいきいきと無呼吸を指摘され歯科医院を受診する患者さんが増加しており、睡眠医療において歯科が求められていま



Topics

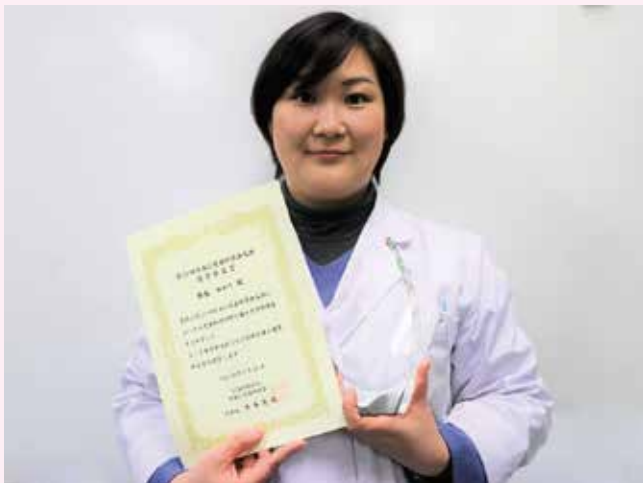
す。このニーズに応えるために、大阪歯科大学附属病院では、2017年9月に睡眠歯科外来を開設しました。本外来では、側方頭部X線検査や内視鏡検査などにより、無呼吸が生じている上気道形態を評価した上で、口腔内装置治療を行っています。専門外来が開始して以来、周辺の医療機関の内科、呼吸内科、精神科、耳鼻咽喉科など様々な診療科から紹介があり、患者さんも徐々に増えつつあります。今後も、地域の医療機関と医科一歯科連携を行い、睡眠時無呼吸症に対する睡眠歯科医療を行ってまいります。



● 歯学部教員 3 名（篠永ゆかり講師・河合咲希助教・河井まりこ講師）が優秀発表賞など受賞

本学歯学部小児歯科学講座の篠永ゆかり講師と河合咲希助教が、5月25日（木）・26日（金）に行われた第55回日本小児歯科学会大会で、それぞれ優秀発表賞を受賞しました（篠永先生はSHOFU AWARD とのダブル受賞）。同大会の優秀発表賞では、134演題の中から抄録審査があり、さらにその中から学術委員約10名が23演題を選出し、当日審査で6演題が選ばれました。受賞した6演題のうち2演題が、本学小児歯科学講座の教員が発表したものでした。

篠永先生は『アパタイトアイオノマーセメントの開発研究—粉末と液の配合量の違いが及ぼす影響—』と題したポスター発表を行いました。SHOFU AWARD は発表演題の中で特に材料系の研究で優れた発表に、優秀発表賞は大会全体で優れた発表に贈られる賞です。先生は、歯科用セメントの一種で、ガラス粉末とポリアクリル酸水溶液とでできているガラスアイオノマーセメント（glass ionomer cement、以下 GIC）に歯の主成分であるハイドロキシアパタイトの粉末を加えた新規材料アパタイトアイオノマーセメント（以下、AIC）の開発に取り組んでい



ます。今回、篠永先生は、AIC 中の GIC 粉末とハイドロキシアパタイト粉末、GIC 液の配合量の違いがフッ素の徐放性や機械的強度にどのような影響を与えるのかを調べ、発表しました。篠永先生は受賞について「有田教授のご指導や大学院生の協力の賜物」と話しました。また、この研究は実用化・商品化することを視野に続けているといい、う蝕になる前に予防できたり、深いう蝕でも削らずに治療できる材料としてこの新規材料 AIC



が市販され、世界中で使ってもらうことが最終目標だと話しました。

河合先生は『低酸素培養による乳歯歯髄由来細胞の分化能への影響』と題したポスター発表を行いました。先生の研究発表は、乳歯の中にある歯髄細胞を低酸素の状態でも培養することで、乳歯歯髄細胞が持つ分化能（異なる細胞に分化する能力）がどのような反応を見せるかを検討したものです。乳歯の歯髄細胞は誰もが持っているものであり、自然脱落するために痛みや身体に対して侵襲を伴わずに採取できる幹細胞の供給源として、現在の歯科領域で注目されています。さらに最近の研究では低酸素培養を行うことで、永久歯歯髄由来細胞や歯根膜由来細胞で、その幹細胞特性を維持できることが報告されており、今回はもともと永久歯歯髄由来細胞などと比較して増殖能や分化能に優れている乳歯歯髄由来細胞ではどうかという検討を行いました。乳歯歯髄由来細胞の研究が進めば、いずれは iPS 細胞のように再生医療への応用がさらに期待できるのではという



ことです。今後も乳歯歯髄細胞の可能性を広げるため、さまざまな研究を行っていく予定です。



6月17日(土)・18日(日)に行われた第37回日本歯科薬物療法学会学術大会では、本学歯学部薬理学講座の河井まりこ講師が『非外科的歯槽骨再生薬物療法に向けての動物モデル』と題して口頭発表し、優秀発表賞を受賞しました。

河井先生は、バイオ医薬品として新たな注目を集める遺伝子治療に着目し、これまで利用の難しかった骨形成蛋白(Bone Morphogenetic Protein:BMP)を遺伝子治療へ応用し、目的の部位へ安全かつ簡便に骨を誘導する実験に成功しました。「口腔外科学講座で臨床に携わっている時、インプラント治療のために自家骨移植術をした患者さんの大変さを体験したことが、骨の再生治療の研究を始めるきっかけとなりました。今回の成果を早期に実用化し、安全で簡便な骨の再生治療法として確立したいと考えています」と受賞の喜びを語った河井先生。現在の治療では顎の骨が減少した患者さんへ、インプラント治療などを行う際には人工骨や自家骨の移植など、外科的処置を伴った骨再生治療が一般的ですが、今回の成果が実用化されれば、高齢の患者様などにも負担なく顎の骨を増やすことが可能とのことです。

●平成29年度歯学系臨床能力試験トライアルを実施

12月20日(水)・21日(木)の2日間、臨床実習後臨床能力試験トライアルを実施しました。臨床能力試験は公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構(CATO)の共用試験歯学OSCE実行委員会が実施主体となり、「臨床実地試験」と「一斉技能試験」をパッケージ化して行うもので、臨床実習終了時の歯学生の臨床能力を評価します。

20日に行った「一斉技能試験」では複数の疾患を再現した共通模型を使い、高頻度歯科治療についての学生の治療技術を評価します。これにより、臨床実習終了時に歯科医師に求められる基本的な技能を備えていることを確認します。当日は楠葉学舎で、選抜された5年生20名の学生が与えられた課題に取り組みました。川添堯彬理事長・学長をはじめ、試験監督者や他大学の教授などが訪れ、試験の様子を視察されました。

21日には機構の関係者を迎えて「臨床実地試験」を実施。歯学教育モデル・コア・カリキュラムに提示された処置を題材に、診療参加型臨床実習の現場で、主に学生の態度を評価し、歯科医師として臨床研修を始めるにあたり、求められる能力を

備えていることを確認します。この日は天満橋学舎附属病院で、特定の学生を定めず20症例以上の治療を行いました。

学生は試験監督者とブリーフィング後、実際の患者さんを診療。「今から磨きますので、お口を開けてください」「しみるといことなので、知覚過敏の処置を行います」など、はきはきと声をかけながら、丁寧に処置を施しました。処置後は試験監督の先生が確認し、学生たちはその様子を真剣な眼差しで見つめていました。診療後には患者さんへの配慮、処置のできた点やできなかった点など、監督していた先生から講評がありました。

臨床能力試験は2020年度に全国統一試験として実施される予定であり、今回のトライアルでは2018年度以降に行うトライアルに必要な準備・検討事項を抽出し、2019年度トライアルに全ての歯科大学・歯学部に参加してもらう可能性を模索。平成29年度トライアル実施校として、本学を含む15大学が参加しました。



Topics

●中学生たちの夏休み

8月9日(水)、楠葉学舎に大阪教育大学附属平野中学校の2年生2名が来学し、歯学部口腔衛生学講座の三宅達郎教授と土居貴士講師が約2時間にわたって対応しました。なんと二人は、中学校の課題研究としてキシリトールを取り上げ、自身で大学にアポイントをとり、教えを請うため訪れたのです。

前半の1時間は、中学生からの質問に三宅教授が答えるかたちで進行。教授の言葉を聞き逃すまいと熱心にペンを走らせ、疑問に思った内容をどんどん質問していきます。その疑問はキシリトールにとどまらず、むし歯の成り立ちやフッ化物の応用など多岐に及び、歯・口腔の健康に大変関心を持っていることがひしひしと伝わってきました。後半の1時間は、土居講師が「実際の口の中で発症している初期むし歯を観察する」という生きた教材を用意。歯の表面に穴が開く前、自然に治る段階の

初期虫歯の状態をつぶさに観察してもらいました。

二人の中学生は約2時間の中でたくさんの事を学んだことでしょう。また、二人のアグレッシブな行動に、本学教職員も新鮮な刺激を頂きました。



●歯学部生が障がい者スポーツ『ボッチャ』大会にボランティア参加

10月22日(日)と11月11日(土)、障がい者スポーツ『ボッチャ(陸上で行うカーリングに似た、イタリア発祥の障がい者向けスポーツ)』の大会に、本学附属病院障がい者歯科の田中佑人先生の呼びかけで、本学歯学部の学生がボランティアとして参加しました。



10月に大阪市の舞洲障がい者スポーツセンターで行われたのは、『第1回 i-ボッチャ in Osaka』。本学歯学部5年生の井内拓磨さん、篠崎百合絵さん、橋本茉実さん、卒業生の竹山旭さん、三上優さんの5名が参加し、会場設営・撤収や選手誘導などを行いました。当日は台風の影響でスタッフが足りず学生たちが急ぎょ審判などを行う場面があり、選手の方々と触れ合い競技への理解を深め、障がい者スポーツについて考える機会となり



ました。11月は大阪府民共済 SUPER アリーナで『第19回日本ボッチャ選手権大会』が開かれ、井内さんが再び参加しました。同じくボランティアとして参加していた多職種の方とも交流でき、大変意義のある活動となったようです。

以下、学生の感想を要約して掲載します。

- ・ボッチャは体の不自由に関係なくできるスポーツです。学生や高齢者、筋ジストロフィーなどを持った方やその家族などが混ざって試合をしており、スペシャルニーズの方が学生に勝つ試合があり、驚きました。ほかにも、どのような人でもできるスポーツがもっとあれば良いと思いました。
- ・実際にパラスポーツを間近で観てみたいと思い参加しました。こんなにも普段から車椅子で生活されている方がいることを実感するとともに、ボランティアに来ていたさまざまな学部の大學生や専門學生と、歯科大生として交流ができ、貴重な体験をさせていただきました。



・友人に誘われたことがきっかけで学生ボランティアに参加しました。最初はボッチャについて知らなかったのですが、健常者だけでなく、障害によりボールを投げるができなくても、自分の意思を介助者に伝え道具を使って試合に参加できたりと、健常者から重度の四肢機能障害者まで一緒に楽しむことが

できるスポーツがあることを知り、とても驚きました。健常者と障がい者が共生する社会をつくりだすことが重要だと言われているなかで、パラスポーツを一つのきっかけにし、このような機会を増やしていくことは、とても大切だと実感できた一日でした。

●『大阪歯科大・朝日カルチャーデンタル塾』が開講

本学は朝日カルチャーセンターと連携し、10月22日(日)から、一般市民の方に向けた講座『大阪歯科大・朝日カルチャーデンタル塾』を開講しています。

このデンタル塾は毎月第4日曜日13時30分から15時まで、偶数月は同センター中之島教室、奇数月はくずは教室にて開催されます。(受講料は朝日カルチャー会員・一般ともに1,620円。)

これまで、できる限り歯を削らない最新のホワイトニング方法について(歯学部歯科保存学講座・吉川一志准教授)、健康長寿のために大切な口腔機能の保ち方(医療保健学部口腔保健学科・糸田昌隆教授)、口腔がんの早期発見と治療方法(歯学

部口腔外科学第二講座・大西祐一准教授)など、本学が誇る各分野のスペシャリストが、歯や口腔の健康に関する最新の知識、役立つ情報を詳しく紹介しました。

受講された方からは、「初心者にも分かりやすいお話でよかったです。楽しい先生でした」「歯だけではなく口の中、身体全体のことに関する色々なことが学べて本当によかった。先生のお人柄がよいのかも」といった声を頂きました。

お口のことに関心をお持ちの方、お悩みの方、この機会にデンタル塾を聴講してみませんか。

●本学ホームページがリニューアル

12月19日に本学ホームページをリニューアルいたしました。これまでは一部を除きパソコン専用のホームページでしたが、今後はスマートフォンやタブレットモバイルからもご覧いただけます。

リニューアルに合わせて、歯科医学について説明する『WHY? 歯科医学』や、歯科医療のお仕事を紹介する『歯科医療人お仕事マップ』、そしてさまざまな方面で活躍する大阪歯科大学の学生や先生を紹介する『ODU MAGAZINE』を詳しく掲載しています。『ODU MAGAZINE』では毎月歯科医療人を志す人を取り上げ、それぞれの『これまで・今・これから』に焦点を当て読み物仕立ての記事にしています。

またトップページのメインビジュアルと、WHY? 歯科医学ページに動画を表示しています。動画のフルバージョンは本学公式YouTubeチャンネルでもご覧いただけます。

https://www.youtube.com/channel/UCORSmXfOWT73PK3rT-NI8RQ?view_as=subscribe

※下記QRコードからもYou Tube動画をご覧いただけます。

このたびのリニューアルにご協力いただきました皆さま、ありがとうございました。親しみやすいホームページを目指し、今後も学生や教職員のさまざまな活動をお届けしていきます。

また、大阪歯科大学公式SNSのFacebook(@osakadentaluniversity)とLINE(@osaka-dent)でも、情報を発信しています。Facebookでは入学式や卒業式をはじめ、オープンキャンパス、公開講座、大学祭など学内イベントのほか、学生の皆さんや先生方の活躍を随時配信中。LINEでは主に、受験生の皆さんに寄り添った入試情報を中心にお知らせしています。2017年4月に新設した本学医療保健学部も、Facebook(大阪歯科大学医療保健学部)とTwitter(@ODU_DT_DH)を配信しています。学部の魅力を多くの方に知っていただくため、オープンキャンパスや願書受け付け情報、一期生の様子などをお伝えしています。どちらもフォローや拡散を、よろしく願いいたします。



2017 年度歯学部・大学院歯学研究科入学式

穏やかな春の一日となった4月5日（水）、大学歯学部と大学院の入学式が午前10時から楠葉学舎講堂で行われ、学部の新入学生128名、編入学生3名、大学院入学者36名が満開の桜で飾られた大阪歯科大学正門をくぐりました。

式の中で、川添理事長・学長は、卒業後に夢を実現するため、まずは一人ひとりが大志を持ってこれからの6年間（編入生は5年間）学業に勤しんでほしいと新学部生にエールを送りました。この言葉に応える形で新入生は「世界の人々に必要とされる医療人を目指し勉学に励みます」と力強く宣誓しました。

●理事長・学長式辞

理事長・学長 川添 堯彬

今年の春の到来は、昨年に比べていくぶん遅いようではありますが、すでに桜の花は方々で開花し入学生の皆さんを一層祝福しているかのようであります。

本日、大学歯学部入学生・大学院入学生にとって、ともにこの日が新しい環境へ入るとき、社会へ向けての決意と誓いのときであり、新たなスタート地点であります。また、入学生のご父兄・保護者の方々、ご家族の方々にとりましても、きょうの日が、期待と願いを込めた始まりのときであると胸に刻んでおられることと拝察いたします。

まず、歯学部新入学生128名と編入学生3名の諸君に申し上げます。最近の風潮かもしれませんが、一部新入生の中には、入学できただけでこのまま時がたてばDDSの資格、すなわち歯科医師になれるとのんびりしてしまう学生がおります。これは大きな間違いであります。これからの長い学生生活を勉学及び履修に努め、進級して6年後の国家試験に合格しなければなりません。これはかなり厳しい道のりでもあります。しかし、全員の方が、この過程を越えてもらわなければなりません。そこで、私は、皆さんがモチベーションを高め、人生の勝者になってもらうために、次の三つのステップの概念を心に銘記し、ぜひ実行していただきたいと思っております。

一つ目は、新入生全員が、まず将来の「志し」、または「目標」を描いて持ってほしいということでもあります。この段階で、めいめいの卒業後の自分について、できるだけ大きな「志し」、「目標」が望ましいと思っております。そして二つ目のステップでは、そのために必ずこれからの最低修業年限6年間で、編入学生の方



は5年ですけれども、歯科医師DDS合格になってみせるのだという決意、決心をこの年に、この1年の間に胸にまず刻んでいただきたいのであります。くり返しますが、この1年、2年は3年、4年、5年、6年の進級のために授業を全出席して、学習習慣を身につける必要があります。

そして三つ目は、それからは、進級と国家試験に合格するための学習を第一優先として、いちずに学習に邁進してください。そうすれば全員が、卒業ができ、国家試験にも合格して、皆さん方それぞれの以後の人生が大きく開けるでありましょうし、夢の実現にぐっと近づくことでありましょう。ぜひこの心構えで6年間を進んでほしいと願っています。

さて、大学院歯学研究科に入学された36名の、すでに歯科医師の資格を取得された皆さん、本日はまことにおめでとうございます。皆さん方は、義務化された1年間の臨床研修を修了され、その上で難関な試験にも見事に合格された精鋭ぞろいで





あると言っても過言ではありません。また、ご父兄・保護者の皆様方におかれましても、ご子弟の晴れ姿を目の前にされ、その感慨もひとしおのことと拝察申し上げます。

本学は文部科学省の指導や期待も受けて今後、一段と大学院生の増強を図っていく方針で、毎年 50 名以上受け入れたい考えです。

それでは何のために大学院を目指すのでしょうか。従来の一段と高い研究人材育成という本来の目的もあるのですが、それに加えたい方向が「グローバル要職」であります。例えば、本学での 4 年間の後、2 年以上の海外留学を行えば、本学は教授の道を準備できる。また、4 年の博士課程の後、国内の専門職大学院（2 年制）を経て、本学の教授人材として迎える等、具体例をあげることができる。本人にとっても、本大学にとっても有望な職域が拓けると思います。そしてそれこそが「博愛と公益」の建学の精神を生かす道であります。

これをもちまして理事長および学長からの式辞といたします。



歯学部教授就任挨拶

2017年に5名の先生方が歯学部教授に就任されましたので、以下ご略歴とご挨拶を掲載いたします。

歯学部長	病理学室	主任教授	田中 昭男 (2017年4月1日付)
歯学部	中央歯学研究所	専任教授	橋本 正則 (2017年4月1日付)
歯学部	歯科医療管理学室	専任教授	田中 武昌 (2017年4月1日付)
歯学部	口腔病理学講座	主任教授	富永 和也 (2017年11月1日付)
歯学部	高齢者歯科学講座	主任教授	高橋 一也 (2017年11月1日付)

歯学部長 病理学室 主任教授 田中 昭男

大阪歯科大学は2017年4月に医療保健学部が開設され、歯学部と医療保健学部の2学部を擁する大学として発展し、それに伴い歯学部長を拝命しましたので、ご挨拶申し上げます。



日本では、高齢化率が21%を超え超高齢社会に突入したのは2007年であり、2016年には27.3%になり、ほぼ3人に1人は65歳以上であります。さらに少子高齢化が進む中で疾病構造の変化が顕著になり、それに伴い歯科医学や歯科医療に対する取組みが変わってきます。

したがって、多様なニーズに対応できる歯科医師がより一層求められます。

文部科学省は、2016年度から教育の質転換を図るべく「卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」「教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)」および「学生の受入れ方針(アドミッション・ポリシー)」を策定し公表することを求めています。歯学部には三つのポリシーがあり、それに沿って歯科医師の養成を行っています。勿論、この3ポリシーは本学の建学の精神である「博愛と公益」ならびに理事長・学長が示している五つの力(りよく)そして追加三つの力を満たすものであり、多様なニーズに対応できる歯科医師の輩出に繋がるものであります。

歯学部では1年次から4年次までは楠葉学舎で、5・6年次は天満橋学舎で学修します。とくに1年次には歯科医師への素養教育が中心で、リベラルアーツ教育を主としてコミュニケーション力の涵養、基礎科学の学修、早期臨床体験学習、社会福祉施設体験学習を行うことによって早期に歯科医師になる強い自覚を持たせ、その後、学年が進むに従い、基礎系歯科医学、社会系歯科医学および臨床系歯科医学の科目を順次性に、そして総合医学系の科目も学修します。また、特色ある授業として

歯科東洋医学やスポーツ歯学などの科目もあります。さらにCBTやOSCEに向けて臨床実習に入る前の学修を十分に行い、臨床実習がスムーズに行えるように知識と技能、そして態度を身に付けます。臨床実習では診療参加型臨床実習を行い、学生自身が自律性をもって患者さんを診察、治療を行えるように木目細かい指導を行います。さらに臨床実習知識試験を行うとともに臨床実習の終了時には終了時試験を課し技能と態度の確認を行います。

医療人は患者さんとの良好なコミュニケーションを図り、信頼関係を築くことが重要であり、そのために1年次からそれらを醸成することを進めています。しかも、歯科医学・歯科医療の進歩はめざましく、また、近未来には人工知能(AI)の更なる発展によって大きな技術革新が起こることが予測されます。それに対応するために研究マインドを持った歯科医師の養成を推進するとともに、全体の学力の向上を図り、オナーズ教育にも注力してグローバルに活躍できる人材の養成にも努めています。さらにグローバル化を推進するために希望者にはシドニー大学歯学部、コロンビア大学歯学部、上海交通大学口腔医学院、北京大学口腔医学院、南方医科大学口腔医学院、四川大学华西口腔医学院、台北医学大学口腔医学院およびキングス・カレッジ・ロンドン大学歯学部において海外研修の機会を設けています。

最近の研究は高度化しているため、チーム力が求められます。総力を挙げて研究を行う必要があり、総合力がものをいう時代になっています。これは医療の面においても同様であり、超高齢社会にあっては患者さんの疾病の背景は複雑であるので、チームで対応するいわゆる多職種連携が必要になってきています。そのため、附属病院での臨床実習だけでなく、外部の病院での急性期および慢性期の医療にも対応できる実習も行っております。また、質保証された歯科医師の養成のため、国が求めている診療参加型臨床実習を遂行する上で必要な新しいシステムによる臨床実習のトライアルにも積極的に参加し、社会のニーズに応えられる歯科医師の養成を進めていますので、学生諸君はそれに向けて邁進することを願っています。



中央歯学研究所 専任教授

橋本 正則 はしもと まさのり

博士（歯学）/1966年生まれ

<学歴>

- 1995年3月 九州大学歯学部卒業
- 1995年5月 第88回歯科医師国家試験合格
- 2001年3月 北海道大学大学院歯学研究科博士課程修了
博士（歯学）の学位を受領

<職歴>

- 1995年6月 北海道大学歯学部附属病院医員
- 2001年4月 岩手医科大学歯学部助手（歯科保存学第一講座）
- 2002年3月 北海道大学歯学部助手（小児歯科学講座）
- 2003年1月 アメリカ・ジョージア医科大学特別研究員（口腔生物学講座）
- 2004年1月 ベルギー・ルーベンカソリック大学特別研究員（歯科解剖学講座）
- 2004年7月 オランダ・アムステルダム大学特別研究員（歯科理工学講座）
- 2008年2月 北海道医療大学歯学部講師（生体材料工学分野）
- 2010年4月 北海道医療大学歯学部准教授（生体材料工学分野）
- 2013年12月 大阪大学大学院歯学研究科准教授（歯科理工学教室）



大阪歯科大学主任教授会の選出および法人理事会のご承認をいただき、2017年4月1日付けで大阪歯科大学中央歯学研究所・専任教授を拝命いたしました。このような要職に就かせていただき、その責任の重大さに身の引き締まる思いとともに、緊張感に包まれながら、日々を送っております。就任にあたり皆様へのご挨拶とともに、簡単な自己紹介と今後の本学での活動について抱負を述べさせていただきます。

私は北海道生まれの北海道育ち（函館・札幌）ですが、母は京都出身で父も大阪・神戸などに居住経験があり両親の親族の多くは関西に住んでいます。私も大阪に転居してから4年になりますが、私にとって関西は未知の土地でありながらルーツでもあり、何か故郷に帰ってきたような居心地の良さがあります。さらに、子供のころよく遊びに行った祖父母の家が、楠葉の近隣である宇治であったことから、地図を見るたびに何か不思議な縁を感じております。

最初に教育に関する抱負ですが、残念

ながら少子化や歯科医師過剰などの報道により歯学部の人気は低迷しています。さらに、歯科医師国家試験の合格者数削減により国家試験は難化し、その合格率アップが全国の歯科大学・歯学部での最優先目標となっております。目標設定は簡単ですが、達成は難しいのは言うまでもありません。その具体的な教育法については紙幅の都合上、割愛させていただきますが、歯科医学教育開発室を中心に基礎系講座および臨床系講座の全学の教員が率直に学部学生と向き合い、御家族の協力を得ながら国家試験合格までサポートしていく責務を負っています。また、優秀な学生を中心に自ら学ぶ能動的な教育が重要であると考えられます。私も日々、有効な教育法を模索しながら実践し、教員としての教育力を向上させていきたいと考えています。

次に研究ですが、大学院にて“レジン・象牙質接着構造の劣化機序の解明”という臨床に近い研究テーマにて学位を取得しました。その後、電子顕微鏡技術などの研鑽を積み研究を継続してきました。

2年間の海外留学でも、さらに継続研究を行ってきました。親族は臨床医が多く、私も臨床大好きで、歯科医院開業を夢見ていました。しかし、研究に携わるにつれ、その魅力にとりつかれ臨床を離れて研究の世界で生活する決断をしました。その後、基礎系講座に移ったことや、この研究テーマが成熟してしまったため、今は、金属ナノ材料の生体応答や酵素活性阻害作用など基礎的な研究をしています。研究の新規性やインパクトは時代とともに絶えず変化するので、研究テーマも変えていく必要性があり、将来的には再生医療に関する研究に着手していきたいと考えています。教員の研究力の向上は、大学院生に対する指導力の向上に繋がるため、日々、実験技術のスキルアップを心がけていくつもりです。

今後は、大阪歯科大学のみならず歯科界の発展への貢献に微力非才ながら専心精進してまいる所存です。今後とも一層のご指導とご鞭撻を受け賜りますようお願い申し上げます。

歯学部教授就任挨拶

歯科医療管理学室 専任教授

田中 武昌 たなか たけまさ

博士（歯学）/1958年生まれ

<学歴>

1983年3月 九州大学歯学部卒業

1983年5月 第73回歯科医師国家試験合格

1999年1月 博士（歯学）の学位を受領（九州大学）

<職歴>

1983年4月 九州大学歯学部助手

1984年4月 長崎大学歯学部付属病院助手

1985年4月 九州大学歯学部付属病院助手

1990年4月 九州大学大学院歯学研究院講師

2004年8月 厚生労働省健康局総務課医療専門官

2007年4月 厚生労働省保険局医療課医療指導監察室特別医療指導監査官

2008年4月 大阪社会保険事務局保険部保険医療課指導医療官

2008年10月 近畿厚生局指導監査課指導医療官

2012年4月 中国四国厚生局山口事務所指導医療官

2015年4月 九州厚生局大分事務所指導医療官



私は2017年4月1日付けで歯科医療管理学室専任教授を拝命いたしました。就任にあたりまして、これからの抱負等を交えご挨拶を申し述べたく存じます。

私は2004年にそれまで在籍していた大学の医局を離れ、厚生労働省の健康局に入省いたしました。それ以来、13年間に及んで同省保険局、近畿厚生局、中国四国厚生局、九州厚生局と転任を重ねており、この行政職として培ってきた経験を新しい赴任地であるこの大学で活かすことが私に求められている使命であろうと考えています。特に私の場合、天満橋学舎において主に附属病院での業務を担う立場であり、医療機関としての視点で現状を把握し、将来的な構想を描いていかなければならないと考えておりますので、ここではその見地から若干の考察を記しておきます。

まず、医療制度についてですが、日本では誰もが安心して医療を受けられる国民皆保険制度が確立され、世界最高レベルの平均寿命と保健医療水準が達成されてきましたし、今後も持続可能な医療保険制度が目標とされています。しかしな

がら、社会のニーズに呼応した変革が求められていることも否定できません。特に政府の規制改革会議に端を発したものの、国民皆保険堅持を前提として安易な混合診療解禁とならないように、また、将来的な保険取組のための治験蓄積をも見据えて最終的に保険外併用療養制度の中に位置づけられた患者申出療養はその典型的なものです。国民皆保険が前提とは言え、特に歯科大学の附属病院のように最先端の歯科医学的知見と技術が集積された医療機関では質の高い医療を患者さんに提供し、社会に貢献する責務があります。私は行政在職時に得た知識や経験でそのお手伝いができればと考えている所存です。

また、最先端の歯科医療を提供する医療機関は社会的責任も重大で、コンプライアンスが求められます。「保険医療機関及び保険医療費担当規則」を基本とする保険制度や2年毎の診療報酬改定は勿論のこと、医療法や歯科医師法等、遵守すべき法令や制度の理解も必要です。そして、それは保険者等を含む、社会全体の理解と信頼を得ることにもつながりま

す。私はこの点においても積極的に尽力したいと思います。

さらに私の立場として附属病院のマネジメントに関しても貢献できればと考えていますが、医療経営の側面でのマネジメントだけでなく、歯科医療管理の立場として医療情報や診療リスクに対するマネジメントを重要視したいと思います。本院にも導入されている医療情報の中核である電子カルテでは基本的要件である見読性、真正性及び保存性のうち、特に真正性をより高めていかなければなりません。また、医療現場に存在するリスクに対しても、インシデントの精査により、多くのアクシデントを回避することがリスク・マネジメントの根幹であろうと考えています。そして、それは患者さんだけでなく、医療従事者を安全に守ることもなろうかと考えます。

このような視点で本学の発展に貢献することができればと思いますので、今後とも教職員の皆様方からのご指導、ご鞭撻を賜りますよう、何卒宜しく願い申し上げます。



口腔病理学講座 主任教授

富永 和也 とみなが かずや

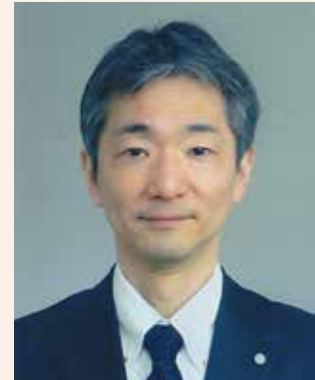
博士（歯学）/1967年生まれ

<学歴>

- 1991年3月 大阪歯科大学卒業
1991年5月 第84回歯科医師国家試験合格
1995年3月 大阪歯科大学大学院歯学研究科博士課程修了
博士（歯学）の学位を受領

<職歴>

- 1995年4月 大阪歯科大学助手
2001年10月 英国 Guy's King's St. Thomas Dental Institute
King's College London 留学（2002年9月迄）
2008年4月 大阪歯科大学講師



大阪歯科大学主任教授会の選出および法人理事会のご承認をいただき、2017年11月1日付けで大阪歯科大学口腔病理学講座の主任教授を拝命いたしました。よろしくお願い申し上げます。

私の知る限り、臨床現場で働いている看護師、歯科衛生士、医師や歯科医師の多くが「病理学は苦手」と言われます。しかし、本学学生に「好きな科目」を尋ねると病理学・口腔病理学を挙げてくれます。どうして病理学を本学学生は好きな科目として挙げてくれるのでしょうか？大きく二つのことが考えられます。一つは、講座員全員が「病理学はおもしろい！」と感じていることが学生にしっかり伝わっているのだと思います。もう一つは、学生が研究室に入室しやすく、質問しやすい雰囲気があるからだと考えます。「講義中に興味をもちました」と歯髄腔への墨汁注入標本作製しに來たり、自身の摘出病巣を持ち込んで「標本にしたいのですが…」と標本作製に來たり、「歯胚の成長過程の標本作製して、いくつかの染色がしてみたいのです」とやってきたり…。現カリキュラムにおける「研究チャレンジ」や旧カ

リキュラムにおける「研究室体験」といったものが無かった頃に、講義に対する質問以外のために、すでに学生が研究室を訪ねてきておりました。

小野寅之助先生、筒井正弘先生そして田中昭男先生が育ててこられた、この当講座の伝統、雰囲気を大切に守ってまいり所存です。

拔牙すると拔牙窩という歯槽骨の穴ができます。拔牙窩は骨組織で充填され、歯槽提となって治癒しますが、放置しますと歯槽提は吸収していきます。この骨増生と骨吸収との一見無駄なメカニズムを疑問に思い、1991年、田中昭男先生の研究室（口腔病理学講座）に大学院生として進学しました。以後、一貫して「骨の研究」を主として行い、研究室の先生方のお蔭もあって、おもしろい研究生活を楽しませていただいております。研究の基本的な発想はテキストの記載内容に疑問をもつことで、教科書が変わるような実験が証明できれば、ワクワクすると思いますし、そのような研究を意識して、後輩を育てたいと考えております。

基礎系講座とはいえ、病理学には病理診断という病院業務がございます。本学

附属病院における臨床病理部門（病院業務）を担うべく、2000年に死体解剖資格、2003年に病理学会認定口腔病理専門医、2012年に口腔病理専門医研修指導医および2014年に臨床細胞学会認定細胞診専門歯科医の各認定を受けました。引き続き病理診断の面で病院業務に貢献させていただき所存です。

教育、研究および臨床のいずれの面におきましても、後輩を育てることが大切ですが、学生教育の充実はその根幹であると考えております。良い研究は研究を継続することで生まれます。研究を継続するためには、自身の努力はもちろんですが、良い仲間や後輩が必要です。良い後輩を育成するには、学生教育をしっかりしなければならぬと考えております。

本学の教職員はじめ、多くの方々に育てていただき、現在も育てていただいている身でございます。

今後とも、ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

歯学部教授就任挨拶

高齢者歯科学講座 主任教授

高橋 一也 たかはし かずや

歯学博士 / 1961 年生まれ



<学歴>

- 1986 年 3 月 大阪歯科大学卒業
- 1986 年 5 月 第 79 回歯科医師国家試験合格
- 1990 年 3 月 大阪歯科大学大学院歯学研究科博士課程修了
歯学博士の学位を受領

<職歴>

- 1991 年 4 月 大阪歯科大学助手
- 1998 年 1 月 大阪市高橋歯科医院開業
- 2007 年 3 月 大阪歯科大学退職
- 2009 年 1 月 大阪市高橋歯科医院廃業
- 2009 年 4 月 大阪歯科大学助教
- 2010 年 4 月 大阪歯科大学准教授

大阪歯科大学主任教授会の選出および法人理事会の承認を頂きまして、2017 年 11 月 1 日付けで大阪歯科大学高齢者歯科学講座主任教授を拝命いたしました。これまで支えていただきました多くの皆様に心より感謝申し上げますとともに、現在の歯科医学教育及び歯科医療の厳しい環境を考えますと、その責任の重さに一層身の引き締まる思いでございます。就任にあたりまして皆様へのご挨拶とともに、今後の抱負を述べさせていただきます。

私は 1986 年に大阪歯科大学を卒業後、故西浦恂教授のもと、大学院歯学研究科博士課程（歯科補綴学専攻）に入学いたしました。補綴畑にどっぷりと漬かっていたわけですが、時代のニーズを捉えた権田悦通名誉教授、小正裕教授の先見の明とご尽力のもと、歯科補綴学第一講座から高齢者歯科学講座へと生まれ変わって行く過程を経験できたことは、非常に幸運なことであったと思います。

そのご意志を引き継ぎ、さらに発展させていくため、臨床におきましては有病

者を適切な医学知識とともにみるシステムづくりを、教員、大学院生、病院医員一丸となって行っていきたく切に思っております。また当講座では、2 年前から摂食嚥下リハビリテーションを含めた訪問診療を実施し、患者層の裾野を拡大することに努めてまいりました。今後は、附属病院の通院患者様で通院困難になった方々に対して施設、居宅への訪問診療を行っていきたくと考えております。天満橋を拠点に半径 16 キロと考えると、大阪市内全域と周囲の近隣都市の患者様に訪問診療ができることとなります。

研究につきましては、老年歯科医学に貢献できるような幅広い研究に着手していきたくと考えております。また、私が非常に興味を持っていることは、ICT を駆使した情報の共有化システムなど、今後急速に進むと言われている都市部の高齢化に対応するための研究です。地域社会と協力して大規模研究、縦断研究を行っていきたくと考えております。

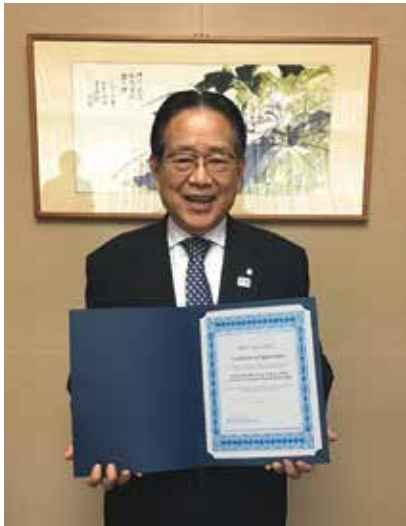
教育に関しましては、我々の講座では全国の歯科大学に先駆け、4 年生の基礎

実習において口腔リハビリテーション実習を取り入れております。車椅子の移乗訓練、摂食嚥下障害に対する機能訓練、嚥下内視鏡の挿入実習などを行っておりますが、それに伴い国家試験での正答率も向上しております。今後も新しいモデルコアカリキュラムに対応したバージョンアップを図ってまいります。さらに診療参加型臨床実習の充実を図っていくことも肝心であります。今後は医療保健学部とも連携し、低学年での他職種交流授業の実施や、学生を同行した訪問診療をさらに充実させるなど、多職種連携や地域包括ケアシステムを体験してもらいたいと考えております。

以上、教育、診療、研究を 3 本柱として、バランスのとれた大学業務を遂行し、本学のさらなる発展と社会に大きく貢献できる歯学生の育成に粉骨砕身努力いたす覚悟でございます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

国際交流

●コロンビア大学から感謝状



コロンビア大学歯学部創立 100 周年記念式典が 5 月 23 日（火）、コロンビア大学歯学部およびコロンビア大学同窓会『1852Society』により開催され、大阪歯科大学を代表して川添理事長・学長が寄付を行いました。この度、その寄付に対して川添理事長・学長をコロンビア大学同窓会のメンバーとして迎えるとともに、ストラウ歯学部長が川添理事長・学長に感謝状を授与されました。

長年にわたりコロンビア大学歯学部と大阪歯科大学は学生交換留学プログラムおよびインプラント研修プログラムなどを通じて国際交流を深めてまいりました。今後もさらに友好を深め両大学の発展に努めたいと考えております。



●日本・アジア青少年サイエンス交流事業採択

7 月 31 日（月）から 8 月 4 日（金）までの期間、本学の海外協定校であるアジア 5 大学（上海交通大学口腔医学院、南方医科大学口腔医学院、四川大学华西口腔医学院、台北医学大学口腔医学院、山西医科大学口腔医学院）学生受入研修事業を実施するにあたり、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）へ助成金を一部申請し、6 月 12 日付けで採択の通知をいただきました。

この事業では例年、特別講義、施設・附属病院見学、個人診療所見学等を実施しておりますが、今年度は学生間交流を深め

ることを目的として、8 月 4 日（金）に楠葉学舎講堂で、全て英語で行われる“The 1st Forum for International Students”(FIS)と題する国際学生フォーラムを開催いたしました。この活動報告はさくらサイエンスプランのホームページ (https://ssp.jst.go.jp/report2017/k_vol047.html) に掲載されていますので、ぜひご覧ください。

本学の国際交流事業は、新しい試みを毎年取り入れ、更なる発展を目指しています。

● The 1st Forum for International Students 開催



大阪歯科大学では、2017 年 7 月 30 日（日）から 8 月 5 日（土）までの期間、アジア 5 大学より 23 名の学生・教員を受け入れ、研修を行いました。その研修の一環として、8 月 4 日（金）9 時から本学初となる全て英語を用いたフォーラム“The 1st Forum for International Students”(以下：FIS)を開催しました。

フォーラムはまず、川添堯彬理事長・学長の挨拶から始まり、第一部学生講演、休憩時間を利用して本学邦楽部有志による演奏、四川大学华西口腔医学院の学生が余興を披露し、第二部学生講

国際交流

演と続き、最後に川添理事長・学長から学生講演者へ表彰状授与式が行われ、盛況裏に閉会しました。

学生講演は、本学から歯学部第5学年・小村晃広、大学院高齢者歯科学・井戸垣潤、大学院欠損歯列補綴咬合学・張泓灝、同・田代悠一郎、大学院口腔インプラント学・黄安祺の5名、アジア5大学から上海交通大学口腔医学院・钱小宇、南方医科大学口腔医学院・邓文琪、四川大学华西口腔医学院・李沛霖、台北医学大学口腔医学院・李佳倩、山西医科大学口腔医学院・王丹の5名、計10名が行いました。

FISの聴講者は、本学教職員、大学院生、歯学部生、医療保健学部生並びに歯科衛生士専門学校生と幅広く、総勢287名の方が参加されました。

このFISは、川添理事長・学長が掲げる大学全体の目標の一つ「学生の国際交流力増強」に則り実施したもので、国際交流部は、本学学生とアジア5大学の学生間において「国際的な学



術交流を図る」をテーマとし、新たな一歩を進みだしました。

また、FISが実現したのは、国際交流部だけではなく、大学院歯学研究科、歯学部教務部、歯学部学生部、医療保健学部並びに歯科衛生士専門学校の協力があり、まさに全学一丸となった結果でした。関係者の皆様、ありがとうございました。

●田中副学長がAPUFに代理出席



田中副学長が10月13日（金）、14日（土）に北京大学口腔医学院にて開催された第2回 Asia Pacific University Forum (APUF) に学長代理として出席し、スピーチを行いました。このAPUFのテーマは『Innovation for Oral Science and Education』で、他大学から招かれた代表者もスピーチを行いました。田中副学長は北京大学口腔医学院をはじめ中国の各大学の関係者らと、本学を代表して親睦を深めました。

●学生短期海外研修報告

四川大学 華西口腔医学院

日時：2017年7月2日（日）～7月14日（金）

参加者：角田萌未、小村晃広、篠崎百合絵（5年）

引率者：田中佑人（障がい者歯科助教）

7月2日（日）：研修1日目

午前：大阪出発

午後：四川到着

7月3日（月）：2日目

午前：大学内見学

午後：実習室でマネキンを用いた形成練習

7月4日（火）：3日目

午前：コロンビア大学の歯内療法科教授 Kim 先生による歯髄再生療法の講義

午後：各国の学生が集まったバドミントン大会に参加

7月5日（水）：4日目

午前：Kim 先生による講義（再生療法に必要な細胞、足場、成長因子のそれぞ





れ各論の説明)

7月6日(木):5日目

午前:Kim先生による講義(再生療法の臨床応用についての説明)

午後:病院見学

7月7日(金):6日目

午前:病院見学後、各国学生や周学東院長と面談

7月8日(土):7日目

終日:文化見学

7月9日(日):8日目

終日:文化見学

7月10日(月):9日目

終日:2017年華西口腔医学院サマーキャンプ

7月11日(火):10日目

終日:2017年華西口腔医学院サマーキャンプ

7月12日(水):11日目

終日:2017年華西口腔医学院サマーキャンプ

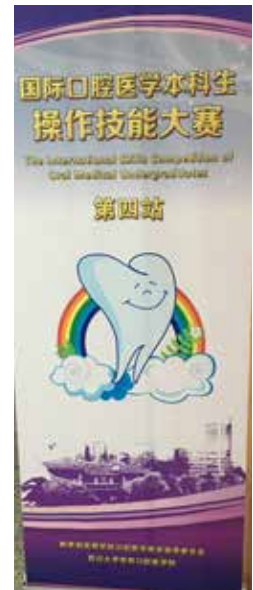
7月13日(木):12日目

午前:四川大学望江、江安校区見学

7月14日(金):13日目

午前:四川出発

午後:大阪到着



以下、学生の感想を要約して掲載します。

・この研修はたった二週間の期間でしたが、自分のこれからの意識や人生を大きく変えていくと思います。迷われているならまず参加すべきです。あなたが日本にいる段階で中国についていろいろと悩んでいることはまったくもってナンセンスであり、とにかく行ってみるべき。四川大学は成都という大きな街にあり、国際的にもかなりハイレベルな大学です。私はこの研修期間、同大学の学生が歯科という学問に対して強い学びの意欲を持っていると何度も感じました。例えば、私たちは彼らと一緒に何度か講義を受けましたが、ハイレベルな再生医療の内容が英語で行われているにも関わらず、真剣な目で意欲的にノートをとる姿に圧倒されました。また、中国の歯学部5年生は病院で診療を行っています。つまり、私たちと同学年ですが、彼らはう蝕除去のみならず根管形成、根管充填までもたった一人で行っていました。同じ学年でここまで自信を持って堂々と診療して

いる姿に愕然としました。これが、私が研修に行ってよかったと感じた大きな理由です。ただ日本にいただけでは自分の立ち位置がよくわかりませんでした。しかし現実には、はるか遠くに置いていかれており、それに気づいた瞬間焦りました。これからの意識を変えてもらったショッキングで、貴重な体験でした。幸い、大阪歯科大学は意欲ある学生の熱意に柔軟に対応していただける大学ですし、私たちが熱意をもって診療に取り組みれば、サポートして下さる先生もたくさんいます。要は私たちの意識の持ちようです。もちろん研修では、そういった勉強面だけでなく中国の文化にも多く触れることができました。成都是かなり都会で、観光地などもたくさんあり、寛窄巷子など中国の古い町並みが残っているような場所もありました。こういった隣国との交流も大切にしないといけないという気持ちも、この研修で初めて感じました。2週間というわずかな時間でしたが、私は

成都 Sichuan という街が大好きになりました。成都是昔から、一度訪れると離れがなくなる街だ、と言われていたそうです。私もすっかりその魅力に取りつかれてしまいました。四川料理もとても恋しいです。また是非、機会を見つけて再訪したいと思います。

・私は今回の研修に参加してよかったと思う理由が三つあります。一つ目は、四川大学の学生達の学問への意識の高さを身にしみて感じられたこと。学生達とは英語でコミュニケーションをとりますが、どの学生もとても流暢に英語を話します。一方、私は英語が満足に喋れず、伝えたいことも伝えきれませんでした。自分ではもう少し話せると思っていただけにとてもショックで、これを機に帰国後はもっとしっかり英語を勉強しようと思えました。二つ目は、人との繋がりが一気に広がったこと。もし、この研修に参加していなければ、とても親切にしてくれたバディたちや他大学の学生

国際交流

達と国境を越えた交流をすることはできなかったでしょう。三つ目は中国の文化に多く触られたこと。安くておいしい四川料理や車とバイクと人で騒然とした交差点。さまざまなことが日本と違って、とても新鮮でした。

・研修先の大学の施設では、マイクロスコープが付属しているチェアがたくさんあったり、歯を削るなど私たちが模型実習で行っていることを3Dで体験できる

機械があったりと、私たちの大学より優れている点も見られました。この研修を通して印象に残っていることはたくさんあり、コンペで一位になれたこと、そして同じ学年のパディとの出会いは、何物にも代えがたいものになりました。彼女たちは毎日私たちの世話をしてくれました。色々な話を聞く中で、彼女たちの意識の高さ、語学力、人間性、全てにおいて圧倒される毎日でした。私は彼女たち

のおかげで大学院進学への興味や日々のモチベーションが上がりました。彼女たちの病院実習は、私たちとは異なり、日本の研修医に近いことをしていました。それを目の当たりにして、自分たちがいかに無力かを思い知りました。これからは自身が処置を行うという意識をもって、病院実習を過ごしていきたいと思います。

上海交通大学 口腔医学院

日時：2017年7月22日（土）～7月28日（金）

参加者：釜田さゆり、河野真帆、塩谷優香、下家吏理沙、中村綾（3年）、秋田和佳（4年）

引率者：本田義知（中央歯学研究所准教授）

7月22日（土）：研修1日目

午前：大阪出発

午後：上海到着、文化見学（古猗園・上海古猗園餐厅）

7月23日（日）：2日目

午前：文化見学（留雲禅寺、南翔老街など）

午後：口腔外科教授の何冬梅教授等主催夕食会、上海バスツアー

7月24日（月）：3日目

午前：研究ラボ、上海第九人民医院見学

午後：上海交通大学口腔医学院院長面談、

馮希平副院長・ZhangLili 主任・鄭家偉教授主催ウェルカムディナーパーティー

7月25日（火）：4日目

午前：口腔インプラント科見学

午後：歯内療法科見学

7月26日（水）：5日目

午前：臨床見学

午後：特別講義

7月27日（木）：6日目

午前：臨床見学

午後：特別講義

7月28日（金）：7日目

午前：上海出発

午後：大阪到着



・この研修に参加した理由は、中国の歯科は近年著しく成長しており、また日本より13倍もの人口であるため、日本では見ることができない症例や病院の状況

を見ることができないのではないかと思います。実際に行ってみて感じたことが二つあります。一つは、技術は日本とほぼ同じくらいあることです。その中

で日本が優れていると思ったところがあります。それは歯科衛生士、歯科技工士の技術です。免許制度ができてからまだ日が浅いことが原因だと思いますが、日



本では歯科衛生士が行う仕事を、歯科医師が行う場面がありました。二つ目は、やはり患者さんの数が多いことです。一番驚いたことは、矯正やインプラントなどの保険診療外の科に、多くの患者がいたこと。ただ、歯を治療するだけでなく、それ以上のことを求める人がたくさんいることに驚きました。歯は大切であるという認識がたくさんの人に根付いているということだと思います。病院内の機械や市販で売られている歯科用品には、日本製のものがたくさんありました。技術では差がないかもしれませんが、中国の歯科医療は日本のそれを手本としながら進歩していると思います。技術云々ではなく、これから先も日本の歯科医療が世界の人に認められ、手本としてもらえるように誇りを持ちたいと思います。今回は上海という大都市でしたので、中国の歯科事情のほんの一部しか見ることができていないと思います。これからも世界の歯科事情に興味を持ち、広い視野の持てる歯科医になりたいです。

・毎日、午前と午後の一つずつ診療科で診療の様子を見学させていただきました。

病院内の待合椅子は、毎日患者で溢れていました。歯科であんなに混雑する様子は初めて見ました。口腔外科とインプラント科では手術室に入らせていただき、すぐ近くで見学させていただきました。観光ではいつも3人の女子学生がついてくれました。彼女たちは修士課程の1年生で、とても英語がペラペラでした。私たちは連絡先を交換し、今でもつながっています。

・患者の数に驚きました。受付は人で溢れかえり、治療室も治療が終わる前に次の患者が入ってくるという、日本ではあり得ない現象が当たり前に見られました。一番驚いたのが、中国には衛生士がないということです。毎日100人近くの患者を一人で診察しなければならぬので、歯科医はとても忙しいと引率してくださった先生がおっしゃっていました。今回の海外研修を通して、私は将来、歯科医になった時に、日本だけではなく海外にも進出してみたいという気持ちが高まりました。今回の経験を将来に繋げられるよう、日々の勉強を頑張りたいです。

・病院には多くの患者がおり、空港のようでした。そこでさまざまな科を見学しました。歯科インプラントの術中、二人の先生が話し合いながら手術を進めていました。たいていの手術はあらかじめ方針を決めてから施されると思っていたので、印象的でした。研修中、現地の先生方が非常に丁寧に教えてくれたため、臨床をまだ勉強していない私でも興味深く見学することができました。また、私は自分の英語の実力をこの研修期間中に何度も再認識しました。上海の学生たちはとても優しく、どんなことも分かるまで繰り返し話してくれました。できることならもっと英語を勉強して、もう一度上海を訪れたいと思いました。



台北医学大学 口腔医学院

日時：2017年7月22日（土）～7月28日（金）

参加者：上田剛義、尾上もも、加藤沙有理、高橋秀和、滝内謙、中島颯太郎、米田真菜（1年）、大塚未貴（2年）

引率者：岡崎定司（欠損歯列補綴咬合学講座教授）

7月22日（土）：研修1日目

午前：大阪出発

午後：台北到着、国立故宫博物院見学、ウェルカムパーティ

7月23日（日）：2日目

午前：文化見学（台北101など）

午後：文化見学（淡水、士林夜市）

7月24日（月）：3日目

午前：台北医学大学口腔医学院見学

午後：病院にて実習見学

7月25日（火）：4日目

終日：病院にて実習見学

7月26日（水）：5日目

午前：病院にて実習見学

午後：文化見学

7月27日（木）：6日目

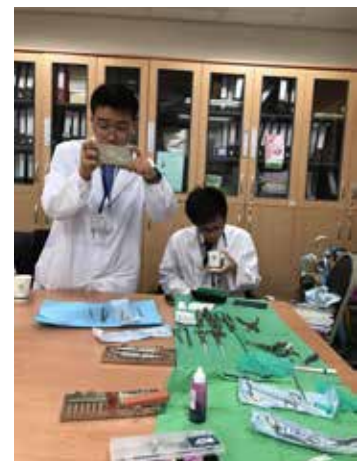
午前：病院にて実習見学

午後：文化見学

7月28日（金）：7日目

午前：台北出発

午後：大阪到着



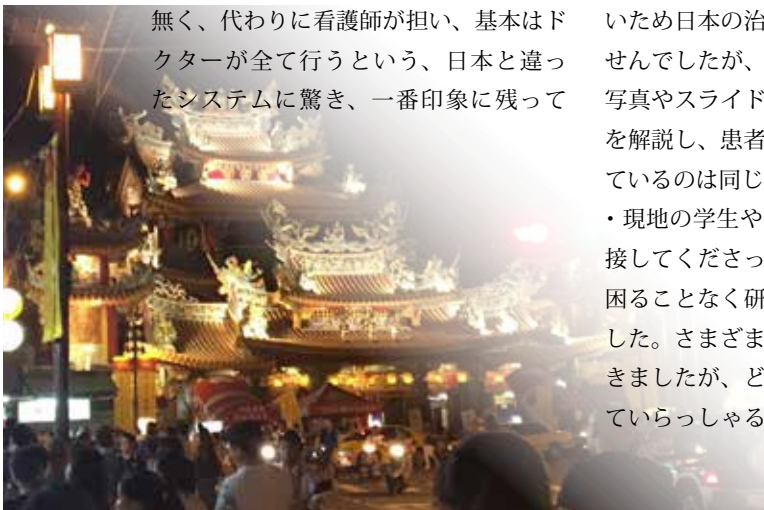
国際交流

・病院研修では、台北医学大学附属病院と雙和病院の二つの病院を訪れました。附属病院では、口腔外科・歯周病科・保存修復科（家族歯科）・歯内治療科・矯正歯科・欠損歯列補綴・小児歯科など各科を1グループ2人ずつに分かれて見学しました。今回の研修では、あまり歯科知識がなく最初は不安でした。しかし、台北医学大学の歯科医師の方やスタッフの方に大変お世話になりながら、歯学概



論で修得した知識をフル活用して、治療内容の理解に努めました。研修前に骨単などを活用して自学自習しておく、1年生であっても十分に研修内容を理解できると思いました。私は英語が得意でしたが、今回の研修を通してより一層、語学学習に力を入れようと決心しました。

・七日間という短い期間にも関わらず、台北の遺産や料理などの文化見学・日本の医療現場と一味違う現場での臨床体験学習・現地の学生とのコミュニケーションなど、毎日が充実した刺激尽くめの体験をさせていただき、この夏一番の思い出となったのはいうまでもありません。台北では日本という衛生士という役職は無く、代わりに看護師が担い、基本はドクターが全て行うという、日本と違ったシステムに驚き、一番印象に残って



います。私は高校在籍中にSGH (Super Global High School) プログラムでオーストラリア留学をし、同じく医療について学んだ経験があり、今回、台北とオーストラリアと日本の三カ国の医療制度や、特徴の比較をしながら学ぶことができました。世界の歯科医療の長所短所に焦点を置いて比較するのではなく、それぞれの国の特色を学び、今後、私自身が歯科医師となった時もグローバルな広い視野を持ち続けていきたいと、深く心に刻んでおきたいです。来年再来年…これから先も大学の全ての学生短期海外研修プログラムにチャレンジし続け、さまざまな国の歯科医療について、まだまだ学んでいきたいと思っています。



・大学病院で見学実習をさせていただきました。私は口腔外科、小児歯科、家族歯科を見学しました。日本では聞きなれない家族歯科でしたが、かかりつけ医のようなことをしている印象を受けました。う歯治療や歯周病、義歯の調整などさまざまな治療をしたり、親知らずのある患者には口腔外科へ紹介していました。まだ技術的なことはほとんど知らなため日本の治療との相違点はわかりませんが、日本でも台湾でも患者に写真やスライドなどを使って丁寧に治療を解説し、患者の悩みを解決しようとしているのは同じだと思いました。

・現地の学生や先生方がとても友好的に接してくださったおかげで、特に何かに困ることなく研修を終えることができました。さまざまな科を見学させていただきましたが、どの先生も高い技術を持っていらっしゃる印象でした。今までの英



語の勉強は「読む」「書く」「聞く」が中心でしたが、今回の研修で「話す」ことの重要性を深く感じました。

・今回の研修に参加した理由は、「海外へ行きたい」と高校生の頃から考えていたことに加え、英語の勉強の意欲を高めるためです。台北の空港で迎えてくださった現地の学生の日本語が流暢なことには驚きました。同時に、自分の拙い英語を恥ずかしく思いました。しかし参加した目的を思い返し、勇気を出して積極的に英語で話しました。すると思いのほか、自分の言いたいことを伝えることができたので、とても会話を楽しむことができました。この研修では、海外で新しい経験をすることがとても楽しいものだということが分かりました。しかし学生との会話や病院での見学では、英単語および知識不足で、言葉に詰まったり分からなかったりということがほとんどでした。この経験を生かし、英語および歯学の勉強に励もうと思います。

・今回の海外研修により自身の歯学知識の無さを痛感し、もっと歯学の知識をつけたい！と思いました。また、やはりどの国でも患者を第一に考えていて、これがすべての医療において核となる部分なのだ改めて感じました。来年、海外研修をする時にはもっと歯学の知識をつけ、より一層理解を深めていきたいと強く思いました。

・1年生ということもあり、理解できないことが多々あったので、英語も歯学も、もっと勉強しないといけないと改めて思いました。台湾で歯科医をされている女性で、日本と台湾のダブルライセンスを持っていて、日本語、英語、台湾語、中国語の4カ国語を話せる方がおり、すごいなと思いました。そして、ダブルライセンスを取るのは大変だったこと、台湾と日本で歯科医をする違いなどを、丁寧に教えていただき、将来の糧になりました。充実した七日間を過ごせたことに、感謝いたします。



シドニー大学 歯学部

日時：2017年8月12日（土）～8月21日（月）

参加者：稲谷悠樹、河野真帆、堀正樹、三代敦子、若田陽（3年）、祁業鈞（4年）

引率者：西川哲成（歯科医学教育開発室教授）

8月12日（土）：研修1日目

午後：大阪出発

8月13日（日）：2日目

午前：シドニー到着

午後：文化見学（Harbour Bridge・Opera House）、ウェルカムパーティ

8月14日（月）：3日目

午前：講義（at Sydney Dental Hospital）、臨床実習見学

午後：Sirona Dental Facility 見学

8月15日（火）：4日目

午前：講義（at Westmead Centre for Oral Health）、Children's Hospital 見学

午後：文化見学

8月16日（水）：5日目

午前：臨床実習（歯周治療）見学（at SDH）

午後：学内見学

8月17日（木）：6日目

午前：講義（at Westmead COH）、臨床実習見学、

集中消毒センター訪問、特別講義

午後：個人歯科医院見学

8月18日（金）：7日目

終日：フリータイム

8月19日（土）：8日目

午前：フリータイム

午後：さよならパーティ

8月20日（日）：9日目

午前：フリータイム

8月21日（月）：10日目

午前：シドニー出発

午後：大阪到着

・今回の短期研修での経験は、自分の夢をかなり明確にしてくれるものでした。私の夢は将来、海外で駐在邦人向けの歯科医院で働くことです。シドニーに行くことで、海外の歯科の雰囲気を知り、生活の中で英語に触れることで、自分の夢が具体的なものになればと考えて短期研修に応募しました。研修を通して、歯科の面も含めたさまざまなカルチャーショックとともに、将来海外で働くために、今の自分に何が足りないかを知りました。第一に、私には英語力が足りませ

んでした。現地で英語を話す状況になった時、周りの人たちの会話にほとんどついていけませんでした。ですがこの経験のおかげで、自主的にもっと英語を勉強し、大学院に進んで留学をしようという具体的なビジョンが見えました。第二に、シドニー大学歯学部生と自分との学修意欲の違いに驚きました。シドニー大学をはじめとするオーストラリアの大学の歯学部では、3年生から臨床を開始します。また、日本のシステムと大きく異なるところは、学生のうちからほとんどの

治療を任されることです。そのため、臨床の時間以外に行われる授業や実習は、数時間後には実際の患者相手に行っているかもしれません。それゆえ学生は、授業や実習で一つでも多くのことを学ぶために必死でした。私が将来海外で働くとき、彼らの技術に勝つためには、普段の学修から、これ以上の必死さが必要であると感じました。この研修で、私の将来に対する考え方はとても具体化されました。今は、自分の夢を叶えるためにどのような努力をすれば良いかがわかる気が



国際交流

します。後輩の中にも、漠然と国際的な仕事をしてみたいと思っている人がいるなら、ぜひ研修に行くべきだと思います。自分が何をすべきかがわかり、やる気に



満ち溢れることでしょう。

・授業の様子は日本と違い、先生が講義前にすべてのスライドをアップロードし、学生達は自由に自分のパソコンにダウンロードして保存できます。講義中にはペーパーレジメはなく、個人パソコンを使ってノートを作成し、わからないところがあったら、直ちに手を挙げて先生に質問します。また、講義内容は全て録音されており、いつでもどこでもその録音を使って復習することができます。向こうの歯学部学生達のおよそ半分以上はカナダからの留学生であり、皆さん歯内治療にとっても興味がありました。オーストラリアでは、国民健康保険はないため、ほとんどの歯科治療は患者さんの自己負担です。個人クリニックでは、診療器具・デンタルチェアや消毒機械などは日本と同じですが、パノラマエックス線装置と歯科用コーンビームCTは置いていません。その理由は、装置が非常に高く、それらの精密検査ができる連携クリニックがあるからです。もう一つの違いは、日本ではあまりアマルガムが使わ

れていませんが、オーストラリアでは歯科充填物として使用されています。シドニー大学は長い歴史を持っている大学なので、メインキャンパスには多くの綺麗な中世ヨーロッパの建物があり、校舎の中を歩いていると、現代と歴史の雰囲気を感じられます。また、大学病院も迷宮のように広く、色々な人材と先端設備を揃えています。今回の交流経験をきっかけに、多くの外国人と一緒に遊んで友達になりました。これこそ一生忘れられない記憶と経験だと思っています。歯科教育と医療制度に関して、シドニー大学歯学部と大阪歯科大学が違うところをよく認識し、良いものを真似て足りない部分を改善していきたいです。これからも学校の授業に集中して勉強し、国際的な交流にもどんどん参加し、将来どんな患者さんにも対応できる歯科医師になりたいです。



・日本では病院内で子どもが泣いているのをよく見かけますが、Westmead Children's Hospital では、その姿を見かけることはありませんでした。子どものために工夫された飾り付けや建物の作り、待合室の環境づくり、診療システムは、大変興味深いものでした。附属病院では学生診療も見学し、日本とオースト

ラリアの教育システムの違いを実感しました。オーストラリアでは、3年間一般教養を学んだ後、歯学部で4年間歯科医学を学び、卒業とともに歯科医師の資格



を得ることができ、大学2年生からアシスタントとして患者を診ることができま。学生が治療だけでなく、患者さん一人ひとりに治療の説明などを行う様子を見て、私たちが5、6年生で経験するだろう姿を思い浮かべ、秋から授業が再開したら、しっかりと学び準備していきたいと思いました。矯正学、小児歯科学、公衆衛生の講義をシドニー大学の学生と共に受講し、彼らの受講態度についても非常に感銘を受けました。シドニー大学の学生は、どの講義でも、説明を聴きながらパソコンに重要なことをメモに取り、疑問に思った点、説明が理解しづらい部分を、その場で手を挙げて質問していました。また講義自体も少人数制で、教員と学生の相互の意見交換による講義であり、とても貴重な経験となりました。私も、彼らのように疑問に思ったことはそのままにせず、その場で質問して積極的に講義に参加できるよう心がけようと感じました。彼らには、感謝の気持ちでいっぱいです。10日間という短い



期間でしたが、シドニー大学の学生と交流し、現地の病院や大学の講義の様子を実際に見学できたことはとても刺激となり、私の大学生生活をより豊かにするものとなりました。この研修で得られた交流関係が、将来も続くことを願っています。シドニー大学の学生が日本に来られる際は、おもてなしの心でみなさんを歓迎し、より良い交流となるよう努めたいです。

・学生のみで患者を診ることは日本ではあり得ないことですが、シドニー大学の先生や学生たちは逆に驚き、「学生のときに患者を診れないなんて、卒業して歯科医になってからどうするんだ」なんて

言われてしまい、学生の中の2年間、みっちり患者の治療をする彼らでしたので、私たちには卒業1年のインターンがあるにせよ、返事には大変悩まされました。3年で歯科の専門知識を持っていたため、現地の学生との話はより弾んだ感じがします。最後に、この研修で得たものは今後の私の生き方に大きな影響を与えていると感じています。

・私は、この海外研修を通してたくさんのことを学び経験しました。附属病院で、向こうの学生が患者を治療している様子を見学しました。向こうの学生は大学を出てから入学しており、歯科大学も四年



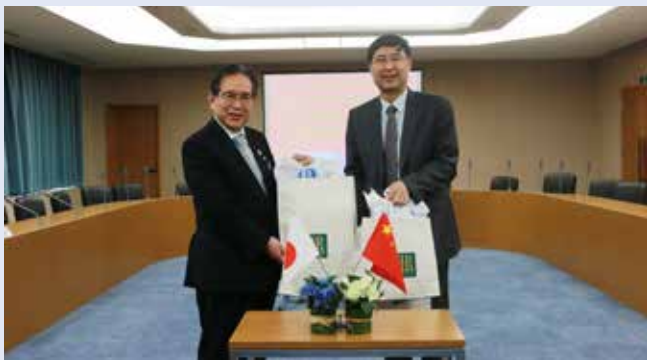
制なので、日本とは異なる点がとても多いと感じました。午後の自由時間は、シドニー大学の学生が色々なところへ連れて行ってくれました。また、歯科については保険制度や治療方針が日本とは大きく異なるということを知りました。私はこの海外研修で受けた刺激を糧に勉学に励み、また海外研修に参加したいと思います。

● 昆明医科大学代表团、シドニー大学生本学訪問

中国雲南省昆明にある昆明医科大学の代表団の皆さまが11月13日（月）、大阪歯科大学を訪問されました。

本学を訪れた李松校長をはじめ6名の代表団の方々は今午前中、楠葉学舎を見学されました。まずは2年生の歯科理工学（大島講師）および3年生の社会歯科学・口腔衛生学（三宅教授）の授業を、国際交流部委員の方一如教授に熱心に質問されながら、講義のスライドや学生が真剣に学ぶ様子を興味深そうにご覧になっていました。中央歯学研究所では大学院生や各専門分野の研究者を支援するための最新機器や施設をご覧になったほか、図書館では本学所蔵の貴重図書を見学され、本学への理解を深められていました。

続いて6名の代表団は、川添堯彬理事長・学長と面談されました。本学からは川添理事長・学長のほか代表7名が出席しま

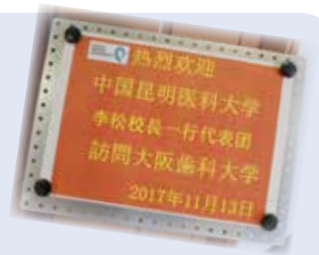


した。面談ではまず、川添理事長・学長が、本学に中国留学生学友会を設立したことに触れ「この学友会は貴大学の李松校長

先生が20年前、第8期笹川奨学金留学生として本学で1年間研修されたのが始まりです。本当にあり

がとうございます」とお礼の言葉を述べました。また「来年、中国各大学の8名の学生さんを大学院生として、2名の方を博士課程の専攻生として受け入れる準備をいたしております。中国から本学博士課程を修了された大学院生は7名、現在、在籍されている大学院生も7名でございます。皆さまそれぞれ勉学活動に頑張っておられます。これからも学术交流を深め、特に学生の交流を盛り上げ、輝かしい成果を取められることをとても期待いたしております」と述べました。

次に李校長が、本学での1年間の研修生活や今回25年ぶりに来日されたことなどを話されました。また、昆明医科大学は1933年に創立し、雲南省で最も規模が大きい医科大学であること、21カ国60校以上の大学や研究機関と交流提携関係を結んでおり、特にフランス・東南アジア諸国と交流が盛んであ



国際交流

ることなどを紹介されました。そして「大阪歯科大学は日本では有名な大学であり、世界各国の大学、特に中国の大学と友好提携関係を結んでいます」と述べ、両校間の学生交流に強い希望を示されました。その後、おみやげ交換や記念撮影を行い、和やかな雰囲気の中で面談は終了しました。

午後からは天満橋にある本学附属病院を訪問。岡崎定司国際交流部長と方教授が引率し、各階を見学されました。小児歯科では、大きな絵が描かれた壁やツリーなどの人形を飾り付けた鏡など、子どもたちがリラックスできるように施した工夫を眺め、写真に撮られていました。保存修復科などでは、実際の治療の様子を見学。また、口腔外科では、臨床実習中の学生たちや先生方の話をうなずきながら聞かれ、当院で行っている治療について、より詳しく理解に努めておられた様子でした。この



ほか、矯正歯科や総合診療科など、さまざまな診療科を見学されました。代表団の皆さまは、本学についてよりいっそう理解と交流を深められ、両校ひいては日中友好のために尽力することを誓われました。

本学の協定締結校であるシドニー大学歯学部（シドニー大学歯学部）の学生6名が12月11日（月）～15日（金）までの5日間、本学を訪問しました。本学の学生国際交流は1996年に同大学歯学部から始まり、現在まで活発な交流を行っています。今年の8月には本学学生が同大学を訪れ、研修を受けました。

シドニー大学の学生たちは11日に楠葉キャンパスを訪問。田中昭男副学長をはじめ国際交流部の教員と面談しました。田中副学長が歓迎の挨拶を述べ、学生たちに記念品をプレゼントしました。続いて楠葉キャンパスおよび天満橋キャンパスの本学附属病院を見学。初日はウェルカムパーティで訪問を歓迎し、両校の学生は友情を深めました。



2日目（12日）は創立100周年記念館で、中央歯学研究所（本田義知准教授）、口腔インプラント学講座（馬場俊輔教授）の特別講義を受講。3日目（13日）は英語教室の藤田淳一准教授引率のもと、モリタ製作所（京都）と医療法人創歯会（佐古歯科医院、大阪）を訪れました。

製作所ではハンドピースなど小物部品の切削加工をはじめ、X線ヘッドの組み立て、表面処理など歯科医療に欠かせない製品が出来上がる工程を見学。学生たちは真剣な表情で英語での説明に聞き入り、歴史館や現行製品が展示されているショールームでは興味深そうに写真を撮るなど、日本の歯科医療について理解を深めました。佐古歯科医院では院内の見学後、佐古好正理事長・院長をはじめとする歯科医師や衛生士、歯科助手の方々とお話しする時間を設けていただき、保険診療と自費診療の違いなど日本とオーストラリアの歯科医療について活発な意見交換を行いました。



4日目（14日）は楠葉キャンパスで歯科医学教育開発室（益野一哉准教授）の特別講義を受講し、欠損歯列補綴咬合学講座（岡崎定司教授）の実習を見学。シドニー大学の学生たちは、





本学学生に講義内容について質問したり一緒に作業したりと、積極的に言葉を交わしながら実習に参加しました。

最終日の15日には岡崎教授の特別講義後、修了証授与式を行いました。国際交流部長の岡崎教授が学生一人ひとりに修了証を手渡し、5日間の研修日程は終了しました。

このほか学生たちは15日夜に本学附属病院でオーケストラ部が行ったクリスマスコンサートを訪れ、楽しそうに耳を傾ける場面もありました。今回の研修では、本学や日本の歯科医療についてより理解を深めた様子であり、研修プログラム以外にも積極的に参加し、日本で充実した時間を過ごしたようでした。本学では今後も、協定締結校とのますますの交流を続けてまいります。



行事報告

▶大学

4月 ● 2017年度FDセミナー（第1回～第7回）

《第1回》

日時：4月21日（金）17：00～18：00

演題：「2017年度（H29年度）歯学系CBT問題公募要領と問題作成のポイント」

講師：田中昭男先生（病理学教室教授）/ 西川泰央先生（生理学講座教授）/ 前田博史先生（口腔治療学講座教授）

出席者数：教職員 140名

内容：FD委員会委員長である田中教務部長より、挨拶並びにCBTの現状について説明があった。西川教授、前田教授からはCBT問題作成の注意事項について説明があった。併せて各講座に問題作成依頼を行った。



《第2回》

日時：5月8日（月）17：00～18：30

演題：「社会が求める医療人養成への兵庫医大の取組
- 早期臨床体験実習から国家試験対策まで -」

講師：鈴木敬一郎先生（兵庫医科大学 / 医療人育成研修センター長 / 副学長）

出席者数：教職員 175名

内容：「早期臨床体験実習から国家試験対策まで」をサブテーマに、安定した国家試験の合格率を出すためには第1学年から対策が必要になってきている旨、ご説明いただいた。学習姿勢を低学年から定着させ、適切な評価を行うことで、大学と学生の信頼関係を育み、より良い結果につながる事ができる。



行事報告

《第3回》

日時：7月4日（火）17:00～18:30

演題：「本学における医学教育センターの活動」

講師：成瀬均先生（兵庫医科大学医学教育センター長）

出席者数：教職員 165名

内容：第2回FDセミナー時に、鈴木先生よりご説明いただいた内容について、より具体的に、兵庫医科大学の取り組みについてご説明いただいた。年々受け身の学生が増えているため、大講義室での講義を減らし、個人指導に重きを置いている。



《第4回》SD合同

日時：7月27日（木）10:00～11:30/17:00～18:30

演題：「情報セキュリティおよび個人情報保護について
-身近に潜む情報漏洩の危険-」

講師：木村克紀先生（株式会社 educe 取締役）

出席者数：教職員 206名

内容：個人情報の定義や漏洩対策。大学における個人情報保護の重要性、漏洩の危険性について、実例を用いてご説明いただいた。個人情報について、取り扱うことに萎縮せず、正しい管理のもと、有効活用することが求められている。



《第5回》

日時：11月17日（金）17:00～18:30

演題：「多職種連携教育の意義と実践について」

講師：片岡竜太先生（昭和大学 / 歯学部 / スペシャルニーズ口腔医学講座 / 歯学教育部門教授）

出席者数：教職員 173名

内容：超高齢化社会到来に伴い、医療の質や安全性の向上及び高度化、複雑化に伴う業務の増大に対応していくために、多職種が連携していかなければならない。今後社会が大学に求めているのは、チーム医療を実践する医療人を養成することである。チーム医療実践可能な医療人養成のために、大学教育にアクティブラーニングを取り入れていく必要がある。



《第6回》

演題：「臨床医学教育の改革と歯学系臨床能力試験トライアル」

日時：11月24日（金）17:00～18:30

講師：山本一世先生（歯科保存学講座教授）

出席者数：教職員 153名

内容：文部科学省提出の資料を基に、医学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂事項、取り組み、今後の変更事項等、具体的に説明があった。2020年から全国統一試験として実施が予





定されている、歯学系診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験については、臨床実地試験と一斉技能試験がパッケージ化して行われる試験である。臨床実地試験は「歯科医師として臨床研修を始めるにあたり、当然のように求められる能力を備えていることを確認する」試験であり、一斉技能試験は「臨床実習

終了時に歯科医師に求められる基本的な技能を備えていることを確認する」試験である。2020年度の本格導入を前に、本学でもトライアルを実施する旨と、今後どのような準備が必要であるかを具体的に示した。

《第7回》

日時：12月1日（金）17：00～18：30

演題：「大学に求められる障害のある学生への支援」

講師：村田淳先生（京都大学 / 学生総合支援センター / 准教授 / 障害学生支援ルーム・チーフコーディネーター）

出席者数：教職員 170名

内容：「合理的配慮」が本セミナーの主題であり、結論として、「合理的配慮」に定められた数値基準は存在しない。障害を持つ学生への対応は一律ではなく、個人によって変える必要がある。障害者について、大学に専門のサポート機関が必要であり入試の段階から配慮できる体制を整えることが全国（全世界）的にも求められている。「合理的配慮」を活用しない学生（自らを障害者であると大学に申請しない学生）についても、大学側か



ら、当人に「どのような支援体制」が整っているのか示す義務がある。

5月 ● 2017年度解剖体慰霊祭

5月26日（金）、穏やかな天候に恵まれ、ご遺族、ご来賓、黄菊会会員及び教職員、歯学部2・3年生、専門学校生の約500名が参列し、歯科医学教育のためご遺体を献体賜りました皆様の御霊に対しご冥福をお祈りいたしました。

慰霊祭は、四天王寺において執り行われ、御坊の読経と参列者全員によるご焼香によりご冥福をお祈りするとともに、竹村明道教授の祭文、川添堯彬理事長・学長の挨拶により、献体賜りました故人の篤志と、それをご同意いただいたご遺族への感謝の気持ちをお伝えし、質の高い歯科医師の養成を实践してまいりますとの慰霊の詞が述べられました。

また、学生を代表し3年生の間嶋鈴音さんから、解剖実習を通じて得た精神面での成長と、献体賜った皆様の篤志に応えるためにも、より良い歯科医師を目指し精進することを誓った感謝の言葉が手向けられました。

最後に、献体賜りました皆様と、そのご遺族並びに黄菊会会員の皆様に向けて、学生全員による感謝の一礼をもって、解剖体慰霊祭は終了いたしました。



6月 ●セレッソ大阪アカデミー選手歯科検診

セレッソ大阪アカデミーU12とU13の選手約50名が6月4日(日)、大阪歯科大学附属病院を訪れ、歯科検診を受診しました。今回の歯科検診は、本学とセレッソ大阪アカデミーが2016年に調印した『連携研究協定』に基づいて行われたもので、協定締結後初の具体的な取り組みであり、連携活動の実質的なスタートとなりました。本年度はあと3～5回、計300名ほどの選手が受診される予定で、この歯科検診は来年度、再来年度と継続して実施することになっています。

セレッソ大阪アカデミーとの連携協定は『スポーツと歯科医学の関係性を具体的なデータに基づき共同研究を推進し、口腔環境とフィジカルパフォーマンスとの関連を明らかにする』ことを目的に結ばれ、本学では歯学部歯科保存学講座の吉川一志准教授を中心に研究が始まっています。

2017年のセレッソ大阪トップチームは3季ぶりにJ1に昇格し、17節終わって単独首位と絶好調です。このまま好調を維持し、今季終盤まで上位争いを続けてほしいものです。(最終順位3位)

本協定の究極の目標は「世界基準のトップアスリートを育てること」。アカデミー所属選手の中から未来のJリーガー、日本代表、欧州リーガーと世界的に活躍する選手が誕生するのも決して遠い将来ではないでしょう。吉川准教授をはじめ本学教員が陰ながらそのアシストをする…夢は静かに広がっています。



検診内容：1. アンケートによる問診：年齢、性別といった基本的項目に加えて、ブラッシング習慣、飲食習慣、歯科外傷・障害歴、マウスガード使用など

2. 口腔内診査：虫歯や歯肉の状態や歯の治療を確認

3. 唾液検査：多項目唾液検査システム(AL-55)を用いて齲蝕原性菌数、pH、酸緩衝能、潜血、白血球、蛋白質、アンモニアの7項目の唾液因子を測定し、齲蝕、歯周病、口腔内清潔度を検査

4. 噛み合わせ検査：咬合接触検査装置「T-スキャンⅢ」を用いて、従来の検査機器では検知できなかった咬合の3要素「咬合接触位置」「咬合接触力」「咬合接触時間」を同時に精密に計測。より科学的で客観的なデータに基づいた咬合診断をしました。

※歯科検診に参加した教員等：吉川一志、谷本啓彰、竹内摂、保尾謙三、小正玲子、黄地智子(以上、歯科保存学講座)、佐藤正樹、福本貴宏、山本真由、今井敦子(以上、有歯補綴咬合学講座)、坂井大吾(欠損歯列補綴咬合学講座)、木下智、中澤吾郎(以上、口腔外科学第1講座)、田中佑人(障がい者歯科)、岩佐一弘、井村和希、森川裕仁、澤井健司郎、岩崎和恵(以上、歯科保存学)、杉立尚城、神田龍平、松崎悟士(以上、有歯補綴咬合学)

セレッソ大阪関連の話題をもう一つ。セレッソ大阪アカデミーでは、舞洲練習場の周囲にチームの象徴である桜の苗木を植栽し、クラブとともに生長する本学が寄付した桜の木を育て、市民やチームの誇りとなる名所『セレッソの森』を創造するというプロジェクトを実施されています。その名も「セレッソと桜を咲かせよう」。

本学はこのプロジェクトの趣旨に賛同し、『セレッソの森基金』に法人として寄付を行いました。そしてピッチのすぐそばに植えられている桜の木に本学のネームプレートがつけられました。本学3キャンパスとは少し離れていますが、舞洲の大地にしっかりと根を張り“藜藜(しんしん)たる大樹(たいじゅ)”に育ててほしいものです。

●2017年度父兄会・共済会総会

日時：6月24日(土)

場所：楠葉学舎講堂

総会には約300名の保護者が参加され、初めに新旧父兄会幹事長、川添理事長・学長の挨拶、学内報告、学業評価方法他CBT、OSCEの解説を行いました。引き続き議事に移り、父兄





会・共済会の新役員、2016年度父兄会・共済会の決算並びに2017年度予算を報告し、承認されました。

総会終了後、各学年の講義室において学年別個人懇談会を開

催し、学年指導教授・助言教員等と学業面、生活面について熱心に懇談されました。

● 高大連携 - 香里ヌヴェール学院高等学校

出前授業

6月30日(金)、本学歯学部細菌学講座の王宝禮教授が『教育の連携協力に関する協定』締結校である香里ヌヴェール学院高等学校を訪問し、1年生スーパーサイエンスコース23名の生徒に『人類を脅かす虫歯菌と歯周病菌』というテーマで出前授業を行いました。

今年4月から校名も新たに男女共学校として生まれ変わった香里ヌヴェール学院。幾分緊張気味な様子の1年生の皆さんと一緒に授業はスタートしましたが、王先生の話法と、教室内の一人ひとりに歩いて語りかけたことで、すぐに打ち解けていきました。

将来の夢を聞き、そこから徐々にテーマに触れていくことで、1年生は資料を見ながら少しずつ興味を持ちはじめ、和やかな



雰囲気の中、約100分の授業が終了しました。虫歯菌とは…歯周病菌とは…。最後には、毎日歯を磨くことの大切さもしっかり理解してくれたようでした。

1年生来学

7月7日(金)、香里ヌヴェール学院高等学校の1年生スーパーサイエンスコース22名(男子13名・女子9名)の生徒が、引率の教員とともに楠葉学舎に来学しました。

1号館第2実習室で実習が始まり、川添亮彬理事長・学長の挨拶の後、細菌学講座・王主任教授が実習の趣旨を説明。続いて南部講師による『虫歯菌と歯周病菌について』の実験がスタートしました。4班に分かれ、各自の口から採取した細菌がどのような活動をしているのかを顕微鏡で確認。各班から「動いている!」「すごい」という驚きの声が上がりました。

次に、自分の歯に歯垢がどの程度ついているかを調べる実験を行いました。全員が自分の歯に歯垢染色剤を塗ると、歯が赤く染まっていきます。赤い歯を見た生徒たちは、悲鳴に似た声を上げながら、用意された歯が描かれた用紙に赤ペンで染まった部分のスケッチをはじめました。ある生徒からボソリと「歯垢がたくさんついていることがショック!毎日、歯磨きをしているのに…」という声。それに対し南部講師が、なぜ歯磨きをしていても歯石が溜まるのかを生徒たちに分かりやすく説明し、簡単な歯磨き指導を行いました。指導後は、真剣な表情でスケッチをしている生徒たちの姿が印象的でした。

高校生たちは、口腔内の衛生ということを難しく捉えていたようでしたが、徐々に研究の楽しさを理解してくれたようで、



約2時間の授業は笑顔で終了となりました。最後に田中歯学部長が、歯磨きの大切さと歯ブラシの持ち方を説明すると、高校生から「今日から実践しよう!」という声が聞こえてきました。

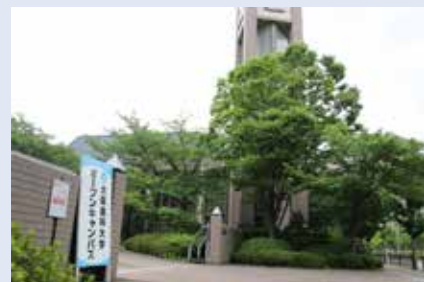
行事報告

7月

●歯学部オープンキャンパス

2017年度歯学部オープンキャンパスは、7月17日(月・祝)、8月10日(木)、8月20日(日)、9月18日(月・祝)の計4回実施しました。参加人数は延べ477名(うち学生は253名)で、昨年に続き学生の来場者数は過去最高となりました。実施内容としては、本学の入試概要説明、在学生による学生生活の説明、学生短期海外留学体験講演、学内施設見学、実習体験、ミニ講義、個別相談会等を行いました。

このうち第2回では天満橋キャンパスで、附属病院見学も含めたオープンキャンパスを実施し、103名の参加がありました。昨年度に引き続き、受験予定者のニーズに答え、第3回では駿台教育研究所進学情報事業部部長の石原氏に『医歯薬医療系学部入試の現状と2020年度新入試制度について』と題した講演をしていただきました。また、第4回の入試対策講座では、駿台予備学校講師より、各受験科目のポイントについて詳しい解説がありました。



●第49回全日本歯科学生総合体育大会

第49回全日本歯科学生総合体育大会(歯学体)が、冬期部門と夏期部門に分かれて開催され、全国29校が熱戦を繰り広げました。2016年12月29日に行われたラグビーを皮切りに冬期部門が始まり、7月29日～8月10日には夏期部門が行われました。本学は全26部門中10部門にエントリーし、総合成績では2年連続第4位でした。部門別では、弓道と空手道、アーチェリー、漕艇で1位を獲得しました。なお、優勝は愛知学院大学歯学部、準優勝は九州歯科大学でした。





8月 ● 第25回大阪歯科大学公開講座（天満橋講座）

8月19日（土）と26日（土）の2日間、『お口は健康・長寿の入口』と題して、大阪歯科大学創立100周年記念館大講義室で第25回大阪歯科大学公開講座(天満橋講座)を行いました。

初日の19日は藤田保健衛生大学医学部歯科・口腔外科教室の松尾浩一郎教授を講師としてお招きし、『あなたのお口は健康ですか？ -口から全身の健康へ-』というテーマで講演いただきました。炎天下にもかかわらず159名の方々にご来場いただきました。まず、『フレイル』や『サルコペニア』などについて、易しい言葉でユーモアたっぷりにご説明いただきました。また、平均寿命と健康寿命の関係、肥満指数（BMI）の値が少し高いほうが、実は長生きができるという嬉しい(?)情報もありました。この日一番の盛り上がりを見せたのは、5秒以内に「た」や「か」を何回発音できるかで口腔内の健康度を測る「パタカ測定」。来場者の方々と一緒に行い、「た・た・た…」「か・か・か…」の大合唱が会場中に響き渡っていました。

26日は総勢158名が来場され、大阪歯科大学歯学部内科学講座の澤井宏文准教授が『歯周病と全身疾患の関係～歯周病を治療すると糖尿病が治る？～』をテーマに講演しました。歯周病は成人の8割がかかっている国民病ですが、歯周病は糖尿病と相関関係があります。また、それだけでなく歯周病は心筋梗塞や脳梗塞その他様々な病気と関係があるそうで、そういった病気との関係をエビデンス（証拠、根拠）で示し、わかりやすく説明しました。

講演後は松尾先生、澤井先生ともに時間が足りないほど多くの質問を受講者の皆さまから受け、時間切れとなる場面もありました。熱心な方はその後で個別に質問をされていました。最終日の講演後には、2日間とも受講された方に修了証書をお渡しし、大盛況のうちに閉講となりました。



行事報告

● 2017 年度人権講演会

人権啓発推進委員会主催の2017年度人権講演会が、8月30日（水）16時30分より創立100周年記念館大講義室で開催されました。当日は同委員会委員長の川添堯彬理事長・学長をはじめ、多くの教職員が参加し、楠葉学舎大学院講義室へも同時中継されました。

今回は『大学教育における障害学生支援の動向』をテーマに、人権教育室の李嘉永講師が障害学生への支援や取り組みについて講演しました。この中で、障害者差別解消法を振り返りながら各大学の支援事例を具体的に示した説明があり、障害学生への合理的配慮等について深く学ぶ貴重な機会となりました。講演後のアンケートでも「障害学生を取り巻く環境や対応がよく理解できた」「障害学生と一般学生との社会的障壁の除去を積極的に考えることができた」などの感想があり、障害学生との共生構築への確実な一歩となる講演会でした。

また、12月11日（月）には楠葉学舎で2017年度人権標語表彰式を行いました。

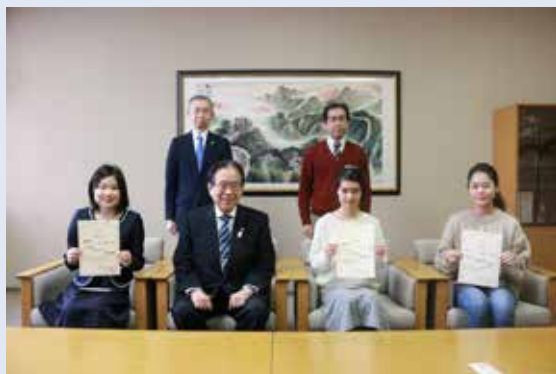
本学では人権週間（12月4日～10日）に合わせ、人権標語を募集しました。これは人権意識の啓発・高揚を目的に毎年行っているもので、今年も、学生をはじめ教職員から合わせて21件の応募がありました。人権啓発推進委員会委員による選考の結果、最優秀賞は歯学部4年生・吉村仁美さんの『見つけよう人それぞれの素晴らしさ』に決定しました。

表彰式では、川添堯彬理事長・学長が最優秀、優秀、佳作の3名にそれぞれ表彰状を手渡し、「どの作品も非常に精度が高く、考えの健全さ、純粋な思いを感じます。これを機に優秀な医療人を目指して頑張ってください」と激励しました。入選作品は次の通りです。

◎最優秀作：『見つけよう 人それぞれの 素晴らしさ』吉村仁美（歯学部4年）

◎優秀作：『ひとりより みんなで作る 笑顔の輪』中本優子（歯学部3年）

◎佳作：『考えよう 言葉の重み 影響力』許斐大菜（歯学部1年）



10月 ● 2017 年度父兄会

第6学年父兄会は、10月1日（日）に創立100周年記念館で行われ、88名中54名の出席でした。

山陽地区の地方父兄会は、10月8日（日）に広島ガーデンパレスで行われ、40名中15名の出席でした。本学からは、川添堯彬理事長・学長、田中教務部長、田中学生会部長をはじめ、関係各位が出席し、教務関係報告、学内報告などを行い、引き続き個別面談を実施しました。





● 解剖体御遺骨返還式

日時：2017年10月16日（月） 14：00

場所：楠葉学舎大会議室

25体の御遺骨が各御遺族に返還されました。

● 2017年度体育祭・大学祭

体育祭（牧野学舎）

10月21日（土）に牧野学舎で体育祭を行いました。当日は雨が降っていたため、競技は全て体育館用のプログラムへ変更。バレーボール大会、大縄跳び、飴食い競争、障害物競走などを実施しました。大阪歯科大学歯科技工士専門学校、歯科衛生士専門学校の学生や、新設したばかりの医療保健学部の学生も参加しました。最後には体育会所属団体紹介を行い、6年生は最後になる体育祭ということもあり、部活動の後輩からねぎらいの言葉がかけられました。終日雨天でしたが、6年生の熱気をのせ本学伝統の『みこし』で体育祭は締めくくられました。

大学祭（楠葉学舎）

10月28日（土）・10月29日（日）に楠葉学舎で楠葉祭を実施しました。49回目となる今年のテーマは「power of smile」。2日間とも雨天でしたが、地元の方々も多数来場されました。各クラブが焼きそばやフランクフルトなどの模擬店を出店したほか、歯科大学ならではの『無料歯科検診』も実施しました。

同時に行われた枚方市主催の『子ども大学探検隊』へは38名の児童が参加。2日目は吉本興業株式会社のお笑いコンビ、ダイアンとライセンスの2組によるトークショーが行われ、市民の方々も多数参加されました。キャンパス内は様々な姿に扮装した学生や模擬店への呼び込み、笑い声などで活気に溢れ、講堂での創作ダンス、軽音楽部や有志による音楽LIVE、美術部の展示もあり若さ弾ける大学祭となりました。



行事報告

● 2017年度子ども大学探検隊

日時：2017年10月28日（土）
10:00～12:20

場所：楠葉学舎

2017年度の子ども大学探検隊は楠葉祭初日と合わせて開催され、枚方市在住の小学生38名と保護者などが参加しました。



今年は、3年生の河野真帆さんが司会進行を務め、枚方市地域振興生涯学習課課長と化学教室の藤原真一教授の挨拶でイベントが幕開けしました。

参加した小さな生徒たちは2組に別れ、1組目は歯科に関する『クイズと動物の歯型で歯について知ろう！』という

講義を受けました。あらかじめ配られたシートに子どもたちはシールを1枚ずつはっていきます。はじめは緊張した様子でしたが講義も終盤を迎える頃には、出題される問題にはりきって手を上げ、正



解すると笑顔になっていました。

もう1組は本学のメインイベントとなる『指の模型製作』です。初めて入った大学の実習室に、ずらりと並ぶ器具、緊張からか圧倒されている様子。学生の指導のもと子どもたちは真剣に取り組み、仕上げの頃には本学おなじみの口腔戦隊デンタマンの登場で緊張感もほぐれ、初めての模型製作も皆成功した様子でした。

それぞれを1時間ずつ体験し、子ども大学探検隊は無事終了しました。

終了後にはサプライズ企画を用意。当日は楠葉祭を開催していたため、スーパーボールすくいや、デンタマンとボランティアの学生がおみやげをプレゼントしました。続いての風船パフォーマーの実演では、お兄さん、お姉さんの付き添いで来ていた小さな子どもたちにも、色とりどりの風船で作られた様々なキャラクターが配られました。

今年はいにくの空模様でしたが、昨年を引き続き笑顔に包まれた子ども大学探検隊となりました。



学生スタッフ

コーディネーター：河野真帆

3年生：新谷真奈、横田幸志朗、上村彬、谷口有美

2年生：足立将崇、宇佐美友理、砂山未来

1年生：尾上もも、下村啓輔、滝内謙、辰巳紗和子、田中季野、塚本有貴、鄭路洋、中島颯太郎

計16名（歯学部）

● ひらかた市民大学 2017

テーマ：歯周病と全身疾患の関係
～歯周病を治療すると糖尿病が治る？～
日時：2017年10月29日（日）

10:30～12:00

場所：楠葉学舎大学院講義室

講師：澤井宏文先生（歯学部内科学講座
准教授）

概要：枚方市と市内5大学との連携による講座「ひらかた市民大学2017」が開催され、澤井准教授が9月の本学公開講座に続き、『歯周病と全身疾患の関係～歯周病を治療すると糖尿病が治る？～』をテーマに講演しました。歯周病は成人

の約8割もの人がかかっている病気ですが、歯周病が原因でさまざまな全身疾患（糖尿病、心筋梗塞、脳梗塞、誤嚥性肺炎、関節リウマチ、慢性腎臓病など）にかかりやすくなることが報告されています。特に歯周病と糖尿病は、互いに悪影響を与える密接な関係にあることが知られています。

受講者からのアンケートには、「丁寧な説明で分かりやすい」「ためになった」「次回も参加したい」という回答のほか「話が難しく専門的であった」「歯周病についてもう少し詳しく話を聞きたい」と

いうご意見もありました。皆さまから頂いたご意見ご感想を参考にさせていただきながら、今後の講座をより良いものにしていきます。

なお、当日は台風接近による大雨の中、39名もの受講者に参加していただきました。



11月 ●大阪歯科大学公開講座・特別講座

11月5日、楠葉学舎で『あなたの病気のリスクをマリーナ(mRNA)検査で早期発見!』と題した公開講座・特別講座を開催しました。講座では、一般社団法人臨床ゲノム医療学会(理事長・渥美和彦東大名誉教授)の後援を受け、遺伝子やゲノム研究の分野で活躍されている6名の先生方が講演を行いました。今回のように市民の皆さまと歯科医師、医師、コメディカルの方々が一堂に会する公開講座は、本学にとって初めての試みで、東京や四国など遠方からお越しの方もあり、聴講者数は258名に上りました。



講演では、mRNA・ゲノム・遺伝子・DNAの違いなどについて分かりやすい説明がありました。人体を建物に例え、DNAは建物の設計図、mRNAは設計図の一部を小さくコピーしたものであること、mRNAはDNAからの必要な情報をタンパク質の製造工場へ運ぶ役割を担っており、mRNAが間違った情報を運ぶと、タンパク質が傷ついてがんなどを発症するリスクが高ま

講演された先生方は以下の通りです(敬称略)。

- ◆講演1「タバコのがんリスクをゲノム検査で調べる」大阪歯科大学大学院歯学研究科 井戸垣 潤
- ◆講演2「遺伝子解析ってどんなことに使えるの?」大阪歯科大学中央歯学研究所准教授 本田 義知
- ◆講演3「がん発生環境のリスクを予測し、健常者の未病状態を見える化するマリーナ(mRNA)検査」臨床ゲノム医療学会専務理事 山崎 都央
- ◆講演4「mRNA検査と医療の将来像」国際医療福祉大学医療福祉学部医療福祉・マネジメント学科 筒井 久美子
- ◆講演5「あなたの“死に様”予測します~町医者でゲノムドック~」同志社大学生命医科学部客員教授 松本 浩彦
- ◆講演6「歯科から始まる病気になりにくい身体づくり」医療法人福翔会福森歯科理事長 福森 暁

ることなどのほか、DNAは生涯変わらない遺伝的情報であるのに対し、mRNAは生活環境などで随時変化する生体情報であり、mRNA検査ではリアルタイムに体内の情報を見ることができるということです。今や「自分をどこまで把握できるか」という



領域は、体質のみならず「現在の体内の状態、現在どのような病気リスクを持っているのか」にまで及んでいるそうです。

このほか、少量の唾液でたばこによるがんリスクがわかることや、長寿遺伝子「サーチュイン」のスイッチをONにするポイント、ヒトは何歳まで生きられるのか、mRNA検査をどのように歯科医院に導入するか—といった興味深い講演が続きました。一般の方には少し難しい内容のお話もあったかもしれませんが、来場された方の中にはメモを取ったり、時折うなずいたりする姿が見られ、先生方のユーモアを散りばめた語り口に、会場から笑い声も聞かれる時もありました。

講座終了後には、ゲノムドクター認証試験を実施し、(一般の方を含む)50名の方が受験されました。

本学では今後も公開講座を通して、市民の皆さまの健康で豊かな暮らしの実現に貢献してまいります。

●実験動物慰霊祭

本学楠葉学舎講堂で11月17日、今年度の実験動物慰霊祭を執り行いました。

秋晴れの中、教職員・大学院生・学部生が参列。導師の読経が響く中、慰霊祭が始まりました。川添堯彬理事長・学長の代表焼香に続き、教職員や学生が焼香を行い、動物たちの霊に感謝の意を捧げました。

最後に川添学長が歯科医学の教育・研究のために身を捧げた動物たちの冥福を祈る慰霊の辞を述べ、参加者一同が改めて冥福を祈りました。



12月

● 2017 年度防災・防火訓練

12月11日（金）寒さ厳しい中、楠葉学舎において歯学部3年生136名が参加し、地震を想定した避難訓練を含む防災・防火総合訓練を実施しました。

内容は、「午後3時10分に南海沖にて震度6強の地震が発生した」との設定で、緊急地震速報を想定した避難訓練を行い、また、地震によって発生した火災（出火場所は食堂）も想定し、各部署で組織する自衛消防隊を中心に、避難誘導、安否確認、傷病者搬送、初期消火訓練として水消火器・消火器による消火訓練、屋内消火栓を用いた放水訓練を行うとともに、防災センター（施設課）では消防署への通報、施設点検の訓練を行いました。また、より多くの学生が訓練を受けられるよう、消火器や消火栓による消火訓練は全て学生が交代で行いました。



● 槻の木高等学校 1 年生来学

大阪府立槻の木高校の1年生7名が12月22日（金）、大阪歯科大学を訪れ、歯科医療について理解を深めました。

生徒たちは楠葉学舎を訪問。まず田中昭男副学長が、今年4月に新設した医療保健学部の紹介や、歯に関する話をいくつか披露しました。続いて歯科医学教育開発室の西川哲成教授が、これから進路を選択する生徒たちに向け、パワーポイントを使って具体的に自分の将来を考えるための講話を行いました。視線はまっすぐに、真剣な表情で西川教授の話に聴き入る高校生の姿が印象的でした。

その後、生徒たちは口腔病理学研究室を見学。口の中の組織を見たり、口腔病理学についての説明を受けたりしました。最後に、歯科医学教育開発室の松本秀範特任教授が案内し、実習室や食堂など学内を見学。実習室では「歯医者さんの匂いがする」「これ歯医者さんにある器具だね」などと話しながら、興味深そうに見回っていました。



槻の木高校は大阪府高槻市にある全日制・単位制の公立高校です。松本特任教授が槻の木高校の元校長先生だった縁から、この日の来学が実現しました。

「槻の木」は、高槻市の市の木「けやき」の古名だそうです。今回、本学を訪れた経験が、未来を担う槻の木高校の生徒さんたちの枝葉をぐんぐんと伸ばし、大きく成長するための一助になりましたら幸いです。

● 2017 年教職員忘年慰労会

年末恒例の教職員忘年慰労会を、本学附属病院本館14階のプラザフォーティーンで開催しました。

川添堯彬理事長・学長は開会の挨拶の中で、教職員への慰労の言葉を述べたほか、前進あるのみ、続けていくことが大事と2018年に向けた決意を示しました。続いて下村常務理事による大きな乾杯のかけ声で、歓談の時間へと移りました。多くの参加者が見守る中行ったお楽しみ抽選会では、臨床検査技師・飯田理恵さんが理事長賞「旅行券」を、歯周病学講座・田口洋

一郎准教授が学長賞「全国百貨店商品券」を見事手にしました。また、プラザフォーティーンから景品としてワイン等の差し入れを頂き、例年よりも多くの方が景品を持ち帰るといった嬉しいサプライズがありました。

慰労会は田中昭男常務理事の挨拶で中締めとなり、参加した皆さんは互いに2017年を振り返り、年末の挨拶を交わし、暮れ行く年を惜しむかのように楽しいひと時を過ごしていました。





▶ 附属病院

4月

● 2017 年度歯科医師臨床研修 研修歯科医登院式

日時：4月3日（月）10：00

場所：天満橋学会臨床講義室

第110回歯科医師国家試験に合格し研修歯科医となった97名に、川添堯彬理事長・学長が祝辞を述べるとともに、歯科医療・歯科医師は、Science and Artだけではなく、Heartも人としての徳・気品を患者さんの目線で修練する必要がありますと訓示しました。

森田章介病院長は、医療人として身だしなみ、歯科医師臨床研修の目標、20年先の自身をイメージし、そのために何をなすべきかを考える Career Pass について述べました。



● 2017 年度医療安全講習会

日時：4月13日（木）16：00～17：00

場所：創立100周年記念館大講義室

演題：「医療現場のコミュニケーション一人一人が医院の顔」

講師：小島龍哉氏（株式会社ヨシダ学術渉外部シニア・ディレクター）

出席者数：教職員 169名

患者様と適切なコミュニケーションを図るために、患者様の心理をはじめ、医療従事者の言葉遣いや身だしなみ、クレーム対応等について講習を行いました。

患者様が医療従事者に求めているのは、仕事に対する「真剣さ」と気軽に相談できる「親しみやすさ」だと言われています。それゆえ小島氏は「言葉遣い」や「身だしなみ」がとても大切だと述べられました。病院教職員の中でたった一人でも、身だしなみが悪かったり、あいまいで中途半端な対応をしたりすることで、他の医療従事者の全ての努力を台無しにすることになります。患者様と良い関係を作り上げるために、一人一人が医院の顔という気持ちで業務に励むことを強調されました。



6月

● 2017 年度院内感染対策講習会

日時：2017年6月6日（火）16：00～17：00

場所：創立100周年記念館大講義室

演題：「Clean Hands, Safe Hands. ～手指衛生がきつとできるよ
うになる秘訣～」

講師：堀賢先生（順天堂大学大学院感染制御科学教授）

出席者数：教職員 129名、歯学部5年生 139名、合計 268名

手指衛生は最も基本的な感染予防策ですが、実際には忘れずに行うことはなかなか難しいのが世界共通となっています。今回の院内感染対策講習会では堀先生をお招きし、順天堂医院で



行事報告

実践している持続的に手指衛生を行うための改善策についてお話をいただきました。手指衛生が必要な五つの場面（①患者への接触前、②清潔操作の前、③血液・体液に曝露されたおそれのある時、④患者への接触後、⑤患者周囲環境への接触後）を病院の定義として定め、質的評価法と量的評価法を併用することで急激に改善が得られます。質的評価法とは正しいテクニックで適切な場面で手指衛生が実施されているか直接観察により監査をすることで、量的評価法とはアルコール消費量のモニタリングをすることです。それらの結果をフィードバックし、不十分なところに焦点をあて集中的に改善に取り組むことが重要であると説明されました。

手指衛生は当院の感染対策で最も重要かつ推進すべき内容で



あり、さらなる向上を目指すためにとても有意義な講習会となりました。

8月 ●健康セミナー

本学附属病院では、歯とお口と全身に関する健康セミナー「大阪歯科大学附属病院健康セミナー」を2017年8月から毎月1回開催しています。回を重ねるごとに参加者も増え、講演後にはセミナー講師が各種相談の時間を設けて、参加者の方からの質問・疑問にお答えしています。相談のために残られる方も回を追って多くなっており、歯科と全身に関する市民の方々の意識の高まりが感じられます。

今後も月1回のペースで診療科ごとにテーマを決めて開催していきますので、よろしくお願いたします。なお、右表はこれまでに実施したセミナー内容です。今後、実施予定の日時・テーマ等は、当院ホームページに掲載しております。



8月19日(土) 15:00～16:00	子どものときからの口腔管理 ー小児歯科と矯正歯科との連携の必要性ー	小児歯科科長 小児歯科学講座主任教授 有田憲司
9月22日(金) 15:00～16:00	口腔リハビリテーションの重要性	口腔リハビリテーション科 医療保健学部口腔保健学科教授 糸田昌隆
10月20日(金) 15:00～16:00	睡眠歯科外来 ー睡眠時無呼吸症候群に対する 歯科の取り組みー	高齢者歯科 高齢者歯科学講座助教授 奥野健太郎
11月18日(土) 13:00～14:00	子どもの口腔習癖と受け口	矯正歯科診療主任 歯科矯正学講座准教授 西浦亜紀
12月22日(金) 15:00～16:00	インプラントと上手なお付き合い	口腔インプラント科科長 口腔インプラント学講座主任教授 馬場俊輔

10月 ●附属病院管理運営事務研修会

日時：2017年10月13日(金) 14:00

場所：天満橋学舎共用会議室

一般社団法人日本私立歯科大学協会主催により、年1回行われるもので、第39回目となる本年は当院が当番大学として開催しました。

全国の私立歯科大学附属病院17施設及び協会事務局か



ら事務担当職員等 39 名が参加し、医療安全、歯科医師臨床研修、診療情報、コ・メディカル等の様々な分野に及ぶ全 14 件の課題に対して夕刻まで活発な討議を行い、各々の理解を深めることができました。

また、研修会後にはプラザ・フォーティーンにて懇親会を開催し、各大学の職員間の親睦を深め、情報交換を行うことができました。



● 2017 年度医療機器安全管理講習会

日時：2017 年 10 月 30 日（月）16：00～17：00

場所：創立 100 周年記念館大講義室

演題：「MR 装置を安全にお使い頂くために」

講師：池田浩太郎氏（GE ヘルスケア・ジャパン株式会社 MR 営業推進部中日本ゾーン関西地区担当）

出席者数：144 名

MRI 検査は、磁場と高周波で画像を作成するため電離放射線を使用するエックス線写真やエックス線 CT と比べ安全といえるので、急速に普及してきました。しかし、その反面、MRI 検査における吸着事故等の医療事故報告も少なくないため、本日の講習会を開催することになりました。

より安全に検査を行うための問診の重要性や、磁場の発生は検査中だけでなく MR 装置のシステム電源を切った後も発生していること等の説明がありました。万が一、吸着事故が発生した場合、無理に引き剥がすことは大変危険であり、状況によっては磁場を落とす必要もあり、その時には装置稼働復帰まで数



日かかる場合もあるので、事前の安全確認が重要です。MR 装置は非常に有用な画像診断装置ではあるが、①強い磁場、②電波による発熱、③クエンチに十分注意が必要であるとの講演でした。

●杉中学校で歯磨き・口腔ケアの講座を実施

枚方市立杉中学校で11月9日と16日の2日間、本学附属病の歯科医師と臨床研修歯科医の先生方が、1年生の皆さんに歯磨き・口腔ケアに関する講座を行いました。

これは『枚方市健康医療キャラバン事業』の一環として実施されたもので、杉中学校1年生（7クラス）279人が参加。辰巳浩隆先生と米田護先生の歯科医2名、安樂美千代先生、片山実先生、原田静磨先生、福西晃利先生の臨床研修歯科医4名が訪れ、1クラスずつ講座を行いました。

講座では研修医の先生方が「自分の歯を守るために」をテーマに説明。プロジェクターを使い、むし歯や歯肉炎について、絵や写真で分かりやすく解説しました。「歯が何度抜けても生えてくる生き物は？」「大人の歯は何本あるでしょう？」といったクイズも取り入れ、生徒たちは手を上げて答えるうちに少しずつ興味を持ち始めたようでした。次に、正しい歯みがきやフロスの使い方を体験。研修医の先生方のお手本をまねしながら、



実際に歯ブラシを使って鏡を見ながら丁寧にみがき、虫歯になりにくい歯みがきを学びました。このほか、歯みがき粉に含まれるフッ素の効果などについての説明もありました。生徒たちは「歯ブラシと電動歯ブラシのどちらを使った方がいいですか」「フロスはどれくらい使ったら交換する

べきですか」などと質問し、講座が終わるころには、歯の大切さと自分の歯を守るために必要なことを学んだ様子でした。

本学の楠葉・牧野学舎がある枚方市は、2012年8月に市内の医療系大学や公的病院、関係団体などが協定を締結し「健康医療都市みらかたコンソーシアム（共同事業体）」を設立しています。これは本学を含む14団体が構成し、各団体が連携しながら市民の健康増進や地域医療の充実、災害医療体制の強化に取り組んでいます。「枚方市健康医療キャラバン事業」は、コンソーシアム連携事業の一つとして2014年から行っており、市内の小中学生に健康・医療などの学習機会を提供します。本学関係者は当初から参加しており、今後も各団体と連携しながら、広く皆さまに知識や技術を提供していきます。



●クリスマスコンサート開催

大阪歯科大学オーケストラ部が12月15日（金）、一足早く2017年度クリスマスコンサートを開催しました。開演時間の午後6時半、会場の本学附属病院1階ロビーには、患者さまや多くの市民の方が訪れました。

オーケストラ部の学生たちはサンタの帽子やトナカイの耳を身につけて登場。ディズニー映画「アラジン」の挿入曲『Friend Like Me』から始まり、「スターウォーズ」や「ジュラシックパーク」などの映画メドレーを披露しました。続いてのアンサンブルでは、学年ごとに分かれて演奏。時にはアップテンポに、時にはしっとりとしたメロディを奏で、訪れた方々は目を閉じて聴き入っていました。



2016 年度事業報告

はじめに

本学は、2016（平成 28）年度において、教育、研究、臨床の発展充実、経営の効率化を目指した各種事業を推進した。

歯学部における学生の受け入れについて、広範な入試広報活動の結果、入学志願者の大幅な増加と実質入試倍率の前年度比増を達成した。

歯学部教育において、初年次教育の充実、オナーズ教育への注力、歯学系共用試験、臨床実習の成績の向上に向けて取り組み、前年度に引き続き「文部科学省私立大学等改革総合支援事業」に採択された。

そして、教育の重要なメルクマールである歯科医師国家試験については、新卒者合格率 91.4% という好成績を収めることができた。また、歯科技工士・歯科衛生士国家試験においても前年度に引き続き好成績（合格率 100%）を収めた。

国際交流については、グローバル大学に相応しい教員・学生研修派遣を展開した結果、参加者にとって多くの学術研究上の知見を吸収することができた。

大学院歯学研究科においては、第 1 学年の定員を上回る入学者を確保するとともに、大学院生の研究活動の活性化を推進した。

附属病院においては、その役割を自覚し医療の質の向上と経営効率化に向けて取り組んだ。

歯科衛生士・歯科技工士両専門学校の発展的改組転換に向けて、鋭意準備の結果、8 月には 4 年制大学医療保健学部口腔保健学科・口腔工学科の設置認可を受けることができ、学生の受け入れ活動を行った。そして、現在この学部を基礎とする大学院医療保健学研究科（修士課程 2 年）の設置申請を行っている段階である。

沿革

1911（明治 44）年 12 月 12 日	大阪歯科医学校設立
1912（明治 45）年 1 月 14 日 （創立記念日）	大阪歯科医学校開校式
1917（大正 6 年）年 9 月 7 日	財団法人大阪歯科医学専門学校設立
9 月 25 日	大阪歯科医学専門学校開校
1947（昭和 22）年 6 月 18 日 （大学昇格記念日）	大学令に基づく旧制大阪歯科大学設立
1952（昭和 27）年 2 月 20 日	学校教育法に基づく新制大阪歯科大学設置認可

1961（昭和 36）年 3 月 31 日	大阪歯科大学大学院歯学研究科（博士課程）設置認可
1964（昭和 39）年 4 月 17 日	大阪歯科大学附属歯科技工士養成所（現・大阪歯科大学歯科技工士専門学校）開設
1968（昭和 43）年 5 月 1 日	大阪歯科大学附属歯科衛生士学校（現・大阪歯科大学歯科衛生士専門学校）開設
1997（平成 9）年 4 月 1 日	楠葉学舎竣工、天満橋学舎附属病院竣工、牧野学舎（体育・課外活動施設）と合わせて 3 学舎体制となる。
2011（平成 23）年 11 月 11 日	創立 100 周年記念式典挙行
2016（平成 28）年 8 月 31 日	医療保健学部（口腔保健学科・口腔工学科）設置認可

1. 教学（歯学部教育）の改革

大阪歯科大学は、教育基本法の規定する教育の一般的な目的と方針に則り、歯学に関する学術を中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の領野における学理技術を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、もって文化の創造と発展に貢献することを目的としている。

歯学部においては、教務部委員会による教学支援体制の充実を図り、建学の精神である「博愛」と「公益」に適う歯科医療人育成を目指し、様々な取り組みを行った。

1. 入学志願者増加への取り組み

本学は、アドミッションポリシーとして、「歯科医師として社会に貢献し奉仕する使命感と気概を持つ人」「専門的知識、技能、態度を習得するために着実に努力する人」「国際的視野に立って歯科医学の発展と歯科医療を担う熱意のある人」を掲げ、歯科医療を担う優秀な学生確保を目指した。

また、多様化する入試業務（学生募集の方法、入試広報の展開）に対応するため、新たな試みとしてアドミッションセンターを設置した。その人的配置は、アドミッションセンター長（副学長・教務部長兼任）と専任職員（課長 1 名、主任 1 名）であり、入試委員会による決定を受け、オープンキャンパス、高校訪問、高校生向け入試・入学説明会を積極的に展開した。

2016（平成 28）年度には、このポリシーの改正を行い

2018年度入試の指針とすることになっている。

オープンキャンパスについては、楠葉学舎で7月1回、8月各2回（うち1回は天満橋学舎）、9月1回、合計4回行われ、延べ参加人数は517名で過去最高であった。楠葉学舎でのプログラムは、入試概要説明、本学学生による講演、入試に向けてのポイント講座、体験実習、ミニ講義、キャンパスツアー、個別受験相談会を実施した。さらに、2015年度から始まった本学附属病院での入試説明会と院内ツアーは、82名の参加で好評であった。

また、春季と秋季に大阪、京都、兵庫、広島、岡山等の特設会場では、高校生対象の進学相談会を行い、入試状況最新情報とキャンパスライフ、歯科医師の将来展望などの情報提供を行った。

入試科目については、2017年度より推薦・一般入試において、英語の各種資格・検定試験（注）の結果に基づいて、一定の基準を満たしている場合は、「外国語（英語）」の受験を免除する試みも行った。

（注）英語の各種資格・検定試験について

GTEC for STUDENTS、GTEC CBT、TOEIC、TOEFL(iBT)、TOEFL(PBT)、実用英語技能検定 ※取得時期は問わない。

受験免除基準検定試験スコア・級

GTEC for STUDENTS 600以上、GTEC CBT 880以上、TOEIC 502以上、TOEFL(iBT)51以上、TOEFL(PBT)467以上、実用英語技能検定2級以上となっている。

受験機会の複数化については、一般入試（前期日程）において、東京会場（駿台予備校お茶の水1号館）、福岡会場（代々木ゼミナール福岡校）の他、広島会場（広島YMCA2号館）を追加した。

入学試験成績優秀者特待生制度については、その充実を図り、優秀な学生の確保に努めた。一般入試及び大学入試センター試験利用入学試験においての措置で、概要は以下のとおりである。

・A種（初年度学納金（入学金を除く）免除：515万円、2年次以降は授業料全額免除：380万円×5年、対象人数1名、2年次以降は優秀な成績を維持することを条件）

・B種（初年度は学納金（入学金を除く）免除：515万円（2年次以降は在学中の学業成績優秀者に対し年間授業料から100万円免除）

以上のような取り組みにより、2017年度入試の志願者は昨年度を大きく上回り、募集人員に対する実質競争倍率は2倍を超え、2017年度新生128名を充足した。

2011（平成23）年度（2012年度入試）から実施され第6回目となる編入学試験では、3名が第2学年へ編入となった。

2. インスティテューショナル・リサーチ（IR）室の活動開始

2015年4月から専任職員1名を配置して、教育、学生支援にかかわる情報の収集、分析、研究（教員業績を含む）にかかわるデータの収集、分析、データベースを利用したデータ収集及び検証並びにデータベースの整備、本学の計画策定、政策決定、意思決定業務等の支援等の活動を開始した。

2016年度は、学生の生活実態調査や、授業への皆勤者調査、学業成績下位者に関するデータ集約等、教務部委員会への検討資料として提示した。

現在、学生情報データベースを構築中で、分析ツールを活用することで本学の学生支援体制を整備していくものである。

3. カリキュラムの展開について

本学は、ディプロマポリシーにおいて

①専門的知識、技能、態度を修得し、国民の健康な生活を確保する能力

②汎用能力および危機管理能力をもち、絶えず研鑽を積む習慣

③地球規模で新時代の歯科医学と歯科医療を構築する能力

の3点を学生が修得すべき能力と位置づけ、これらを受けて、カリキュラムポリシーにおいて

①知識、技能および人間性を具えた歯科医師の養成を行うカリキュラムを編成する。

②学生が意欲をもって学習でき、国家試験への備えとしても万全の科目を設ける。

③学生中心主義に基づき、学生と教職員とのふれあいの場を数多く設置する。

④患者さんへの思いやりや温かな心をもった歯科医師の育成に必要な教育を行う。

の4点を掲げている。

2016年度にはカリキュラムポリシー及びディプロマポリシーの改正を行い、修得概要、教育方法、学習成果の評価にわたる諸事項を定めることとしている。

本学歯学部は、特に態度教育科目で初年次教育に力を入れている。

「ODU ソーシャルコミュニティ」は、態度教育科目の「コミュニケーション」の中で、第1学年から第4学年までの全学生が、学長及び教職員とともに枚方市の主催する環境美化活動であるアダプトプログラムに登録し、朝8時から楠葉学舎周辺の歩道での清掃及び通行する地域住民の方々に挨拶を行う内容となっている。学生の皆出席を義務づけ、欠席者には予備日に振り替えて実施することとしている。参加態度はもちろんのこと、経済産業省・社会人基礎力診断から総合的に成績評価を行うとしている。従来からの第1学年次の人権論、早期臨床体験学習、社会福祉施設体験学習は引き続き学生の態度教育の柱として十分機能している。

2016年度から新設の「現代教養」では、マナー指導、学習



態度の確立、プレゼンテーション能力などを通して、歯科医師として必要な素養と思考力、判断力、表現力など様々な状況に臨機応変に対応、解決できる能力を養うことを目的にしている。その中では、漢字検定準2級を第1学年全員に受験させることやオナーズ教育として、TOEICを受験させることによる語学力の向上を目指した。

第3学年次の「研究チャレンジ」は、生涯を通じて「なぜ」「どうして」という研究マインドを学生に涵養することを目的にしており、SCRP（ステューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム）もしくは専門学術大会での成果発表を目指した。

第4学年では、全国共用試験歯学系 CBT を臨床実習へ至る前の重要な試験として、指導体制を強化してその成績が格段に向上した。

2016年度から、第5、6学年に加え第4学年も学生教育支援システムとして DESS モバイルの導入を行い、自学自習を行えるようになった。

また、第4学年にクリッカーを設置し、アクティブラーニングを実施できる体制の整備を図った。

第5学年においては、臨床実習必携を整え学生に配付し、学修の徹底を図った。患者中心型診療システム（POS：Patient Oriented System）に基づいて検査、診断、治療計画にいたる情報収集と基本的歯科診療技術の訓練を行っている。そして、臨床知識試験（年間5回実施）、臨床実習終了時試験を実施している。臨床実習の合格基準は、診療参加経験数、観察記録による評価、臨床実習終了時試験の合格、講義出席率80%以上である。また臨床知識試験の合格基準は平均得点率65%以上である。

臨床実習の完了と臨床実習終了時試験、臨床知識試験の合格をもって歯科臨床教育の単位40単位を修得できる。これらはいずれも進級要件である。

第6学年は、昨年度と同様に学士試験と本学指定の模擬試験により、成績の向上に努め、また既卒者に対してもきめ細かな指導を行った結果、第110回歯科医師国家試験の合格率は新卒者（91.4%）、既卒者（55.7%）となり、共に全国平均を超えた。特に新卒合格率は、国公立大29校中で第5位であり、新卒・既卒を合わせた合格者数は全国でトップであった（118名）。

施設・設備の整備として、楠葉学舎第4実習室実習用顕微鏡の段階的更新、第7、第8実習室歯科技工用モニターの取替え、第8実習室技工機のTVモニター更新、第5大講義室AV機器システム交換を行った。

文部科学省・私立大学等改革総合支援事業

本学は、2016（平成28）年度の上記支援事業に申請し、タイプ1の「建学の精神を生かした大学教育の質向上（教育の質的転換）」に採択された。

この事業は、私立大学が行う様々な改革の全学的な取組に対

し支援するために実施されるものである。本学は昨年度に引き続き採択されたもので、これにより貴重な外部資金である私立大学等経常費補助金（一般補助・特別補助）の増額措置が行われた。

学生生活指導体制

本学の学生生活指導は、各学年の指導教授、助言教員、特別アドバイザー、教育アドバイザー、大学院生のTAにより日々行われている。学生カルテを活用するとともに、学生には「学習ポートフォリオ」の作成を通じて自己成長を確認させ、適切な助言を図ることとしている。

朝の挨拶運動は、2015年度から教授を含めた全ての教員が輪番制で、楠葉学舎正門前に立ち、登学する学生に対して行っており、人間関係の基本である挨拶の重要性を認識させるとともに、学生と教員の信頼関係の構築にも役立つものである。

学生部委員会では、『学生生活ハンドブック』を作成し、全学年に配付している。その内容は、学生生活、学修案内、施設利用案内、諸規則、災害時の対応、学則等の学内関係規程などであり、本学歯学部の基本ルールが理解できるようになっている。

2016年5月11日午前9時から「薬物乱用防止講演会」が、第1学年を対象に、大阪府警、枚方署から各1名の講師を招き開催された。

「学生相談室」は、楠葉学舎と天満橋学舎において、専門の臨床心理士（非常勤3名）を置き、毎週月・火・金に学生・教職員等の相談を行っている。原則予約制で、予約専用電話又は医務室が受け付けている。

学生スポーツの振興

1968年から始まった全日本歯科学生総合体育大会（歯学体：オールデンタル）は、国公立歯科大学・歯学部29校の体育系クラブが参加するスポーツ祭典である。この第48回大会（当番校：東京医科歯科大学）が8月1日から12日まで開催され、本学は総合で4位であった。

2016年7月、学生の課外活動の振興を図ることと、牧野学舎整備計画の一環として、新たにクラブハウスを建設した。各クラブ室のほか、ミーティングルーム、シャワールームが完備されている。

【国際交流】

国際交流は、新たな交流協定締結があった他、交流協定提携校を中心に学生、教員の派遣と受入が下記の日程で実施された。

・中国・山西医科大学と学生交流協定を締結した（2016年8月16日付）（15校目の提携大学）

・コロンビア大学歯学部100周年インプラントCEセミナー

2016 (2016年7月11日～14日)

川添理事長及び本学関係者28名が参加した。セミナーは、コロンビア大学の講師陣によるレクチャーや、オペ見学など多彩なプログラムで開催され、参加者相互で活発なディスカッションが行われた。

・中国・四川大学華西口腔医学院との共同研究(歯科保存学講座)

・海外協定校との学生交流

[受入(2016年7月31日～8月6日)]

南方医科大学口腔医学院(学生5名、教員1名)、北京大学口腔医学院(学生5名、教員1名)、台北医科大学口腔医学院(学生3名、教員2名)、山西医科大学口腔医学院(学生4名、教員1名)

特別講義(英語での講義)、天満橋学舎附属病院、外部歯科診療所を見学した。

[派遣]

四川大学華西口腔医学院インターナショナル・サマーキャンプ(2016年7月3日～15日)

本学第5学年2名が参加し、同大学口腔医学院での講義、実習、病院・教育研究施設見学や同大学主催の口腔技能試験を受験した。他に日本から日本歯科大学の学生が参加した。(他にアメリカ、オランダ、タイの各1大学からの参加)

(引率教員：准教授1名)

北京大学口腔医学院(2016年7月23日～29日)

本学第2学年1名、第3学年2名が参加し、病院での診療見学、大学での特別講義を受講した。(引率教員：講師1名)

台北医科大学口腔医学院(2016年7月23日～29日)

本学学生2名(第2学年1名、第4学年1名)が参加した。現地では、大学講義室、実習室の見学、病院診療科における実際の診療の見学が行われた。(引率教員：講師1名)

シドニー大学歯学部(2016年8月13日～22日)

学生5名(第3学年4名、第4学年1名)が研修プログラムに参加した。(引率教員：講師1名)

コロンビア大学歯学部(2017年3月11日～21日)

学生7名(第5学年)が研修プログラムに参加した。

(引率教員：准教授1名)

【社会連携・社会貢献】

・枚方市との連携事業への参画

枚方市と枚方所在の5大学との地域連携を図るため設置されている「学園都市ひらかた推進協議会」の第17回目会合が、2016年5月30日に関西外国語大学において開催された。協

議会では「中高生を対象とした大学体験事業」「こども大学探検隊」「ひらかた市民大学」などの生涯学習講座について、これらを実施していくことが確認された。

本学においては、下記の連携事業が開催され、地域に開かれた大学として市民に開放した。

[中高生を対象とした大学体験事業](2016年8月21日)

楠葉学舎において、「リアル歯科大を体験しよう」と名付けて、キャンパスツアーやミニ講義、体験実習などを行い、本学の魅力をアピールした。(受験生向けオープンキャンパス2016と併催)

[こども大学探検隊](2016年10月29日)

楠葉学舎において、本学学生有志が運営スタッフとなり、ミニ講義、参加者の体験実習(指模型の作製実習)などが行われ好評であった。(本学楠葉祭(文化祭)と併催)

[ひらかた市民大学](2016年11月26日)

楠葉学舎大学院講義室において、本学教員が「歯の大切さを学ぼう～お口を健康に、そして元気な老後へ」をテーマに講演を行った。

さらに、枚方市が推進するもうひとつの連携事業である「健康医療都市ひらかたコンソーシアム」については、今年度は、本学公開講座が共催事業として開催された。

また、本学は、2020年開催の東京オリンピック・パラリンピックに対する大学連携協定を締結しており、学内教職員・学生への周知を図るなどのPR活動を継続的に行っている。その関連で、枚方市の要請により、枚方市青少年育成指導員連絡協議会主催の市民啓発事業「パラリンピック銀メダリスト・山本篤選手講演会」の会場として、楠葉学舎講堂を提供し、多数の市民に開放した(開催日：2017年3月4日)。

・第24回大阪歯科大学公開講座

本学の恒例事業となっている公開講座を「めざそう健康長寿：QOL向上に直結する口腔ケア」のメインテーマで、外部機関から1名、本学教員1名が講師を務め開催した。

天満橋(9月3日、10日)・楠葉(2月18日、25日)両講座の延べ受講者は680名を得て好評であった。なお、1993年度第1回から今回までの延べ受講者数は、25,018名である。

サブテーマ	天満橋講座 受講者数	枚方講座 受講者数
元気になる口腔ケアのすすめ ～健口から健康生活へ～	130名	212名
口腔ケアが肺炎予防に！！	120名	218名



・セレッソ大阪スポーツクラブとの連携研究協定締結

2016年2月に本学は、一般社団法人セレッソ大阪スポーツクラブ（代表理事・宮本功氏）と連携研究協定を締結したが、口腔環境とフィジカルパフォーマンスとの関連を明らかにする目的で、次年度に向けて具体的な取り組みを検討している。内容としては、本学附属病院各診療科の協力でセレッソ大阪所属選手の歯科検診を実施することとしている。

・高大連携の取り組み

2016年9月30日、大阪聖母女学院高等学校（現・香里ヌヴェール学院高等学校）と本学は、「教育の連携協力に関する協定」を締結した。高大連携による次世代を担う人材の育成が課題となっているが、本学も高大接続を推進することとなった。

協定内容は、(1) 教育に対する相互支援、(2) 生徒・学生の相互交流、(3) 教員の相互交流、(4) その他協議し同意した事業、(5) 協定に基づく推薦入学試験の実施であり、次年度に向けて具体的な高大連携プログラム（スーパーサイエンスコース：高校生向けの講義等）の取り組みを検討している。

II . 大学院の改革

大阪歯科大学大学院歯学研究科は、大学院生に歯学に関する学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて文化の進展に寄与するとともに、大学院生を当該専攻分野に関する高度の研究指導者に養成することを目的としている。そして、入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）、教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を定めている。

1. 大学院生の入学者増加計画、外国人留学生、大学院教員の増強等

2017年度入試では、定員30名の中、36名の入学者を確保した。このうち、中国からの外国人留学生入学者の5名をはじめ、2016年度から実施した社会人特別入試は、入学者が7名となり、好調な状況となった。

また、歯科基礎系専攻への志望者を確保する観点から、授業料の半額免除制度を継続し、この制度を利用して3名の基礎系志願者が入学した。

大学院生には、海外での研究発表を積極的に推進しているが、2016年度は14件あり、これに対して研修費として助成（助成総額：117万1000円）を行った。さらに大学院生の研究14件に対しても学術研究奨励助成金として総額で250万円の助成を行った。

文部科学省インターンシップへ大学院生が応募し採用されたので、これについても研修費を支給した。

2. 大阪歯科大学学術リポジトリの開設と教育研究業績の公開について

文部科学省が推進する学術情報の公開については、すでに2015年度から大学院ホームページに、課程博士（甲）、論文博士（乙）の区分ごとに全学位授与者の「学位記番号」「氏名」「論文題名」「授与日」「論文要旨」等閲覧できるようにしていた。その後、2016年8月1日から新たに上記リポジトリを開設し、学位論文内容要旨及び審査結果の要旨は学位授与後3ヶ月以内に、また、学位論文全文は、学位授与後1年以内に掲載することとしている。

また、『大阪歯科大学教育研究論文目録』を刊行し、関係機関や国立国会図書館などの公的機関に配付するとともに、本学ホームページ（大学トップ>6年間の学び>研究室紹介）に掲載している。

3. 研究不正行為防止及び公的研究費の管理について

文部科学省の「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン（平成26年8月26日文部科学大臣決定）」に基づいて、その徹底を図った。研究倫理委員会は、今年度3回開催し、研究倫理教育として、「研究倫理講習会」を2016年10月7日、2017年2月24日開催した。

規程の整備については、「大阪歯科大学における研究活動上の不正行為の防止及び対応に関する規程」を2017年2月23日に改正し、さらに新たに「大阪歯科大学における研究データ等の保管等に関する申し合わせ」を2017年2月23日に制定した。

公的研究費の管理については、文部科学省の「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」に基づき、毎年度チェックリストを、主任教授会、監事の確認後に同省へ提出している。

医の倫理委員会関係では、「人を対象とする医学系研究に関する講習会」を4月1日、11月2日の2回開催した。

4. ティーチング・アシスタントの採用について

学部学生に対する教育補助として18名の採用を行った。これに採用された大学院生は手当が支給されており、ティーチング・アシスタント勤務実績報告書の提出を義務づけている。

5. リサーチ・アシスタントの採用について

日本私立学校振興・共済事業団の学術研究振興資金による研究によりリサーチ・アシスタント（大学院生の研究補助者）1名を採用した。

6. ポスト・ドクトラルフェローの採用について

平成24年度から継続して大学院教員の増強を行った他、講師（非常勤）についても補充を行った。ポスト・ドクトラルフェローについても2名を採用した。

Ⅲ. 附置施設の活動

本学には、共同利用の附置施設として図書館、中央歯学研究
所、教育情報センターがある。

【図書館】

本学図書館は、楠葉学舎に本館、天満橋学舎に分室を置き、
利用サービスの充実を図った。(2017 年度より牧野学舎(医療
保健学部)に分室が新設)

教育研究活動及び学生の自学自習のために必要な図書、学術
雑誌、電子媒体を備えている。

- ・蔵書冊数 179,768 冊
- ・所蔵冊子雑誌タイトル数 2,219 冊(和書・洋書等の合計)
- ・電子ジャーナル 4,862 (タイトル数、購入のみ:日本語・外
国語の合計)

従来から行っている試験期等の期間を定めての休日特別開
館、情報提供サービス(医学中央雑誌 Web 版、電子ジャーナル等)
の他、2016 年 8 月から学内向けに図書館メールマガジンの配
信を開始した。

【中央歯学研究所】

口腔科学分野に必要な 10 の実験施設と中央材料室があり、
単独の講座・教室で維持することがむずかしい実験機器を多
数設置し、本学の研究の中核施設として役割を担っている。
教育研究用機器備品の整備(全自動ウェスタン Wes、顕微鏡
LSM700 デジタルカラーカメラ)、『中央歯学研究所報第 8 号』
を刊行し、学内配付とともに国立国会図書館に送付した。中央
歯学研究所講演会を、9 月 21 日、1 月 18 日、2 月 15 日の合
計 3 回開催した。

【教育情報センター】

本学におけるネットワーク機器更新・交換、ソフトウェアの
バージョンアップ、既存インフラの維持及び運営管理に努めて
いる。ODU ネット(大学系システム、病院系システム)の運
用管理を行った他、牧野学舎(2017 年 4 月開設の医療保健学
部のメインキャンパス)における LAN 設備敷設工事について、
運用環境の整備を行った。

Ⅳ. 教員人材の整備

1. 教員選考関係規程の見直し

2016 年 8 月の本学医療保健学部設置認可に伴い、次年度か
らの教員関係諸規程(選考、定員、選考基準)の見直しを行った。
また、2017 年度より本学附属病院において診療を担当する教
員として新設する「診療系教員」の関係規程の整備も合わせて
行った。

規程名	改正・制定の要点
学校法人大阪歯科大学教員の 定員等に関する規程	医療保健学部教員の定員
大阪歯科大学教員選考規程	医療保健学部教員の選考方法 等の新設
大阪歯科大学教員任用規程	医療保健学部教員の選考基準 の新設
学校法人大阪歯科大学管理運 営規則	学部長、学科長の新設
大阪歯科大学診療系教員選考 規程	診療系教員の選考基準・方法 規程

2. 教員の資質向上への取組

ファカルティデベロップメント(FD)セミナーについては、
下記の内容で外部講師を招聘するなどし、10 回開催し、積極
的に実施した。

【2016 年度 F D セミナー一覧】

●第 1 回 4 月度 開催日時: 4 月 25 日(月) 17:00 ~ 18:00
演題: 「CBT 問題公募要領と問題作成のポイント」
出席者数: 教職員 130 名

●第 2 回 5 月度 開催日時: 5 月 9 日(月) 17:00 ~ 18:00
演題: 「CBT 視覚素材採択に向けた講習会」
出席者数: 教職員 127 名

●第 3 回 6 月度 開催日時: 6 月 5 日(日) 9:30 ~ 16:15
演題: 「歯学系 CBT 問題作成についてのワークショップ」
出席者数: 教員 30 名(指名制)

●第 4 回 6 月度 開催日時: 6 月 24 日(金) 17:00 ~ 18:00
演題: 「診療参加型臨床実習について考える」
出席者数: 教職員 135 名

●第 5 回 7 月度 開催日時: 7 月 4 日(月) 17:00 ~ 18:30
演題: 「日本とアメリカの歯科教育及び歯科医療の共通点と相
違点」
出席者数: 教職員 151 名

●第 6 回 9 月期 開催日時: 9 月 29 日(木) 17:00 ~ 18:30
演題: 「歯科からの食育」~ 未来の大人たち、未来の子どもたち、
そのまた未来の子どもたちのために~
出席者数: 教職員 182 名

●第 7 回 10 月期 開催日時: 10 月 13 日(木) 17:10 ~ 18:40



演題：「発達障がい・学習障がいを持つ学生の見極め（発見）とその指導（対応）」

出席者数：教職員 174 名

●第 8 回 11 月期 開催日時：11 月 10 日（木）17:10～18:40

演題：「学生指導における共感的な関わりのコツ」

出席者数：教職員 168 名

●第 9 回 11 月期 開催日時：11 月 28 日（月）17:00～18:30

演題：『アクティブラーニングで教える』という誤解を考える

出席者数：教職員 140 名

●第 10 回 2 月期 開催日時：2 月 13 日（月）17:00～18:30

演題：歯科教育における e ラーニング教材の作成

出席者数：教職員 132 名

V. 外部資金の獲得状況による教育研究の進展

平成 29 年度文部科学省科学研究費助成事業への申請及び採択件数の増加のための説明会を 10 月 3 日、10 月 4 日の 2 回開催した。平成 28 年度の科学研究費を含む外部資金の獲得状況は以下のとおりであった。

○平成 28 年度科学研究費補助金（新規+継続）

基盤研究（B）	2 件
基盤研究（C）	38 件
挑戦的萌芽研究	5 件
若手研究（B）	16 件
研究活動スタート支援	1 件
合計	62 件
補助金交付額	7670 万円（間接経費 2301 万円）
合計	9972 万円

○平成 28 年度私立大学等経常費補助金

（日本私立学校振興・共済事業団）

3 億 8529 万 9000 円（一般補助+特別補助*）

（内、32,497,000 円は、私立大学等改革総合支援事業）

*特別補助の内訳

・大学等の国際交流の基盤整備

（海外からの学生の受入れ、海外からの教員の招へい、学生の海外派遣、教員の海外派遣、大学等の教育研究環境の国際化、実践的な語学力の習得や国際理解の推進）

・大学院等の機能の高度化（大学院における研究の充実（女性研究者支援）、研究施設運営支援（中央歯学研究所））

・授業料減免及び学生の経済的支援体制の充実（卓越した学生に対する授業料減免等（本学特待生制度））

・私立大学等改革総合支援事業（タイプ 1 教育の質的転換）

○平成 28 年度学術研究振興資金（日本私立学校振興・共済事業団）1,900,000 円

○平成 28 年度厚生科学研究費補助金（厚生労働省）（分担）1 件 100,000 円

○難治性疾患実用化研究事業（分担）1 件

（国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED））

4,862,000 円（直接経費 442 万円、間接経費 44.2 万円）

VI. 附属病院の財務改革

本学附属病院では、患者の方々への診療を通じて歯科医学の教育研究を達成するとともに、地域社会に貢献することを目的としている。その達成のために、「病院理念」においては、「患者さんの病に共感し、あたたかい医療を提供する」ことを理念とし、安全・安心な医療に努めること、良質で高度な先進的医療の提供、人権を尊重し、公正な医療を行うこと、人間性豊かな、優れた医療人の育成を基本方針としている。

2016 年度も引き続き、地域歯科医療の中核として、地域住民の方々に高度な歯科医療を提供するとともに、学生教育（臨床実習）、研修歯科医師の研修の場として、歯科大学附属病院に与えられた使命を果たす取り組みを行った。

医療機器の更新については、今年度は高圧蒸気滅菌装置（クリーンスチーム仕様）及び純水製造装置、マルチカラーレーザー光凝固装置、パノラマ X 線撮影装置、チェアーユニット、電動リモートコントロールベッド、輸血用検査機器について行った。

天満橋学舎附属病院の建物（設備も含む）については、南館が 1960 年、西館が 1973 年、本館が 1997 年の建設であり、建物の補修、設備の取替を計画的に行った。

1. 附属病院組織改革委員会の取り組み

2016 年 4 月から、理事会のもとに、法人関係委員会である附属病院組織改革委員会（以下「改革委員会」）を設置し、患者数増加を第一の目標として取り組みを行った。

改革委員会では、検討資料として毎月の来院患者数目標達成状況を確認するとともに、附属病院全診療科長（臨床系講座主任教授、診療科責任者）が出席する病院運営委員会において、上記資料をフィードバックすることにより、診療科主体の経営改善の重要な資料とした。

さらに改革委員会では、

- (1) 全診療科の土曜開院
- (2) 附属病院の診療室再編成（本館・南館 2 階の診療室の再編）
- (3) 医科歯科連携の推進
- (4) 歯科救急外来の設置
- (5) スペシャルニーズ部門の新設
- (6) 病院事務管理体制の見直し

などの提案がなされ、次年度に向けて鋭意実施に向け取り組んでいくこととなった。

また、附属病院で診療に携わる医員として、「診療系教員」を置くことを決定した。所属については附属病院当該診療科であり、研究歴、科学研究費申請などの処遇については別途規程を定めた。

なお、この関連で、2017年度から新たな診療科として口腔リハビリテーション科を開設することとなり、総合診療・診断科はそれぞれ総合診療科、口腔診断科となった。

2. 2016年度患者数・医療収入等

2016年度の医療収入については、19億5272万4722円であった。

同じく外来患者数については、24万6245人、一日平均1006.9人であった。(平日の開院日数241日、土曜日診療は開院日数48日で初診・再診を合わせ4729人、一日平均98.5人であった。)

3. 完全電子カルテ化の検討

病院情報システムを導入して1年を経過している。完全電子カルテに向けてヒアリングを行い実施に向けて検討している。

4. 歯科医師の派遣、訪問歯科診療

社会福祉法人阪神福祉事業団センター診療所、日本放送協会(大阪放送局)への医員派遣を行った他、訪問歯科診療としては、国家公務員共済組合大手前病院、関西電力病院において実施している。関西医科大学天満橋総合クリニックからMRIの特殊検査依頼を受け付けている。

5. 歯科医師臨床研修

2016年度の修了者は106名で、前年度より18名増加であり、研修歯科医受入施設は43施設であった。臨床研修費等補助金は、昨年度より1091万円増の8350万6000円であった。

下表は、2012年度から2016年度までの本学の研修歯科医受入人数の推移である。本学附属病院の受入定員は160名であるため、受入実績人件費、労力軽減の観点から2017年度は定員削減について検討する。

■本学研修歯科医受入人数の推移 (人)

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
単独型	28	32	22	18	22
複合型	74	84	68	70	84
合計	102	116	90	88	106

6. 病診連携講演会・懇談会

例年行われている病診連携講演会・懇談会は、2016年度で14回目を迎え、2017年2月25日に「外科的矯正治療に係る矯正歯科と口腔外科との病診連携」として、紹介元医療機関及

び本学教員で各1題を演題として講演した。

なお、他の医療機関から今年度本院へ紹介された新患者数は1万112人であった。

7. 地域医療連携

地域歯科医療の支援として、本年度も引き続きCT、MRI、コンビームCT及び病理組織検査について、地域の歯科診療所の先生方に利用されている。「大手前病院・大阪歯科大学附属病院協力医療機関定例連絡協議会」を3ヶ月に1回開催している。また、施設基準「感染防止対策加算2」の届出に当たっては、要件となる院内感染防止に係る病院との連携を大手前病院との間で締結している。同様に大手前病院と連携しているコープ大阪病院と共に年4回の合同カンファレンスを開催するなど、院内感染防止の向上に努めている。

8. 院内感染対策講習会、医療安全講習会、医療機器安全管理講習会等の開催

2016年度は下記の日程で開催され、多数の教職員が受講した。

・院内感染対策講習会

4月28日「医療従事者がうつさない、うつされないためのワクチン接種の重要性」

5月10日「歯科診療におけるスタンダードプリコーション」

6月16日「一般歯科診療時の感染対策～手指衛生とPPEを中心に～」他8回開催

・医療安全講習会

7月25日「組織全員で取り組む患者安全～患者安全を祈りから行動へ～」他8回開催

VII. 医療保健学部の展開

1. 設置の経緯・趣旨

2015年9月24日の第922回理事会において、本学歯科技工士専門学校・歯科衛生士専門学校の4年制大学(新学部:医療保健学部)への改組転換が議決された。その後、学部名称を医療保健学部、学科名称を口腔工学科、口腔保健学科と定め、文部科学省への申請手続きを行い、カリキュラム編成、教員の人的配置等を検討し、理事会、教授会、評議員会の議を経て、最終的な学部申請書類を提出し、2016年8月31日付で文部科学大臣から大阪歯科大学医療保健学部の設置認可書、学校法人大阪歯科大学寄附行為変更認可書が交付された。

大阪歯科大学医療保健学部口腔保健学科・口腔工学科は、超高齢社会が必要とする優れた歯科医療人を養成し、口腔の健康を通じて国民が健康で安心して暮らせる社会づくりに貢献することを設置の趣旨とし、以下のアドミッションポリシーを策定した。

医療保健学部が求める学生は、「思いやりの心を持ち、人と温かく接して協調性とコミュニケーション能力に優れ、医療と福祉に高い関心と学習意欲を持ち、社会に貢献できる医療人と



なるための絶え間ない学習と努力ができる者」とする。各学科においてのアドミッションポリシーは以下の通りである。

【口腔保健学科】

口腔の健康に寄与するためには、自己管理ができることが必要である。また、多職種連携のためには協調性が重要である。さらに、歯科医療の発展のために独創性がある発想を持つことが必要であり、口腔保健学科として次のような学生を求める。

- ・口腔保健学を学ぶに当たり、十分な基礎学力を有する者
特に「外国語（英語）」、「数学」、「国語」及び「生物」について高等学校までに履修した、教科書レベルの基礎的な知識を有する者
- ・既存の概念にとらわれず、知識や技術への旺盛な探究心を持ち、向上に取り組む志を持つ者
- ・他者の話を聞き、協調して問題に取り組める者
- ・自己の健康管理ができる者
- ・人の健康の維持と増進に貢献する意欲がある者
- ・口腔の衛生管理に強い関心がある者

【口腔工学科】

口腔の健康に寄与するためには、自己管理ができることが必要である。また、多職種連携のためには協調性が重要である。さらに、口腔装置の製作技術に優れ発展させるためには科学技術への関心と開発への興味が必要であり、口腔工学科として次のような学生を求める。

- ・口腔工学を学ぶに当たり、十分な基礎学力を有する者
特に「外国語（英語）」、「数学」、「国語」、「生物」、「物理」及び「化学」について高等学校までに履修した、教科書レベルの基礎的な知識を有する者
- ・既存の概念にとらわれず、知識や技術への旺盛な探究心を持ち、向上に取り組む志を持つ者
- ・科学技術に関心がある者
- ・他者の話を聞き、協調して問題に取り組める者
- ・自己の健康管理ができる者
- ・人の健康の維持と増進に貢献する意欲がある者

2. 学生の受け入れ

上記のアドミッションポリシーに基づいて、担当教員とともに医療保健学部設置準備室では、2016年のオープンキャンパスを実施した。

- 第1回 6月19日（日）、第2回 7月23日（土）
第3回 7月24日（日）、第4回 8月12日（金）
第5回 8月21日（日）、第6回 9月18日（日）
参加延べ人数は、182名であった。

2017年度医療保健学部入学試験は、推薦入試、一般入試（前期・後期）、大学センター試験利用入試、推薦入試、特別入試の区分で実施され、その結果、口腔保健学科48名、口腔工学科10名の入学者であった。

3. キャンパスの整備

医療保健学部のメインキャンパスは、枚方市牧野本町の牧野学舎とし、既存校舎のリニューアル工事を行った。

1号館（医療保健学部基本棟）

- 1階 学部長室、応接室、保健室、女子ロッカー室、学部事務室倉庫、教授室、准教授室、講師室
- 2階 コンピュータ実習室、教授室、准教授室、講師室
- 3階 社会福祉実習室、第1セミナー室、第2セミナー室、第3セミナー室

2号館 1階～3階 口腔保健学科基本棟（講義室・実習室等）

3号館 1階～3階 口腔工学科基本棟（講義室・実習室・図書館） 福利厚生棟 学内レストラン・書店（ミニコンビニ）

4. 医療保健学部関係規程、学生生活の指針等の整備

2017年4月の新入生授業開始を控え、履修規程等の関係規程や学生生活のためのルールを定めた冊子等の整備を行った。

- ・学則、履修規程、社会福祉士コース履修規程、各種委員会規程
- ・学生生活の指針（授業時間割、シラバス、学生生活ハンドブック等）

5. 大学院医療保健学研究科の設置申請準備について

医療保健学部を基礎とする大学院医療保健学研究科（修士課程：2年）を2018年4月に設置することを目的に設置申請の準備を行った。

同研究科は、高度な専門的知識と技能を持つとともに歯科医療の変革に応じられる歯科医療人、並びに歯科衛生士や歯科技工士の専門性を生かした研究を通じて歯科医療の発展に貢献できる人材を養成して歯科医療の発展と人々の健康の増進に寄与することを目的としている。

6. 歯科技工士専門学校、歯科衛生士専門学校

歯科技工士専門学校は、特色ある歯科医療専門職教育を行い、2016年度国家試験の合格率は100%であった。また今期の歯科技工学科の卒業生の就職状況は、全員が歯科医院、歯科技工所への採用が決まり100%の就職率であった。

歯科衛生士専門学校は、特色ある歯科医療専門職教育を行い、2016年度国家試験の合格率は100%であった。今期の求人数は1000件を超え、卒業生の進路は、全員が歯科医院、本学附属病院への就職及び短期大学進学となっている。

VIII. 法人・大学の管理運営

本学は、前年度に引き続き、限られた収入の中から教育・研究・診療の各活動の活性化に努めるとともに、人材育成、施設設備の整備、業務改善を進めた。

- ・医療保健学部の設置認可に伴い、基本規程である寄附行為、学則、委員会規程の改正、役職者（学部長、学科長）の新設、事務組織の改正（医療保健学部事務室の設置）を行った。

- ・大学ホームページを充実させ、本学の特色について広報活動を活発に行った。大学公式フェイスブック及びLINE@を開設し、日々更新を行いステークホルダーのニーズを的確に把握するように努めている。
- ・環境省が推進しているスーパークルビズ、ウォームビズを本学理事会決定で実施し、夏季及び冬季の省エネルギー意識の高揚に努めた。
- ・人材育成について、職員のSDが大学設置基準で義務化されたことを受けて「大阪歯科大学SD実施方針」を定めた。従来から職員研修は行われてきたが、2016年度より新任者、部課員、管理職別に階層別研修、目的別研修（全体研修・業務研修・FDセミナー出席・派遣研修）、OJT研修、職場外研修の区分でSDを行うこととし、2016年8月9日に管理職研修「厚生補導」と「3つのポリシーに基づく大学の取組の自己点検・評価」をテーマとして実施した。
- ・教職員の人権意識高揚のため、2016年8月31日、10月31日に「どんな行為がハラスメントに当たるか？」をテーマに、本学人権教育専任教員による「人権講演会」を開催した。

【附属資料】

1. 2016年度学生数（2016年5月1日現在） ()は女子

大学	第1学年	135 (61)	大学院	第1学年	35 (9)
	第2学年	139 (61)		第2学年	23 (6)
	第3学年	136 (69)		第3学年	17 (4)
	第4学年	147 (52)		第4学年	25 (9)
	第5学年	129 (55)			100 (28)
	第6学年	156 (71)			
		842 (369)			

歯科技工士専門学校	1年	11 (4)	専攻科1年	1 (0)
	2年	13 (4)	専攻科2年	4 (1)
		24 (8)		5 (1)

歯科衛生士専門学校	1年	47 (47)
	2年	43 (43)
	3年	42 (42)
		132 (132)

2. 第110回歯科医師国家試験の結果 2017年3月17日合格発表

	(総 数)		(新 卒)		(既 卒)				
	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数			
本学	160	118	73.8	81	74	91.4	79	44	55.7
全国	3,649	1,983	65.0	1,835	1,420	76.9	1,194	557	46.6

3. 2017年度入学試験状況

学部・研究科	選抜区分	志願者数	合格者数	入学者数
歯学部	推薦	67	49	128
	一般前期	334	63	
	一般後期	102	3	
	センター前期	101	10	
	センター後期	24	3	
	外国人留学生	0	0	
	編入前期	5	3	
編入後期	1	0	3	

学部・研究科	選抜区分	志願者数	合格者数	入学者数
口腔保健学科	推薦	34	31	48
	一般前期A	18	15	
	一般前期B	7	4	
	一般後期	4	3	
	センター前期	8	3	
	センター後期	3	3	
	社会人	0	0	
	帰国生	0	0	
	特別募集	0	0	
	外国人特別	0	0	
口腔工学科	推薦	4	4	10
	一般前期A	5	3	
	一般前期B	4	2	
	一般後期	3	1	
	センター前期	3	1	
	センター後期	1	1	
	社会人	0	0	
	帰国生	0	0	
	特別募集	1	1	
	外国人特別	1	1	
大学院	一般一次	15	14	36
	一般二次	10	10	
	社会人特別	7	7	
	外国人留学生特別選抜	5	5	

- 2015年度会計実査 2016年4月4日(月)
- 大学・大学院入学式 2016年4月4日(月)午前10時(於:植葉学舎)
- 2016年度大学新入生研修
2016年4月4日(月)12時30分(於:植葉学舎)
4月5日(火)午前9時(於:植葉学舎)
4月6日(水)午前9時(於:植葉学舎)
- 2016年度FDセミナー(本文参照)

- 2016年度薬物乱用防止講演会
2016年5月11日(木)午前9時(於:植葉学舎)
講師:大阪府警・枚方署各1名 対象者:第1学年
- 2015年度監事監査 2016年5月13日、16日(於:植葉学舎)
- 解剖体慰霊祭 2016年5月20日(金)午後2時(於:四天王寺)
- 大学父兄会・共済会総会(於:植葉学舎)
2016年6月25日(土)午後1時 父兄出席者数287名
- オープンキャンパス
1) 歯学部オープンキャンパス(於:植葉学舎、第2回のみ天満橋学舎)
・第1回 2016年7月18日(月)176名参加(うち、学生75名)
・第2回 2016年8月12日(金)82名参加(うち、学生38名)
・第3回 2016年8月21日(日)139名参加(うち、学生82名)
・第4回 2016年9月25日(日)123名参加(うち、学生54名)
2) 医療保健学部オープンキャンパス
・第1回 2016年6月19日(日)46名参加(うち、学生34名)
・第2回 2016年7月23日(土)
・第3回 2016年7月24日(日)2回・3回合計37名参加(うち、学生32名)
・第4回 2016年8月12日(金)39名参加(うち、学生19名)
・第5回 2016年8月21日(日)31名参加(うち、学生17名)
・第6回 2016年9月18日(日)29名参加(うち、学生28名)
(於:牧野学舎、第4回:天満橋学舎、第5回:植葉学舎)
- 第48回全日本歯科学生総合体育大会(当番校:東京医科歯科大学歯学部)
2016年8月1日(月)~8月12日(金) 本学は総合第4位
- 2016年度人権講演会
2016年8月31日(於:100周年記念館)、10月31日(於:植葉学舎)
テーマ「どんな行為がハラスメントに当たるか」講師:人権教育室 李 嘉永講師
- 第24回公開講座
・メインテーマ 「めざそう健康長寿:QOL向上に貢献する口腔ケア」
・日程 天満橋講座 2016年9月3日(土)、10日(土)
受講者延べ250名(於:100周年記念館)

- 校方講座 2017年2月18日(土)、25日(土)
受講者延べ430名(於:植葉学会)
(時間21:00~午前10時~正午)
16. 第6学年父兄会 2016年9月19日(月)午後2時(於:100周年記念館)
 17. 2016年度地方父兄会(和歌山県)(於:シテイイン和歌山)
2016年10月16日(日) 保護者9組出席
 18. 2016年度大学祭(テーマ:COLORFUL)
・体育祭 2016年10月22日(土)(於:牧野学会)
・文化祭 2016年10月29日(土)、30日(日)(於:植葉学会)
 19. 解剖体適性返還式 2016年11月4日(金)午後2時(於:植葉学会)
 20. 実験動物慰霊祭 2016年11月18日(金)12時35分(於:植葉学会講堂)
 21. 2016年度防災・防火訓練 植葉学会 2016年12月2日(金)
牧野学会 2016年12月9日(金)
天満橋学会 2016年12月2日(金)
 22. 2016年全学教職員忘年懇労会 2016年12月28日(於:天満橋学会)
 23. 2017年新年五礼会 2017年1月5日(於:植葉学会)
 24. 2016年度共用試験歯学系CBT並びにOSCE
・CBT 2017年2月21日(火)午前9時30分(於:植葉学会)
・OSCE 2017年3月19日(日)午前9時(於:天満橋学会)
 25. 教授退職記念講演会(於:100周年記念館)
2017年2月26日(日)(於:100周年記念館)
田中昭男主任教授(12:10~)、佐ノ木幸夫主任教授(13:10~)
小正裕主任教授(14:10~)、方一如専任教授(15:10~)
小出武専任教授(16:10~)、末瀬一彦専任教授(17:10~)
 26. 平成28年度卒業式並びに大学院学位認定式
2017年3月10日(金)午前10時(於:植葉学会)

27. 2016年度歯科医師臨床研修修了証授与式
2017年3月30日(木)午後2時30分(於:天満橋学会)
28. 医療保健学部設置認可(平成28年8月31日付)、2017年4月1日牧野学会に開設
口腔保健学科 入学定員70名
口腔工学科 入学定員30名 ※私大初の4年新歯科技工士養成機関
・医療保健学部開設記念シンポジウム2016年10月30日(日)(於:ホテル日航大阪)
「近未来の歯科医療のすがた デジタルデンティストリーの世界(CAD/CAM)」107名出席
29. 歯学部アドミッションポリシーの改正
【新】(2016年6月22日主任教授会承認)
私たちは、先輩が地まめ努力で築いた礎を守りながら、建学の精神に基づき、新時代の歯科医療を担い、人々の口腔の健康を守る能力および適性を充分に有する高潔な人格、高邁な精神を持った次のような人材を求めています。
・歯科医学を学ぶために充分な基礎学力を有する人
・社会に貢献し奉仕する使命感と気概を持つ人
・自ら考え、自ら努力し、かつコミュニケーション能力を有し、協調性のある人
・専門的知識、技能、態度を習得するために着実に努力する人
・国際的視野に立って歯科医学の発展と歯科医療を担う熱意のある人
・歯科医師としての倫理観、世界観などを備える幅広い豊かな人間力と行動力を持っている人
30. アドミッションセンターの設置
31. 大学特待生の採用
2年から6年の各学年3名、計15名に対し授業料100万円免除
32. 大学学内奨学生選考
4名の学生に対して総額2,950,000円の奨学金を貸与
33. 牧野学会クラブハウス竣工(竣工式:2016年7月4日)
34. 平成28年度SCRP(スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム)日本代表選抜大会において4年生・小村見広さんが臨床部門第2位に入賞
(2016年8月19日)
・研究テーマ「フッ素置換樹脂酸を用いた歯面の化学修飾による着色予防」
・共同研究者:榮嶺也さん、藤崎百合絵さん、島岡毅さん(4年)

35. 大阪聖母女学院高等学校と「教育の連携協力に関する協定」を締結
(2016年9月30日付)
36. 2017年度臨床研修歯科医の募集定員
単独型研修方式30名、複合型研修方式130名
37. 学位授与
学位記番号 甲第788号~812号 25名に学位記授与
学位記番号 乙第1603号~1605号 3名に学位記授与
38. 創立100周年記念館 第36回大阪都市景観建築賞(愛称:大阪まちなみ賞)
“奨励賞”受賞(2017年1月17日)
39. 2016年度法人理事会・法人評議員会・歯学部主任教授会・歯学部教授会・医療保健学部教授会・大学院研究科会議
1) 法人理事会 14回開催
(2016年4月28日、5月26日(2回)、6月23日、7月28日、8月25日、
9月29日、10月27日、11月24日、12月28日、2017年1月25日、
2月23日、3月16日(2回))
2) 法人評議員会 2回開催
(2016年5月26日、2017年3月16日)
3) 歯学部主任教授会 25回開催
(2016年4月13日、4月27日、5月11日、6月8日、6月22日、7月20日、
8月10日、9月7日、9月14日、10月12日、10月26日、11月9日、12月1日、
12月7日、12月14日、2017年1月11日、1月18日、1月25日、2月2日、
2月8日、2月9日、2月22日、3月8日、3月22日、3月28日)
4) 歯学部教授会 2回開催
(2016年4月13日、2017年3月28日)
5) 医療保健学部教授会 10回開催
(2016年11月22日、12月2日、12月21日、2017年1月18日、2月3日、
2月15日、2月16日、3月9日、3月15日、3月23日)
6) 大学院研究科会議 14回開催
(2016年4月27日、5月25日、6月22日、7月27日、8月24日、9月28日、
10月12日、10月26日、11月22日、12月27日、2017年1月25日、2月8日、
2月22日、3月22日)
40. 本学関係 褒章・叙勲の受章者
1) 褒章 大学24回 城下 功 大分県 藍段褒章 共3名

- 2) 叙勲 大学19回 浅野 尚明 叙賞勲 瑞宝双光章 共14名
41. 川添理事長・学長 第23回日本歯科医学会総会名誉会頭に就任
(就任期間:2016年7月1日~2017年3月31日)
42. 教職員数(2017年3月1日現在:353名)
1) 大学 340名
教員数 179名
学長1名、主任教授26名、専任教授5名、准教授29名、講師65名、
助教52名、病院教授1名
職員数 161名
事務・技師77名、医療83名、労務1名
2) 歯科技工士専門学校 6名
教員4名、事務2名
3) 歯科衛生士専門学校 7名
教員6名、事務1名
43. 人事
1. 法人関係
1) 理事就任 田中 昌博(教学兼人事担当)
2) 評議員就任 有田 恵司 共2名
3) 評議員退任 中谷 謙二 共2名
2. 名誉教授称号授与 寛道 健治
3. 退職
1) 定年退職 口腔病理学講座 主任教授 田中 昭男 共13名
2) 依願退職 歯補綴咬合学講座 助教 大河 貴久 共18名
3) 再雇用契約満了退職 教務学生課 事務職員 原 美津恵 共4名
4. 昇任
1) 定年退職に伴う教授特別昇任 口腔治療学講座 准教授 吉田 匡宏
2) 准教授 解剖学講座 講師 戸田 伊紀 共6名
3) 講師 歯科法医学室 助教 大草 亘孝 共5名
4) 職員 経理課 課長補佐 田中 敬子 共5名
5. 任用
1) 主任教授 口腔外科第二講座 博士(歯学) 中嶋 正博
2) 准教授 口腔衛生学講座 博士(歯学) 片岡 宏介
3) 講師 数学教室 博士(数学) 森 淳秀 共3名
4) 助教 歯科保存学講座 博士(歯学) 黄地 智子 共10名

- 5) 大学院教員
大学院教授 竹村 明道 共22名、大学院准教授 隈部 俊二 共21名
大学院講師 戸田 伊紀 共25名、大学院助教 上田 甲寅 共21名
- 6) 看護師 附属病院 西口 智子 共6名
- 7) 任期付職員の新規採用 専門学務課 室長 課本 幸三 共5名
- 8) 任期付職員新規採用 教務学生課 課長補佐 宮本 忠之 共11名
- 6. 任期制教員契約更新 人権教育室 専任教授 櫻 則章 共8名
- 7. リサーチ・アシスタント採用 口腔外科学第二 岡本 知子 共3名
- 8. 所風異動 総務課人権担当 木下誠一郎 共13名
- 9. 兼務 医療保健学部設置準備室 法人事務局長 齊藤 広志 共9名
- 10. 定年退職後再雇用 教務学生課 事務職員 原 美津恵 共4名
- 11. 定年退職後再々雇用 医事課 事務職員 森田 貴生 共3名

12. 委嘱

1) 大学役職者

- 副学長・総務部長 小正 裕
 - 副学長・教務部長・アドミッションセンター長 田中 昭男
 - 学生部長 田中 昌博
 - 図書館長 佐ノ木幸夫
 - 附属病院副院長 森田 章介
 - 大学院研究科科長 西川 泰央
 - 中央歯学研究所周長 有田 憲司
 - 教育情報センター所長 藤原 眞一
 - 国際交流部長 岡崎 定司
 - 附属病院副院長 山本 一世
 - 附属病院副院長 松本 尚之
- 2) 専門学校長
- 歯科技工士専門学学校長 小正 裕
 - 歯科衛生士専門学学校長 田中 昭男
- 3) 特任教授 歯科医学教育開発室 農学修士 松本 秀範
- 4) 名誉客員教授 大阪歯科大学附属病院 元病院教授 北條 博一
- 5) 客員教授 広島歯科大学 名誉教授 二階 宏昌 共8名
- 6) 客員准教授 大阪歯科大学 元准教授 好川 正孝
- 7) Honorary Visiting Professor ウルグアイ大学大学院 教授 Susumu Nisizaki
- 8) Visiting Professor
韓国慶熙大学校歯科大学 主任教授 Young-Guk Park 共8名
- 9) 2016年度講師(非常勤) 解剖学講座 清水 孝治 共374名

2016年度大学院講師(非常勤) 解剖学 江原 大輔 共41名
(2016年4月1日付)

- 10) 臨床教授 大阪歯科大学 元主任教授 覚道 健治 共3名
- 11) 医療嘱託13名
- 12) 病院医員64名
- 13) 臨床准教授等64名
- 14) ティーチング・アシスタント 有歯補綴咬合学 池内 慶介 共18名
- 15) ポストドクトラルフェロー 口腔外科学第二 渡辺 昌広 共2名
- 16) 学生相談室カウンセラー 臨床心理士 辻野 達也 共3名
- 17) 医務室嘱託医師 大阪大学医学部 助教(医師) 木田 博 共2名
- 18) 各種委員会委員長

(1) 大学関係

- 総務部委員会委員長 小正 裕
- 教務部委員会委員長 田中 昭男
- 第5学年・第6学年教務部委員会委員長 田中 昭男
- 既卒者クラス教務部委員会委員長 田中 昭男
- 腐棄物処理委員会委員長 小正 裕
- 図書館運営委員会委員長 佐ノ木幸夫
- 図書館資料選択委員会委員長 佐ノ木幸夫
- 学生部委員会委員長 田中 昌博
- 学内食堂管理運営委員会委員長 田中 昌博
- 教育情報センター管理運営委員会委員長 藤原 眞一
- 健康管理委員会委員長 森田 章介
- 植薬学舎衛生委員会委員長 大久保 直
- 天満橋附属病院衛生委員会委員長 清水谷公成
- 国際交流部委員会委員長 岡崎 定司
- 学術研究奨励助成金交付審査委員会委員長 田中 昭男
- 兼共同研究助成審査委員会委員長 田中 昭男
- カリキュラム委員会委員長 田中 昭男
- 共用歯科C/B/T委員会委員長 西川 泰央
- 共用歯学O/S/C/E実行委員会委員長 山本 一世
- ブラッシュアップ委員会委員長 今井 弘一
- F/D委員会委員長 田中 昭男
- 入試委員会委員長 田中 昭男
- 大学入試センター試験実施委員会委員長 田中 昭男
- 公開講座委員会委員長 今井 弘一
- 医の倫理委員会委員長 森田 章介

- 臨床研究利益相反検討委員会委員長 森田 章介
 - 組織DNA実験安全委員会委員長 清水谷公成
 - 動物実験委員会委員長 竹村 明道
 - バイオセーフティー委員会委員長 梅田 誠
 - ハウスメント防止委員会委員長 川添 堯彬
 - 知的財産委員会委員長 田中 昌博
 - 教員評価委員会委員長 川添 堯彬
 - 大学院委員会委員長 西川 泰央
 - 中央歯学研究所周長委員会委員長 有田 憲司
 - 学生基盤実習運営連絡検討委員会委員長 田中 昭男
 - 研究倫理委員会委員長 小正 裕
- (2) 法人関係
- 財団法人委員会委員長 川添 堯彬
 - 財団法人委員会病院の運営に関する事項部会部会長 小正 裕
 - 財団法人委員会救済学舎科未計画作業部会部会長 下村鏡三郎
 - 財団法人委員会給与部会部会長 三谷 卓
 - 財団法人委員会経営部会部会長 下村鏡三郎
 - 退職資金管理運営委員会委員長 三谷 卓
 - 業者登録選考委員会委員長 下村鏡三郎
 - 学術研究奨励基金管理運営委員会委員長 下村鏡三郎
 - 環境管理委員会委員長 小正 裕
 - 枚方資料センター管理運営委員会委員長 小正 裕
 - 予算委員会委員長 下村鏡三郎
 - 人事委員会委員長 三谷 卓
 - 自己点検・評価委員会委員長 川添 堯彬
 - ODUウェルネス・ホール管理運営委員会委員長 小正 裕
 - 広報委員会委員長 川添 堯彬
 - 人権啓発推進委員会委員長 川添 堯彬
 - 個人情報保護委員会委員長 川添 堯彬
 - 個人情報保護委員会大学部門委員会委員長 田中 昭男
 - 個人情報保護委員会病院部門委員会委員長 森田 章介
 - 個人情報保護委員会事務部門委員会委員長 齊藤 広志
 - 大阪歯科大学附属病院財務改善検討委員会委員長 下村鏡三郎
 - 資産運用検討委員会委員長 下村鏡三郎
 - 学校法人大阪歯科大学利益相反検討委員会委員長 小正 裕
 - 学校法人大阪歯科大学省エネルギー推進委員会委員長 下村鏡三郎
 - 附属病院組織改革委員会委員長 川添 堯彬

- 19) 学年指導教授
1年・2年 藤原 眞一、王 宝禮 3年・4年 三宅 達郎、今井 弘一
5年・6年 前田 博史、梅田 誠
 - 20) 2016年度学生会会長 主任教授 松本 尚之
41. 学外活動
- 1) 教授海外視察 化学教室 主任教授 藤原 眞一
 - 2) 教員海外研修 口腔外科学第一講座 助教 辻 要 共2件
 - 3) 教員海外出張 細菌学講座 講師 山根 一芳 共75件
 - 4) 共同研究員受入
南方医科大学口腔医学院・研究員 黄 安祺
受入講座: 口腔インプラント学講座
期間: 2016年7月1日~2017年3月31日 共4件
- 5) 国際交流
- (1) 中国・山西医科大学と学生交流協定を締結(2016年8月16日付)
 - (2) 中国5大学との共同研究
・派遣
四川大学华西口腔医学院
歯科保存学講座 山本主任教授、古川准教授、岩田講師
(期間: 2016年10月9日~14日、山本教授は10日まで)
 - (3) 海外協定校との交流
・受入
南方医科大学口腔医学院 学生5名、教員1名
北京大学口腔医学院 学生5名、教員1名
台北医学大学口腔医学院 学生3名、教員2名
山西医科大学口腔医学院 学生4名、教員1名
(以上 期間: 2016年7月31日~8月6日、台北の教員は8月3日まで)
 - ・派遣
四川大学华西口腔医学院インターナショナルサマーキャンプ 学生2名(5年)
引率教員: 本田准教授(期間: 2016年7月3日~15日)
北京大学口腔医学院 学生3名(2年1名、3年2名)
引率教員: 渋谷講師(期間: 2016年7月23日~29日)
台北医学大学口腔医学院 学生2名(2年1名、4年1名)
引率教員: 岸本講師(期間: 2016年7月23日~29日)
シドニー大学歯学部 学生5名(3年4名、4年1名)
引率教員: 山本講師(期間: 2016年8月13日~22日)
コロンビア大学歯学部 学生7名(5年)



引率教員：西浦准教授（期間：2017年3月11日～21日）

(4) コロンビア大学歯学部 100 周年インプラント CE セミナーに川添理事長・学長以下本学関係者 28 名参加（期間：2016年7月11日～14日）

45. 補助金・助成金

- 2016 年度大阪歯科大学学術研究奨励助成金交付（11 件） 2,500,000 円
- 2016 年度大阪歯科大学学術研究奨励資金 4,400,000 円
 - 研究課題「iPS 細胞を用いた広域顎口腔頭頸次損再生に向けた基礎的研究」 3,900,000 円（内 1,400,000 円は、日本私立学校振興・共済事業団より平成 28 年度学術研究振興資金として交付）
 - 研究課題「新規骨形成ペプチドの機能解析に基づく歯周組織再生創薬の挑戦」 500,000 円（日本私立学校振興・共済事業団より平成 28 年度学術研究振興資金（若手研究者奨励金）として交付）
- 平成 28 年度科学研究費補助金交付（文部科学省）（本文参照）
- 平成 28 年度私立大学等経常費補助金交付額 385,299,000 円（内 32,497,000 円は私立大学等改革総合支援事業）
- 平成 28 年度臨床研修費等補助金交付額 83,506,000 円
- 国際交流助成
 - 解剖学講座 講師 上村 守 共 13 件に対し 2,394,490 円の助成
- 寄贈
 - 諏訪文彦 名誉教授 教育研究用として 1,000,000 円 共 7 件

46. 諸規程

- 大阪歯科大学大学院学則（一部改正）
- 大阪歯科大学学費等納付金規程（一部改正）
- 学校法人大阪歯科大学学費規程（一部改正）
- 学校法人大阪歯科大学学費規程内規（一部改正）
- 教職員定年規程（一部改正）（以上 平成 28 年 4 月 1 日付）
- 学校法人大阪歯科大学事務組織及び事務分掌規程（一部改正）
- 学校法人大阪歯科大学事務組織表（一部改正）
- 大阪歯科大学における科学研究費助成事業（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）直接経費の使用取決（一部改正）（以上 平成 28 年 4 月 28 日付）
- 学校法人大阪歯科大学管理運営規程（一部改正）
- 学校法人大阪歯科大学事務組織及び事務分掌規程（一部改正）
- 学校法人大阪歯科大学事務組織表（一部改正）（以上 平成 28 年 7 月 28 日付）

- 学校法人大阪歯科大学公益通報に関する規程（施行）（平成 28 年 8 月 25 日付）
- 学校法人大阪歯科大学寄附行為（一部改正）（平成 28 年 8 月 31 日付）
- 学校法人大阪歯科大学経理規程（一部改正）（平成 28 年 10 月 27 日付）
- 学校法人大阪歯科大学予算執行規程（一部改正）
- 物件の管理規程（一部改正）
- 物件の登録及び管理の取扱に関する細則（一部改正）
- 個人情報保護委員会病院部門委員会規程（一部改正）（以上 平成 28 年 11 月 24 日付）
- 大阪歯科大学奨学金貸与規程（一部改正）
- 大学院学則「優れた研究業績を上げた者」に関する申し合わせ（一部改正）（平成 29 年 2 月 22 日付）
- 大阪歯科大学における研究活動上の不正行為の防止及び対応に関する規程（一部改正）
- 大阪歯科大学における研究データ等の保管等に関する申し合わせ（施行）（以上 平成 29 年 2 月 23 日付）

平成 28 年度 決算報告

平成 28 年度決算は、平成 29 年 5 月 25 日に開催された法人理事会で承認され、同日に開催された第 159 回評議員会に報告されました。

平成 28 年度決算における「資金収支計算書」「活動区分資金収支計算書」「事業活動収支計算書」「貸借対照表」の概要は次のとおりです。

1. 資金収支計算書

「資金収支計算書」の目的は、当該会計年度中のすべての収入と支出に係る内容と資金の顛末を明示することにあります。平成 28 年度は、収入の部で「学生生徒等納付金収入」や「付随事業・収益事業収入」などが予算を下回りましたが、支出の部でも「人件費支出」「経費支出」が予算を下回ったため、「翌年度繰越支払資金」は、予算を上回る 34 億 213 万円となりました。

収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	4,537,350,000	4,440,755,000	116,595,000
手数料収入	22,707,000	32,979,500	△ 10,272,500
寄付金収入	39,696,000	47,156,000	△ 7,460,000
補助金収入	447,358,000	670,913,450	△ 23,555,450
資産売却収入	0	116,470	△ 116,470
付随事業・収益事業収入	2,219,365,000	2,020,047,630	199,317,370
受取利息・配当金収入	140,072,000	145,586,271	△ 5,514,271
雑収入	439,602,000	446,036,214	△ 6,434,214
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	494,400,000	481,123,000	13,277,000
その他の収入	1,268,537,000	1,271,082,044	△ 2,545,044
資金収入調整勘定	△ 1,044,886,000	△ 1,092,735,530	47,849,530
小計	8,594,201,000	8,363,062,049	321,138,951
前年度繰越支払資金	3,443,703,311	3,443,703,311	
収入の部合計	12,037,904,311	11,706,765,360	321,138,951

科目	予算	決算	差異
人件費支出	4,372,580,000	4,367,451,061	4,728,139
教育研究経費支出	2,273,760,025	2,119,173,706	154,586,319
管理経費支出	460,361,070	444,964,711	15,696,359
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0
施設関係支出	366,032,370	541,424,712	△ 175,392,392
設備関係支出	400,589,030	355,796,360	44,852,685
資産運用支出	1,028,485,000	948,945,143	79,639,857
その他の支出	277,716,000	284,928,992	△ 7,212,992
「予備費」	0	37,333,935	37,333,935
資金支出調整勘定	△ 202,258,000	△ 337,991,672	495,733,672
小計	8,954,506,000	8,304,533,818	649,972,182
翌年度繰越支払資金	3,073,298,311	3,402,131,542	△ 328,833,231
支出の部合計	12,027,804,311	11,706,765,360	321,138,951

2. 活動区分資金収支計算書

「活動区分資金収支計算書」は現金預金の流れを3つの活動区分（「教育活動」「施設整備等活動」「その他の活動」）ごとに把握するものです。

科目		金額
教育活動による資金収支	収入	
	学生生徒等納付金収入	4,440,755,000
	手数料収入	32,979,500
	特別寄付金収入	45,656,000
	一般寄付金収入	1,500,000
	経常費等補助金収入	470,913,450
	付随事業収入	67,322,908
	医療収入	1,952,724,722
	雑収入	446,036,214
	教育活動資金収入計	7,437,887,794
支出		
人件費支出	4,367,851,861	
教育研究経費支出	1,686,698,778	
医療経費支出	432,476,928	
管理経費支出	344,664,711	
教育活動資金支出計	6,931,690,278	
差引	526,197,516	
調整勘定等	△ 45,075,535	
教育活動資金収支差額	461,121,981	

科目		金額
施設整備等活動による資金収支	収入	
	施設設備売却収入	116,470
	施設整備等活動資金収入計	116,470
	支出	
	施設関係支出	541,424,712
	設備関係支出	555,736,565
	減価償却引当特定資産繰入支出	208,958,846
医療機器購入資金引当特定資産繰入支出	20,517,390	
施設整備等活動資金支出計	1,326,637,513	
差引	△1,126,520,843	
調整勘定等	470,902,746	
施設整備等活動資金収支差額	△655,618,097	
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)	△194,446,116	

科目		金額
その他の活動による資金収支	収入	
	退職金引当特定資産取崩収入	697,670,867
	貸付金回収収入	38,647,079
	立替金回収収入	376,200
	仮払金回収収入	320,000
	小計	737,013,336
	受取利息・配当金収入	145,586,271
	その他の活動資金収入計	882,599,607
	支出	
	退職金引当特定資産繰入支出	794,175,578
	有価証券購入資金引当特定資産繰入支出	5,193,277
	記念行事資金引当特定資産繰入支出	10,000,052
	貸付金支払支出	5,950,000
	預り金支払支出	4,664,794
小計	729,983,701	
その他の活動資金支出計	729,983,701	
差引	152,615,906	
調整勘定等	258,441	
その他の活動資金収支差額	152,874,347	
文庫資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)	△41,571,769	
前年度繰越支払資金	3,443,703,311	
翌年度繰越支払資金	3,402,131,542	

3. 事業活動収支計算書

「事業活動収支計算書」の目的は、学校法人の経営状況を表し、当該会計年度における事業活動収支の均衡状況とその内容を明らかにすることにあります。平成28年度の「基本金組入前当年度収支差額」は、1億5,907万円の収入超過となり、5期連続で収入超過を維持することができました。

科目	科目	予算	決算	差異	
					収入
教育活動収入の部	学生生徒等納付金	4,557,350,000	4,440,755,000	116,595,000	
	手数料	22,797,000	32,979,500	△ 10,272,500	
	寄付金	38,696,000	47,489,598	△ 7,793,598	
	経常費等補助金	447,358,000	470,913,450	△ 23,555,450	
	付随事業収入	2,219,365,000	2,020,047,630	199,317,370	
	雑収入	438,602,000	446,036,214	△ 6,434,214	
	教育活動収入計	7,728,078,000	7,458,221,392	269,856,608	
	事業活動支出の部	人件費	4,327,228,000	4,230,223,618	107,004,382
		教育研究経費	2,872,235,025	2,862,711,624	209,524,601
		管理経費	558,422,079	539,586,169	18,835,901
徴収不能額等		0	1,182,267	△ 1,182,267	
教育活動支出計		7,757,885,095	7,623,703,678	234,182,017	
教育活動収支差額	△ 31,807,095	34,517,714	△ 66,325,409		

科目	予算	決算	差異
事業活動収入の部			
受取利息・配当金	139,592,000	145,106,271	△5,514,271
その他の教育活動外収入	0	0	0
教育活動外収入計	139,592,000	145,106,271	△ 5,514,271
事業活動支出の部			
借入金等利息	0	0	0
その他の教育活動外支出	0	0	0
教育活動外支出計	0	0	0
教育活動外収支差額	139,592,000	145,106,271	△ 5,514,271
経常収支差額	107,784,365	179,623,985	△71,839,680

科目	予算	決算	差異
事業活動収入の部			
資産売却差額	0	116,469	△116,469
その他の特別収入	10,000,000	11,517,946	△1,517,946
特別収入計	10,000,000	11,633,515	△ 1,633,515
事業活動支出の部			
資産処分差額	0	32,181,375	△ 32,181,375
その他の特別支出	0	0	0
特別支出計	0	32,181,375	△ 32,181,375
特別収支差額	10,000,000	△ 20,547,860	30,547,860
「予備費」	(18,413,693)	81,598,295	81,598,295
基本金組入前当年度収支差額	36,198,000	139,076,125	△ 122,878,125
基本金組入額合計	△ 589,683,000	△ 155,376,632	△ 434,306,368
当年度収支差額	△ 553,485,000	3,699,493	△ 557,184,493
前年度繰越収支差額	△20,922,777,662	△20,922,777,662	0
基本金取崩額	0	317,600,727	△ 317,600,727
翌年度繰越収支差額	△20,576,262,662	△19,701,477,442	△ 874,785,220



4. 貸借対照表

「貸借対照表」は、会計年度末時点における財政状況（保有する資産と負債の状況）を表示するものです。平成29年3月31日現在の資産総額は、4億7,791万円増加して592億1,613万円となり、「負債総額」は3億1,883万円増加して55億7,702万円となりました。この結果、「純資産の部合計」は前年度に比べ1億5,907万円増加し536億3,910万円となりました。

資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	53,174,320,227	54,741,116,542	△3,205,885
有形固定資産	18,906,101,048	18,705,133,221	230,967,827
特定資産	35,637,241,637	35,406,546,551	230,695,086
その他の固定資産	590,977,542	629,436,770	△48,459,228
流動資産	4,011,812,804	3,997,105,148	44,707,656
資産の部合計	59,216,133,031	58,738,221,690	477,911,341

負債の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	3,965,978,939	4,114,623,018	△148,644,079
流動負債	1,611,044,679	1,143,565,384	467,479,295
負債の部合計	5,577,023,618	5,258,188,402	318,835,216

純資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
基本金	73,340,586,855	73,502,810,950	△162,224,095
第1号基本金	42,937,386,855	42,991,810,950	△54,424,095
第3号基本金	29,839,000,000	29,839,000,000	0
第4号基本金	544,000,000	672,000,000	△128,000,000
繰越収支差額	△19,791,477,442	△20,022,777,062	321,300,230
純資産の部合計	53,639,109,413	53,480,033,288	159,076,125
負債及び純資産の部合計	59,216,133,031	58,738,221,690	477,911,341

2016年度監事監査報告

2017年（平成29年）5月16日

2016年度（平成28年度）監事監査報告書

学校法人 大阪歯科大学
理事長 川添 堯彬 殿

学校法人 大阪歯科大学
監事 本井 文夫
監事 古川 壽男

私たちは、私立学校法第37条第3項及び当学校法人大阪歯科大学寄附行為第13条の規定に基づき、2016年（平成28年）4月1日から2017年（平成29年）3月31日までの2016年度（平成28年度）における学校法人の業務、財産の状況及び計算書類等、すなわち事業報告書、資金収支計算書（人件費内訳表を含む）、事業活動収支計算書、貸借対照表（固定資産明細表、借入金明細表及び基本金明細表を含む）及び財産目録について監査を行った結果、次のとおり報告いたします。

1. 監査方法の概要

私たちは、理事会、評議員会及びその他重要な会議に出席し、理事から、事業の報告を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧するとともに、会計監査人と連携し、計算書類について検討するなど、必要な監査手続きを実施いたしました。

2. 監査の結果

- （1）資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表及び財産目録は、会計帳簿の記載と一致し、法令及び寄附行為に従い、収支状況及び財産状況を正しく示しているものと認めます。
- （2）理事の業務執行に関しては、不正の行為はなく、かつ、法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実は認められません。

以上

学位・博士（歯学）授与

泉谷 剛行 乙第 1607 号 2017 年 6 月 28 日
Antimicrobial protein secretion in the rat submandibular gland induced by aroma inhalation（アロマ吸引によるラット顎下腺唾液の抗菌タンパク質分泌促進効果）

上原 行博 乙第 1608 号 2017 年 12 月 27 日
Investigation of human papillomavirus infections and the expression of related genes in epithelial dysplasias and squamous cell carcinomas of the oral mucosa（口腔粘膜の上皮性異形成および扁平上皮癌におけるヒトパピローマウイルスの感染調査と関連因子の発現）

平成 29 年度 科学研究費補助金交付

研究題目	種別 新種	課題番号	研究代表者 氏名	所属	研究課題名	助成額(円) 直接経費/ 間接経費
基礎研究(C)	継続	16K11139	吉川 一彦	歯科保存学	レーザー光を用いた歯髄鑑別システムの構築	1,200,000 360,000
基礎研究(C)	継続	16K11140	棟木 栄幸	口腔治療学	新規ハイブリッド型を用いた口腔粘膜由来幹細胞による歯髄と象牙質複合体の再生	1,000,000 300,000
基礎研究(C)	継続	16K11183	大塚 友規	高齢者 歯科学	歯科用レーザー照射併用による放歯菌制御治療促進効果	900,000 270,000
基礎研究(C)	継続	16K11184	岡崎 定可	欠損歯列 補綴咬合学	骨地面と強度を兼ね備えたナノシリコニアクラスプの創製	600,000 150,000
基礎研究(C)	継続	16K11185	植本 哲次	有歯補綴 咬合学	インプラント周囲の硬組織・歯周組織複合体への再生誘導	600,000 150,000
基礎研究(C)	継続	16K11232	牧田 健真	化学	ナノカプセル型MRIイメージング剤の開発	900,000 270,000
基礎研究(C)	継続	16K11283	野崎 中成	薬理学	多能性幹細胞の細胞外vesicle RNAに関する基礎的研究	700,000 210,000
基礎研究(C)	継続	16K11404	前田 博史	口腔治療学	ペプチド抗菌ペプチドを用いた選択的細菌抑制による微生物叢コントロール法の確立	1,400,000 420,000
基礎研究(C)	継続	16K11438	王 宝禮	細菌学	胎盤製剤(プラセンタ)による歯周組織再生治療薬への展開研究	1,000,000 300,000
基礎研究(C)	継続	16K02147	榎 尾章	人物教育室	わが国における歯科医療倫理学の構築のための総合的研究	1,000,000 300,000
基礎研究(C)	継続	16K04965	鎌方 智寿子	歯周病学	遠隔画像システムによる歯周治療の高度化	600,000 150,000
基礎研究(C)	継続	16K09950	富永 史子	内科学	メタボリック症候群の治療抵抗性・脂肪細胞機能に関連する新規細胞因子の探索	1,100,000 330,000



基礎研究(C)	総務	16K11459	南部 隆之	細菌学	口腔内歯髄還元活性に個人差をもたらす菌叢の解明	1,200,000 980,000
基礎研究(C)	総務	16K11533	栗部 俊二	口腔解剖学	咀嚼筋疼痛モデル動物を用いた咀嚼筋疼痛に伴う慢性疼痛発症機序の解明	1,100,000 830,000
基礎研究(C)	総務	16K11534	秋山 広徳	歯科放射線学	口腔癌の次元画像診断小線源治療におけるリアルタイム線量評価システムの構築	900,000 270,000
基礎研究(C)	総務	16K11573	山根 一孝	細菌学	新規根管細菌検査法についての基礎的研究	1,000,000 800,000
基礎研究(C)	総務	16K11574	好川 正幸	口腔治療学	二相性担体での血球系細胞および口腔粘膜細胞の再分化による歯髄・象牙質複合体の再生	900,000 270,000
基礎研究(C)	総務	16K11617	田口 幸一郎	歯周病学	インプラント周囲炎に対する先創医療戦略の基礎構築	1,100,000 830,000
基礎研究(C)	総務	16K11667	馬場 俊輔	口腔インプラント学	薬物担持担体と幹細胞を用いた広域顎口腔組織欠損再生	1,300,000 890,000
基礎研究(C)	総務	16K11668	今井 弘一	歯科理工学	チタン合金インプラント組成金属のES/IP8細胞による発生毒性の検討	1,000,000 900,000
基礎研究(C)	総務	16K11774	百田 謙弘	歯科臨床学	歯周病性現象における歯菌叢毒性神経幹細胞の解析	1,200,000 980,000
基礎研究(C)	総務	16K11820	有田 憲司	小児歯科学	新規念の根管管理システムACCUMSに適した新規高弾塑性材料の商品化への機率的な研究	1,400,000 420,000
基礎研究(C)	総務	16K11821	橋本 尚之	歯科矯正学	口腔がん治療のための多孔体TCPポリマー複合体と破骨細胞抑制因子の骨再生	1,200,000 980,000
基礎研究(C)	総務	16K11847	田中 昭男	口腔病理学	ヒト由来プロゲニンペプチドに対する歯根膜幹細胞の遺伝子発現	800,000 240,000
基礎研究(C)	総務	16K11876	真下 千穂	細菌学	口腔細菌還元性を基にした口腔健康指標の開発	1,200,000 980,000
基礎研究(C)	総務	16K11877	高瀬 一也	高齢者歯科学	放電プラズマ法により新規合成された高純度過不飽和における抗菌生物活性の検証	1,200,000 980,000
機能的歯牙研究	総務	16K15779	長巳 裕隆	混合診療・歯科	音声認識システムを用いた高齢聴覚障害者へのコミュニケーション支援の確立	600,000 150,000
機能的歯牙研究	総務	16K12889	本田 謙知	中央歯学研究所	力学刺激特異的バイオマーカーの探索に向けた細胞核変形検出デバイスの開発	1,700,000 510,000
若手研究(B)	総務	16K20463	藤井 孝成	有歯歯根咬合学	低風大気圧プラズマを用いた接着前処置の確立	600,000 180,000
若手研究(B)	総務	16K20496	岡村 友文	口腔病理学	骨欠損部への移植を目標とするゼラチン足場材料とした毛細血管の三次元培養	900,000 270,000
若手研究(B)	総務	16K20674	辻 要	口腔外科学第一	Vα9Vβ2T細胞を用いた口腔癌の新規免疫細胞療法の開発	1,000,000 900,000
若手研究(B)	総務	16K20616	河合 咲希	小児歯科学	乳歯歯髄由来細胞の低酸素培養における未分化能の検討	1,000,000 900,000

若手研究(B)	継続	16K20475	竹内 摂	歯科保存学	MMPs解析における象牙質・歯髄複合体組織破壊抑制と新規接着システムの開発	1,000,000 300,000
若手研究(B)	継続	16K20476	嘉藤 弘仁	歯周病学	エムドゲイン由来合成ペプチドを応用した新規覆髄材料の創製	1,300,000 390,000
若手研究(B)	継続	16K20524	小正 聡	欠損歯列補綴咬合学	親水性を付与した硬組織早期誘導ジルコニアインプラント材料の創製	1,500,000 450,000
若手研究(B)	継続	16K20525	覚道 昌樹	有歯補綴咬合学	咀嚼時舌運動と食塊咽頭移送の関係の解明	500,000 150,000
若手研究(B)	継続	16K20526	向井 憲夫	有歯補綴咬合学	咬合違和感症候群(ODS)の顎顔面領域の触・圧覚に関する研究	600,000 180,000
若手研究(B)	継続	16K20550	木村 大輔	歯周病学	血小板凝集能を持つ新規複合材料の歯周組織再生療法への応用	1,700,000 510,000
若手研究(B)	継続	16K20551	高橋 幸達	歯周病学	エムドゲイン由来合成ペプチドの血管新生誘導能を利用した歯周組織再生療法の基盤構築	1,300,000 390,000
若手研究(B)	継続	16K21499	坂井 加奈	歯科矯正学	伸縮可能な硬組織模倣シートを応用した歯周組織細胞間ネットワーク解析デバイスの開発	1,100,000 330,000
基盤研究(B)	継続	26305032	朔 敬		ミャンマーにおける噛みタバコ習慣関連口腔がん発症に関する分子病理疫学的研究	2,200,000 660,000
研究活動スタート支援	継続	16H06965	奥野 健太郎	高齢者歯科学	嚥下障害患者における睡眠中の嚥下動態の解明	1,000,000 300,000
基盤研究(C)	新規	17K04256	宮川 淑恵 (濱島 淑恵)	口腔保健学科	「ヤングケアラー(ケアを担う子ども)」の実態と発見手法の開発	1,100,000 330,000
基盤研究(C)	新規	17K05084	松原 英一	物理学	IV族プラズマフォトリソによる凝縮系の全赤外高感度コヒーレント分光	1,900,000 570,000
基盤研究(C)	新規	17K11635	河井 まりこ	薬理学	Sorcicの細胞内局在と軟骨内骨化過程における細胞分化との関連性を明らかにする	1,100,000 330,000
基盤研究(C)	新規	17K11770	橋本 典也	歯科理工学	iPS細胞由来間葉系幹細胞を用いた広域顎骨組織欠損再生に向けた基礎的研究	1,000,000 300,000
基盤研究(C)	新規	17K11779	橋本 正則	中央歯学研究所	酵素活性阻害作用と抗菌性を発現する新規金属ナノ粒子の開発	1,400,000 420,000
基盤研究(C)	新規	17K11818	梅田 誠	歯周病学	糖尿病患者のインプラント周囲炎を見据えた先制歯科医療戦略の構築	1,600,000 480,000
基盤研究(C)	新規	17K11864	窪 寛仁	口腔外科学第二	顎骨再生における頬脂肪由来脱分化脂肪細胞・PRP複合体のトランスレショナル研究	900,000 270,000
基盤研究(C)	新規	17K12034	高山 由希	口腔衛生学	唾液タンパク由来ペプチド抗原に対する分泌型IgA抗体の歯周病細菌付着阻害能の検証	1,200,000 360,000
基盤研究(C)	新規	17K12068	吉川 美弘	生化学	スフィンゴ脂質が骨代謝に及ぼすメカニズムに関する研究	1,200,000 360,000
若手研究(B)	新規	17K15254	円山 由郷	細菌学	アーキアにおける染色体高次構造変化を介した環境応答	1,100,000 330,000



若手研究(B)	新規	17K17199	田中 佑人	障がい者歯科	正確度(Accuracy)と精度(Precision)に着目した咬合高径決定法	1,700,000 510,000
若手研究(B)	新規	17K17200	西村 貴子	小児歯科学	新規アパタイトアイオノマーセメントAICの各種口腔内細菌に対する影響に関する研究	1,600,000 480,000
若手研究(B)	新規	17K17227	李 佩祺	口腔インプラント学	免疫回避機能を有するPEG骨再生材料の開発	1,200,000 360,000
若手研究(B)	新規	17K17228	柏木 隆宏	口腔インプラント学	新規骨補填材を基盤とした血管網内包型培養骨の開発	700,000 210,000
若手研究(B)	新規	17K17300	大郷 英里奈	歯科麻酔学	薬物療法に依存しない慢性疼痛緩和法の確立	700,000 210,000
若手研究(B)	新規	17K17343	安井 憲一郎	歯科矯正学	自家骨と骨補填材を組み合わせた自家骨移植法の開発	1,300,000 390,000
若手研究(B)	新規	17K18247	篠永 ゆかり	小児歯科学	新規高機能齲蝕充填・予防填塞材料の反応メカニズムの解明に関する研究	1,700,000 510,000
基盤研究(B)	新規	17H04424	片岡 宏介	口腔衛生学	唾液腺におけるIgA抗体形質細胞への最終分化メカニズムの解明と加齢が及ぼす影響	6,100,000 1,830,000
研究活動スタート支援	新規	17H07264	首藤 崇裕	口腔工学科	市販歯磨剤を用いたブラッシングがチタンの表面性状に与える影響	1,100,000 330,000
研究活動スタート支援	新規	17H07265	島田 明子	口腔リハビリテーション科	顎堤粘膜疼痛感覚のエントロピー分析	800,000 240,000
研究活動スタート支援	新規	17H07266	山脇 勲	歯周病学	先制医療志向型インプラント周囲炎予防戦略の創製	1,100,000 330,000
合計 63件(内 継続42件)						74,600,000 22,380,000

平成 29 年度文部科学省医学教育等関係業務功労者表彰

医学教育等関係業務功労者は、医学又は歯学に関する教育、研究若しくは患者診療などの補助的業務に関し顕著な功労のあった場合、文部科学大臣が表彰状及び副賞（銀杯）を授与するものです。

本学からは、本学附属病院で20年間にわたり勤務に精励してきた看護師主任の中塚美智子さんを推薦した結果、喜ばしいことに11月28日（火）文部科学省で表彰を受けました。

中塚看護師主任からは「患者さんの笑顔に励まされ“元気”を頂き看護師として勤めてまいりました。晴れがましく表彰をいただけたのも先生、先輩、後輩の方々のご指導とご助力のお陰だと深く感謝するとともにお礼申し上げます。これからも表彰者の名に恥じないように、看護の道を邁進していきたく存じますので、温かいご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます」との謝辞がありました。



平成 29 年 春秋の叙勲受章者

平成 29 年春、秋の叙勲において、本学の関係者として、以下の先生方が受章されました。

<平成 29 年春>

大学 1 4 回	和田 勝	広島県	旭日双光章
大学 1 5 回	柏木 勉	奈良県	旭日双光章
大学 1 7 回	小嶋 勝則	和歌山県	瑞宝双光章
大学 1 7 回	和田 明人	徳島県	旭日小綬章
大学 1 8 回	芦田 欣一	滋賀県	旭日小綬章

<平成 29 年秋>

大学 1 0 回	梅谷 雄一	大阪府	瑞宝双光章
大学 1 3 回	古森 輝彦	京都府	瑞宝双光章
大学 1 5 回	太田 利光	大阪府	旭日双光章
大学 1 6 回	大川 幸矩	兵庫県	瑞宝双光章
大学 1 7 回	大野 忠彦	奈良県	旭日双光章
大学 1 7 回	松田 好正	山口県	旭日双光章
大学 1 7 回	山下 善彦	高知県	瑞宝双光章

プライバシーポリシー改定

2017 年 5 月 30 日より改正個人情報保護法が全面施行されたことに伴い、大阪歯科大学では、以下の通りプライバシーポリシーを改定しました。本ポリシーは本学ホームページ (<https://www.osaka-dent.ac.jp/privacypolicy.html>) にも掲載しています。

個人情報及び特定個人情報等の適正な取扱いに関する基本方針

本法人は、「個人情報の保護に関する法律」(以下「個人情報保護法」といいます。)に基づく個人データ(個人情報データベース等を構成する個人情報をいいます。)並びに「行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律」(以下「番号法」といいます。)に基づく個人番号及び特定個人情報(以下「特定個人情報等」といいます。)の適正な取扱いの確保に取り組むため本基本方針を定めます。

1. 事業者の名称

学校法人 大阪歯科大学

2. 関係法令・ガイドライン等の遵守

本法人は、個人データについては個人情報保護法その他の関連法令及び「個人情報の保護に関する法律についてのガイドライン(通則編)」その他国が定める指針のうち遵守が必須とされている事項を、特定個人情報等については番号法その他の関係法令及び「特定個人情報の適正な取扱いに関するガイドライン(事業者編)」その他国が定める指針のうち遵守が必須とされている事項をそれぞれ遵守して、これら個人データ及び特定個人情報等の適正な取扱いを行います。

3. 安全管理措置に関する事項

本法人は、その取り扱う個人データ及び特定個人情報等について、それぞれ漏えい、滅失又は毀損等の防止等、その管理のために必要かつ適切な安全管理措置を講じます。また、個人デー

タの安全管理措置に関しては、別途「個人情報取扱規程」その他の学内規程において、特定個人情報等の安全管理措置については、別途「特定個人情報取扱規程」その他の学内規程において具体的に定めています。

4. 質問及び苦情処理の窓口

本法人における個人データ及び特定個人情報等の取扱いに関するご質問や苦情に関するご連絡窓口は次のとおりです。

・歯学部学生・卒業生等の個人データの取扱いに関する窓口
教務学生課／電話番号 072-864-3005

・医療保健学部学生・卒業生等の個人データの取扱いに関する窓口
医療保健学部事務室／電話番号 072-856-9951

・大学院生・大学院修了者等の個人データの取扱いに関する窓口
大学院課／電話番号 072-864-3106

・歯科技工士専門学校生徒・卒業生等の個人データの取扱いに関する窓口
専門学校事務室*／電話番号 072-857-3905

・歯科衛生士専門学校生徒・卒業生等の個人データの取扱いに関する窓口
専門学校事務室／電話番号 072-856-9901

・患者様の個人データの取扱いに関する窓口
医事課／電話番号 06-6910-1070

・特定個人情報等の取扱いに関する窓口
人事課／電話番号 072-864-3003

制定日 2017 年 5 月 30 日

学校法人 大阪歯科大学
理事長 川添 堯彬

※ 2018 年 4 月 1 日以降、医療保健学部事務室に変更

寄贈

下記のとおり寄贈を受けました。心より感謝いたします。

- ・中村宏 氏（本学附属病院患者様） | 病院経費への充当を目的として | 金 500,000 円（2017 年 5 月 22 日）
- ・田中昭男 名誉教授 | 定年退職を記念して、本学振興のため | 金 1,000,000 円（2017 年 5 月 30 日）
- ・小正裕 名誉教授 | 定年退職を記念して、本学振興のため | 金 1,000,000 円（2017 年 6 月 5 日）
- ・大阪歯科大学第 35 回卒業生（珊瑚会） | 卒業 30 周年を記念して | 学術研究奨励資金 300,000 円（2017 年 10 月 21 日）

人事

大学役職者

歯学部学部長	田中 昭男	口腔病理学講座	主任教授	富永 和也
医療保健学部学部長	小正 裕	高齢者歯科学講座	主任教授	高橋 一也
図書館長	大浦 清		以上	2017.11.1 付
医療保健学部口腔保健学科学科長	和唐 雅博	《医療保健学部》		
医療保健学部口腔工科学科長	柿本 和俊	口腔保健学科	教授	和唐 雅博
附属病院副院長	田中 武昌	口腔工学科	教授	柿本 和俊
以上	2017.4.1 付	口腔工学科	教授	柿本 哲次
			以上	2017.4.1 付

教員採用

《歯学部》

中央歯学研究所	専任教授	橋本 正則	定年延長に伴う教員任用	
歯科医療管理学室	専任教授	田中 武昌	《歯学部》	主任教授
高齢者歯科学講座	講師	川本 章代	病理学室	田中 昭男
口腔リハビリテーション科	講師	島田 明子		2017.4.1 付
英語	助教	岡 隼人	《医療保健学部》	
歯周病学講座	助教	中田 貴也	口腔保健学科	教授
高齢者歯科学講座	助教	奥野健太郎		小正 裕
有歯補綴咬合学講座	助教	福本 貴宏	昇任・所属変更	2017.4.1 付
有歯補綴咬合学講座	助教	山本 真由	《医療保健学部》	
歯科矯正学講座	助教	安積 瑛子	口腔保健学科	准教授
歯科矯正学講座	助教	細山有規子	口腔工学科	准教授
保存修復科	助教	横田 啓太		神 光一郎
歯内治療科	助教	仲間ひとみ	所属変更	中塚美智子
補綴咬合治療科 (有歯)	助教	中島 俊輝	《歯学部》	2017.4.1 付
補綴咬合治療科 (欠損)	助教	坂井 大吾	高齢者歯科	助教
口腔外科第二科	助教	本橋 具和		井上 太郎
口腔インプラント科	助教	小林 信博	歯科医学教育開発室	専任教授
				王 宝禮
				2017.11.1 付

《医療保健学部》

口腔保健学科	教授	要田 洋江		
口腔保健学科	教授	糸田 昌隆	再任用	
口腔工学科	教授	都賀谷紀宏	《歯学部》	
口腔保健学科	准教授	濱島 淑恵	歯科保存学講座	助教
口腔保健学科	講師	久保 樹里	口腔治療学講座	助教
口腔工学科	講師	錦織 良	歯周病学講座	助教
口腔保健学科	助教	前嶋亜優子	歯周病学講座	助教
口腔工学科	助教	三宅 晃子	口腔外科学第一講座	助教
口腔工学科	助教	首藤 崇裕	口腔外科学第一講座	助教
	以上	2017.4.1 付		辻 要
			口腔病理学講座	以上
				2017.4.1 付
				岡村 友玄
				2017.10.1 付

昇 任

《歯学部》

口腔治療学講座	准教授	至田 宗泰	在籍出向	
歯科放射線学講座	准教授	四井 資隆	《歯学部》	
欠損歯列補綴咬合学講座	講師	小正 聡	総合診療科	講師
	以上	2017.4.1 付		谷岡 款相
				2017.11.1 付

大学院教員任用

大学院助教 嘉藤 弘仁
2017.4.1 付
大学院教授 富永 和也
大学院教授 高橋 一也
以上 2017.11.1 付

大学院課 主任 岡田久美子
病院庶務課 主任 宇野 綾
以上 2017.4.1 付

職員採用

口腔リハビリテーション科 歯科衛生士 今井美季子
総務課 事務職員 清原 春香
教務学生課 事務職員 小寺 史子
附属病院 歯科技工士 河合 健翔
附属病院 歯科衛生士 内藤紗矢香
附属病院 歯科衛生士 白上 三希
以上 2017.4.1 付
医事課 課長補佐 稲田 丈二
図書課 事務職員 若林優希江
2017.4.17 付
附属病院 放射線技師 一丸 千絵
2017.5.1 付
附属病院 看護師 島本 真有
2017.5.16 付
総務課広報担当 事務職員 松永 真由
2017.6.1 付
附属病院 看護師 山村 幸恵
2017.8.1 付
アドミッションセンター 事務職員 細井 康太
2017.8.21 付
教務学生課 事務職員 中川 燎
附属病院 看護師 藤井 菜摘
以上 2017.9.1 付
大学事務局 事務局長 児玉 孝
経理課 事務職員 武本 岳
附属病院 放射線技師 山元 和巳
以上 2017.10.1 付
附属病院 薬剤師 重田 紀子
2017.10.10 付
附属病院 看護師 樗木 香織
2017.12.1 付

所属異動

医事課地域医療連携担当 課長 今道 裕之
総務課 主任 赤石 孝博
アドミッションセンター 事務職員 真田 優子
以上 2017.4.1 付
医療保健学部事務室 看護師 今中 智子
2017.4.17 付

兼 務

病院事務部 病院事務部長 田中 武昌
医療保健学部事務室 主任 中辻ときみ
医療保健学部事務室 主任 北山恵美子
医療保健学部事務室 事務職員 東尾 麻由
以上 2017.4.1 付

兼務解除

病院事務部 病院事務部長 齊藤 広志
2017.4.1 付

依願退職

歯科保存学講座 助教 恩田 康平
経理課 課長 稲留 誠
以上 2017.5.31 付
附属病院 看護師 島本 真有
2017.6.7 付
附属病院 看護師 柳坂 兒子
2017.6.30 付
大学院課 事務職員 橋本 照美
2017.8.31 付
附属病院 放射線技師 一丸 千絵
2017.9.30 付
附属病院 看護師 上松 梨絵
2017.10.20 付
歯科麻酔学講座 講師 岸本 直隆
2017.10.31 付
附属病院 看護師 馬渡 佐知
2017.12.31 付

職員登用

設置事務室 課長 辻 知幸
教務学生課 課長 宮本 忠之
附属病院 歯科衛生士 伊藤 朱音
附属病院 歯科衛生士 藤田 優花
以上 2017.4.1 付
大学庶務課 事務職員 石丸 史彦
医事課 事務職員 川畑智世美
以上 2017.9.1 付
経理課 事務職員 高橋 直也
大学企画部 理事長・学長秘書 古川 理能
大学企画部 理事長・学長秘書 栞原 理沙
以上 2017.10.1 付
病院庶務課 事務職員 吉田 桃子
2017.12.1 付

委 嘱

客員教授 《歯学部》 螺良 愛郎, 五十嵐順正
朔 敬, 栗田 賢一
中川 秀幸, 荒井 昌海
丸山 浩, 水谷惟紗久
末瀬 一彦
《医療保健学部》 樋口 鎮央, 方 一如
Visiting Professor 朴 榮 國, 金 岩
Chitta Ranjan Chowdhury
金 麗甲, 飯塚 建行
Mark McGurk, 黄 純徳
Daniele Botticelli
以上 2017.4.1 付
嘱託 臨床心理士 辻野 達也, 安藤 麻紀
芦谷 道子
嘱託医師 楠葉保健室 嘱託医師 木田 博, 松木 隆典

昇 進

病院庶務課 課長補佐 中原しのぶ

嘱託 医師	西村 哲哉, 奥田 恵子, 森口久美子, 大串美奈子, 岩本 芳浩, 永井 由巳, 長央由里子, 朝子 幹也, 竹田 浩子, 吉田 麻美, 小野 泰之, 上野 裕, 飯田 拓二, 鶴身 暁子, 以上	2017.4.1 付	口腔外科第1科	長滝 裕也, 早川 知佳, 家森 厚司, 武田智香子, 植埜 修司, 栗岡 香美, 松下 巧, 野間 隆彰, 河野多香子, 中谷悠一郎, 柿原 理奈
嘱託 歯科医師	飯田 拓二, 以上	2017.4.1 付	口腔外科第2科	岡本 知子, 杉本 愛, 安井 大樹, 関 理泓, 辻本 聖直, 中島 章宏, 坂井 加奈, 中西ひとみ, 農端 健輔, 栗田麻祐子, 徳田 知子, 奥 佳葉, 大藪 桃子, 原 会美, 谷口真結子, 三原 広吏, 池田まりあ
臨床研修教育科科长 総合診療科、口腔リハビリテーション科科长代行 口腔診断科科长 キャリアセンター長	以上	2017.4.1 付	矯正歯科	障がい者歯科 歯科麻酔科
臨床教授	前田 照太, 青野 充, 覚道 健治, 以上	2017.4.1 付	口腔インプラント科	小児歯科
臨床准教授	徳永 徹, 森川 充康, 以上	2017.4.1 付	臨床研修教育科 総合診療・診断科	障がい者歯科 歯科麻酔科
臨床講師	森川 勝, 河村 達也, 西村 眞, 伊藤 公人, 中川 敏, 小室 甲, 小室 節代, 領木 誠一, 米田 晋也, 關 利啓, 山崎 行庸, 河野 渡, 河野 慈圓, 天羽 隆, 竹中 洋平, 中川 豪晴, 大森 義弘, 金尾 好章, 柳 美香, 小池 宏忠, 新原 拓也, 陳 明裕, 橋本 洋幸, 三上 淑子, 三上 豊, 三上 博子, 利森 仁, 佐々木 昇, 松村 好, 石原 綾子, 佐藤 康郎, 藤井 正久, 諸井 英徳, 小室 匡弘, 長尾 優, 佐古 好正, 大塚 俊裕, 安田 康治, 小川 清二, 赤根 昌樹, 山林 一公, 林 正純, 小室 美樹, 領内 茂, 岩本 浩, 坂本 吉史, 貴島真佐子, 山本 晴彦, 八竹 雅美, 松村 幸利, 藤原 成樹, 木岡 慶文, 奥田 教之, 河津 正文, 河津 祐之, 辰野 隆, 藤浪 庸介, 安部 逸世, 今上 英樹, 野津 繁生, 吉次 良師, 六本 裕嗣, 三宅 勝俊, 以上	2017.4.1 付	ポストドクトラルフェロー 欠損歯列補綴咬合学	蘇 英敏 2017.4.1 付
病院医員 保存修復科 歯内治療科	安井 綾, 廣田 陽平, 谷口 由樹, 野 佐保, 池永 圭孝, 中西 彩子, 丸尾 真喜		第一学年学年指導教授 教育アドバイザー 助言教員	藤原 眞一, 王 宝禮, 松本 秀範, 益野 一哉, 岡村 英幸, 森 淳秀, 藤田 淳一, 松原 英一, 平井 悠哉, 岡 隼人, 津田 進
歯周治療科	阿部総一郎, 石川 裕子, 栗本 卓武, 岡澤 華衣, 河崎 紀彦, 古川 裕平, 有馬 聡子, 北尾 徳嗣, 角谷美稚子, 中村 睦, 森鼻 大貴, 長藤由梨加, 長滝 晴菜		第二学年学年指導教授 教育アドバイザー 助言教員	王 宝禮, 藤原 眞一, 松本 秀範, 益野 一哉, 橋本 正則, 川島 涉, 李 嘉永, 藤本 哲也, 吉川 美弘, 真下 千穂, 秋山 真理
高齢者歯科	有馬 聡子, 角谷美稚子, 森鼻 大貴, 長滝 晴菜		第三学年学年指導教授 教育アドバイザー 助言教員	三宅 達郎, 今井 弘一, 河井まりこ, 南部 隆之, 松田 哲史, 片岡 宏介, 平野俊一朗, 本田 義知, 岡村 友玄
補綴咬合治療科(有歯)	伊東 優樹, 海原 卓也, 中尾 絵美, 中西 優佳, 豊田 俊恒, 山路 厚, 上田 晶子, 四方 教子		第四学年学年指導教授 学年指導教授補佐 C B T対策担当 教育アドバイザー 助言教員	今井 弘一, 三宅 達郎, 橋本 典也, 西川 哲成, 益野 一哉, 内橋 賢二, 上村 守, 隈部 俊二, 土居 貴士, 堂前 英資, 納富 拓也, 円山 由郷
補綴咬合治療科(欠損)	伊東 優樹, 海原 卓也, 中尾 絵美, 中西 優佳, 豊田 俊恒, 山路 厚, 上田 晶子, 四方 教子		第五学年学年指導教授 学年指導教授補佐 教育アドバイザー 調査担当 特別アドバイザー	前田 博史, 梅田 誠, 田村 功, 富永 和也, 王 宝禮, 有田 憲司, 中嶋 正博, 谷本 啓彰, 辻 則正

第六学年学年指導教授
 学年指導教授補佐
 教育アドバイザー
 調査担当
 特別アドバイザー

木村 大輔, 高橋 一也
 佐藤 正樹, 吉峰 茂樹
 松本 和浩, 窪 寛仁
 四井 資隆, 阿部 洋子
 西浦 亜紀, 大下 修弘
 梅田 誠, 前田 博史
 田村 功, 富永 和也
 王 宝禮, 益野 一哉
 有田 憲司, 中嶋 正博
 戸田 伊紀, 至田 宗泰
 上田 甲寅, 田中 順子
 鎌田 愛子, 緒方智壽子
 野崎 中成, 居波 薫
 井上 博, 山本さつき
 川本 章代, 山田 耕治
 大島 浩, 篠永ゆかり
 山根 一芳, 吉川 一志
 富永 和也, 大西 祐一
 橋本 典也, 小野 圭昭
 大草 亘孝, 新井 是宣
 蒲生祥子(秋山広徳), 加藤 裕彦
 田中 昭男, 田中 昌博
 益野 一哉, 田中 順子
 秋山 広徳
 谷岡 款相, 覺道 昌樹
 以上 2017.4.1 付

既卒者指導教授
 指導教授補佐
 特別アドバイザー

松本 尚之
 辻林 徹
 以上 2017.4.1 付

大阪歯科大学附属病院歯科医師臨床研修プログラム

総括責任者 森田 章介
 副総括責任者 山本 一世, 松本 尚之
 院内研修責任者 前田 博史
 院外研修責任者 梅田 誠
 保存系責任者 梅田 誠
 補綴系責任者 岡崎 定司
 口腔外科系責任者 森田 章介
 単独型プログラム責任者 紺井 拡隆
 複合型プログラム責任者 岡崎 定司
 単独型副プログラム責任者 大井 治正
 複合型副プログラム責任者 竹内 摂, 西川 郁夫
 田口洋一郎, 高橋 一也
 鳥井 克典, 西崎 宏
 山田 耕治, 大西 祐一
 有馬 良幸, 四井 資隆
 原田 京子, 加藤 裕彦
 新井 是宣, 米田 護
 伊達岡 聖

指導歯科医(単独型)

北野 忠則, 菊池 優子
 吉川 一志, 谷本 啓彰
 至田 宗泰, 西川 郁夫
 田口洋一郎, 緒方智壽子
 高橋 一也, 鳥井 克典
 藤井 孝政, 西崎 宏
 吉峰 茂樹, 山田 耕治
 大西 祐一, 有馬 良幸

指導歯科医(複合型)

原田 京子, 加藤 裕彦
 新井 是宣, 辰巳 浩隆
 米田 護, 伊達岡 聖
 吉川 一志, 谷本 啓彰
 恩田 康平, 保尾 謙三
 黄地 智子, 前田 博史
 至田 宗泰, 池永 英彰
 稲本 雄之, 辻 則正
 嘉藤 弘仁, 木村 大輔
 緒方智壽子, 津守 紀昌
 川本 章代, 奥野健太郎
 小野 圭昭, 井上 太郎
 渋谷 友美, 楠 尊行
 有川 香織, 田中 昌博
 田中 順子, 佐藤 正樹
 藤井 孝政, 覺道 昌樹
 福本 貴宏, 山本 真由
 中島 俊輝, 兼平 治和
 吉峰 茂樹, 山本さつき
 小正 聡, 坂井 大吾
 内藤 大介, 井関 富雄
 吉田 博昭, 福田あおい
 松島 由紀, 内田 理恵
 辻 要, 中嶋 正博
 窪 寛仁, 舘庭 秀也
 堀井 活子, 吉本 仁
 正重 裕一, 藤井 智子
 本橋 具和, 西浦 亜紀
 居波 薫, 安井憲一郎
 板垣 恵輔, 蒲生 祥子
 秋山 広徳, 篠永ゆかり
 阿部 洋子, 園本 美恵
 人見さよ子, 河合 咲希
 西村 貴子, 永田 幸子
 佐久間泰司, 岸本 直隆
 大郷英里奈, 大下 修弘
 柏木 隆宏, 原 朋也
 小林 信博, 辰巳 浩隆
 大西 明雄, 谷岡 款相
 樋口 恭子, 田中 佑人
 小正 玲子
 以上 2017.4.1 付

講師(非常勤委嘱)

《歯学部》
 解剖学講座
 清水 孝治, 中道 哲
 牧草 一人, 藤原 成樹
 松川 信夫, 池 宏海
 田中 毅彦, 多田羅久美子
 江原 大輔, 安田久理人
 黒木 克哉, 守下 綾香
 出口 孝明, 赤井 啓祐
 安光 秀人, 大西 吉之
 山本 洋幸, 椿井 孝芳
 安 春英, 藤原 士郎
 脇坂 聡, 松田 哲一
 三上 淑子, 三上 豊
 三上 博子, 竹内 雅規
 荻田 雄紀, 森下 愛子

口腔解剖学講座

生理学講座	富永 康彦 長谷川彰則 小山 なつ 岩崎 精彦 村上 浩孝 森 明彦 田中 一弘 辻 洋一	高井 規安 吉村 佳博 宮尾 治樹 岩住 征紀 大塚 俊裕 吉野修一郎 諏訪部 武 長澤 成明 高石 佳知 高屋 毅史 伊東 禎雄 有山金一郎 田中 義人 前田潤一郎 逸崎 宏 山形 栄二	口腔治療学講座	鈴木康一郎 熊崎 眞義 細見 環 巖 恭輔 寺田 行男 逸見 浩史 上田 佳世 吉川 伸 松田 孝之 柿木 栄幸 加藤 侑 敷内 崇督 神田 浩 和泉 雄一 寺西 義浩 釜谷 晋平 松田 正文 丹田 博巳 能登原靖宏 重松 伸寛 森田 浩正 田幡 元 伊崎 克弥 樋口 裕一 原 佳代子 額田 和門 北山 展弘 上田 章浩 藤岡宗之輔 西岡 良子 亀水 忠宗 廣田 秀逸 水井 雅則 長砂 孝 仲西 健樹 今井 敦子 佐古 好正 朴 康銘 鷹尾 智典 岡崎 全宏 藤井 隆晶 向井 憲夫 池田 直也 河村 達也 三谷 徹 奥田 啓之 呉本 晃一 島谷 肇 岡本 吉宏 田村 佳則 江藤 隆仁 金村 優吾 野阪 泰弘 岩田 光生 上村 直也 寺内 理恵 稗田 彩人 島 盛隆 大杉 泰敏	西田 尚敬 宮地 秀彦 速水 茂 上村 学 金村 成智 木村 喜彦 辻 一郎 堀 宏之 下村 容規 藤平 智広 堀 良之 大塚 健司 林 正純 岡西 裕公 中垣 直毅 福永 剛士 民上 良将 上田 実果 白石 真教 高橋 宰達 小石 玲子 大槻 榮人 田中 球生 右遠 英悟 芦田 貴司 浅井 崇嗣 氷見 彰敏 岩山 和史 上杉 直斗 吉岡 正隆 杉本 淳 柳田 昌宏 徳永 徹 田中 誠也 上田 直克 木村 公一 疋田 陽造 朴 燦眞 橋本 睦都 三木 仁志			
生化学講座	合田 征司 畑下 芳史 小坂 広之 中川 雅夫 倉阪 雅巳 岩佐 勝也 天方 靖治 上野 眞徳 野口 薫 田邊 順一 川口 佳夫 和田 聖二 佐久間 勲 畑 慎太郎 段 充 長尾 優 吉田 誠孝 井角 麻佑 瀧川 博嗣 福井 達也 神田 秀治 岡本 卓士 吉岡 三四 武内信二郎 河野 元一 林 昭典 日高 厚 西五辻理江 岩城 太 川原 大 森口 泰成 笥 晋平 吉田 貴光 上村 参生 平塚 靖規 井上 富夫 森野与史緒 野村 一夫 中川 哲也 高山 由希 日吉 紀子 内藤真理子 奥 忠之 井上 昌孝 南 昌宏 三木 秀治 藤田 昌弘 妻野 純朗 砂田 和久 岩本 圭司 大前 正範	武田 良一 河原 康二 西村 泰典 堀 晋作 川崎 昌英 辻本 憲吾 木村 彩子 廣田 健 古森 賢 小幡 登 九門 好彦 宮田 敏生 高山 昭則 村川 昇 野阪ひとみ 岩本 一哉 加藤 光司 三浦 康伸 上田 明博 善入 雅之 白井 翼 白石 雅照 村田 省三 小林 正憲 生内 信男 尾辻 淳 奥村 伸江 岡村 伸江 田中 秀直 安田恵理子 高島隆太郎 谷 哲 藤原 秀樹 河村 昌哲 吉原 正晃 廣瀬 泰明 廣瀬沙耶佳 白石 充 初岡 昌憲	歯周病学講座	高齡者歯科学講座	有歯補綴咬合学講座	欠損歯列補綴咬合学講座	口腔インプラント学講座	口腔外科学第一講座

口腔外科学第二講座	佐々木 昇, 小淵 匡清, 黒田 卓, 松本 康宏, 紙谷 仁之, 渡邊 信也, 竹山 旭, 山本 翔一	中川 誠仁, 卞 勝人, 木下 智, 白尾浩太郎, 松田彩起子, 伊藤 友彦, 河野多香子	文章表現 心理学 社会学 基礎情報科学 物理学 美術	石黒 義昭 藤本 美貴 馬込 武志 野村 孝久 住 淳一 及川 美沙	
歯科矯正学講座	仁木 寛, 角熊 雅彦, 杉立 光史, 郷 真奈武, 山崎 行庸, 濱本 和彦, 森 悠衣, 森下 寛史, 中村 裕, 細山 勝道, 中川 学, 金 漢俊, 山田 尋士, 関 詔夫, 岡林 聡, 蓮舎 寛樹, 岡下慎太郎, 上杉 美香, 坂井 加奈, 川植 康史, 釜田 博史, 坂本 健吾, 青木 秀哲	有家 巧, 赤根 昌樹, 柚木 大和, 林 秀一, 岩崎 春美, 阪本 貴司, 山本 浩貴, 井上 雅裕, 後藤 基宏, 大浦 寿哉, 高橋 啓, 大矢 卓志, 大塚 重雄, 速水 勇人, 本田 領, 山本 昌宏, 荒垣 芳元, 永田 雄己, 廖 文, 松本 義之, 川崎 靖典, 林 靖久	小児科学 外科学 医療統計学 皮膚科学 精神科 兼担者 眼科学 耳鼻科	佐藤 衆一, 柿本 真音, 白樫優右子	辻 章志 杉江 知治 山下 哲平 谷村 裕嗣 三井 浩
歯科放射線学講座	池本 博之, 大道 士郎, 佐伯 克彦, 中村 弘之, 原 直仁, 深尾 正, 池尾元三朗, 大東 希好, 河合 峰雄, 杉岡 伸悟, 安留 輝之, 釜田 隆, 松田 佳子, 弘兼 素子, 越沼 静, 岡 俊一, 井東 竜彦, 中田 雅代, 岡崎 俊朗, 米田 修, 奥田 恵子, 原川 奈梨, 森口久美子,	石井 信行, 梶本祐一郎, 大東 美穂, 濱田 義彦, 松尾 博之, 中野 智子, 竹安 正治, 邱 秀慧, 徳永 敦, 山内 義之, 水野 誠, 孫 弘樹, 山下 智章, 安東 大器, 水本 一弘, 岡本 吉彦, 山林 一公, 田中千織子, 梅原 久範, 薬師寺健太郎, 宮地 理彦, 金下 祐己, 長野 豊	大学院歯学研究科 歯科保存学 欠損歯列補綴咬合学 歯科保存学	清原 隆宏,	岩田 有弘 前田 武志 2017.4.1 付 古澤 一範 2017.9.1 付
小児歯科学講座					
歯科麻酔学講座					
内科学講座					
講座教室外 上級会話・リスニング		Green Kieran Bernard MacMuge			
ドイツ語	湯浅 美季,	武田 良材			
			《医療保健学部》 江原 杏子, 井上よう子, 石黒 義昭, Kieran Green, 瀧本 真己, Bernard MacMugen 白 雨田, 山下 哲平, 池尾 隆, 山中 武志, 真下 千穂, 頭山 高子, 辻林 徹, 竹村 明道, 内橋 賢二, 岡村 英幸, 河井まりこ, 松原 英一, 以上	東山 朋代 荒井 昌海 梶原 佳子 高城 大 野村 孝久 森田婦美子 油谷 佳典 王 宝禮 南部 隆之 梶 貢三子 隈部 俊二 檜 則章 藤原 真一 藤田 淳一 上村 守 戸田 伊紀 川島 涉 2017.4.1 付 下川 泰子 2017.9.1 付	
			兼担者		
			歯科技工士専門学校講師 (非常勤)		
			藤田 淳一, 橋本 典也, 竹村 明道, 川島 涉, 中塚美智子, 檜 則章, 内橋 賢二, 南部 隆之, 田中 昌博, 藤井 孝政, 佐藤 琢也, 内藤 大介, 楠 尊行, 有田 憲司,	今井 弘一, 都賀谷紀宏, 戸田 伊紀, 田村 功, 藤原 真一, 李 嘉永, 池尾 隆, 円山 由郷, 田中 順子, 鳥井 克典, 岡崎 定司, 高橋 一也, 松本 尚之, 阿部 洋子,	大島 浩 山添 正稔 上村 守 隈部 俊二 岡村 英幸 西川 泰央 王 宝禮 三宅 達郎 佐藤 正樹 新井 是宣 西崎 宏 渋谷 友美 飯田 拓二 山本 一世



宮地 秀彦, 清水谷公成, 森田 章介
中嶋 正博, 加藤 裕彦, 大郷英里奈
末瀬 一彦, 山下 恒彦, 森下 裕司
西川 哲成, 高橋 恵美, 中島 賢
畠中 利英, 中野田紳一, 西村 元彦
東 宗秀, 内藤 徹, 林 美己
弓場 信三

以上 2017.4.1 付

歯科衛生士専門学校講師 (非常勤)

二宮 幸大, 竹村 明道, 戸田 伊紀
上村 守, 川島 渉, 西川 泰央
内橋 賢二, 池尾 隆, 鎌田 愛子
田村 功, 隈部 俊二, 中塚美智子
和唐 雅博, 王 宝禮, 南部 隆之
大浦 清, 野崎 中成, 西五辻理江
神 光一郎, 土居 貴士, 上根 昌子
末瀬 一彦, 山本 一世, 吉川 一志
黄地 智子, 辻 則正, 稲本 雄之
梅田 誠, 田口洋一郎, 嘉藤 弘仁
高橋 一也, 柿本 和俊, 有川 香織
中嶋 正博, 伊達岡 聖, 田中 昌博
田中 順子, 鳥井 克典, 藤井 孝政
福本 貴宏, 山本 真由, 中島 俊輝
岡崎 定司, 坂井 大吾, 西崎 宏
小正 聡, 内藤 大介, 森田 章介
松島 由紀, 松本 尚之, 有馬 良幸
清水谷公成, 秋山 広徳, 蒲生 祥子
笹垣三千宏, 有田 憲司, 篠永ゆかり

百田 義弘, 佐久間泰司, 加藤 裕彦
大郷英里奈, 大下 修弘, 大久保 直
澤井 宏文, 宮永 史子, 磯谷 俊明
米谷 裕之, 辰巳 浩隆, 辻 一起子
馬場 俊輔, 新井 是宣, 東山 朋代
江原 杏子, 山下 政代, 白本 鏡子
川原 幹夫, 中村 亜紀, 渡邊 功
林 正純, 福井 和枝, 入江 隆子
福澤美智子, 中塚美智子, 糸田 昌隆
石井 美和, 衣笠 瑞子, 高田橋美幸
藤林由利安, 上野 美奈, 南部 智子
岩野 卓, 隅田 好美, 森田婦美子
木村 葉子, 田村 照美, 筒井 睦
北垣 志麻, 前田留美子, 今西麻友美
後藤 晶, 河内 博子, 加藤 有加
谷 亜希奈, 大草 亘孝
以上 2017.4.1 付

あとかぎ

今号では、2017年4月に新設した医療保健学部を特集してご紹介しました。歯学部に次いで、本学創立から1世紀を経て誕生した医療保健学部。開設後は、さまざまな面で学内に新風を吹きこんでいます。

一期生たちは学業に、課外活動に、時に戸惑いを覚えつつも、元気に大学生活を謳歌している模様。「一期生だから迷うこともあるけれど、自分たちで新しく創っていけるのは一期生ならではの魅力」「歯科衛生士だけでなく社会福祉士や医療事務の資格も取得できるのが最大の魅力」「同じ夢を持つ友だちができたことが嬉しい楽しい」「実習が始まりしんどい部分もあるけれど、みんなで頑張るのできっと最後まで頑張れる」など、それぞれの思いを話してくれています。

こうした一期生たちの「生の声」は、リニューアルした本学ホームページの口腔保健学科、口腔工学科ページに『VOICE』として掲載しています。ぜひ併せてご覧ください。

口腔工学科は、私大初の4年制歯科技工士養成機関として社会的にも注目を集める中スタートしましたが、全国的に技工士養成学校への入学者数が減少傾向にある昨今、決して順風満帆な船出とは言えません。むしろ取り巻く状況は厳しいと言うべきでしょう。そうした中、柿本和俊・同学科長は、歯科技工士を養成し続け歯科医療に貢献することは「歯科大学の使命」であり、本学の建学の精神である「公益」に適うものであると語っています。

本号では一期生の入学式の様子をお伝えしたばかりですが、2018年4月には第二期生94名が入学しています。同時に医療保健学部を基礎とする大学院医療保健学研究所が開設され、1学年の定員を超える14名が入学しています。

学生と教職員が一丸となり、これから時をかけて、医療保健学部独自の良き学風が築かれていくことが願われます。

大阪歯科大学広報 第 179 号

2017.04.01 ~ 2017.12.31

発行月 2018 年 12 月
編集発行 大阪歯科大学広報委員会
〒 573-1121
枚方市楠葉花園町 8-1
TEL 072-864-3001
